

市民意見リーダー 調査結果報告書

(2024 年度)



郡山市

< 目 次 >

I 調査概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の項目	1
3. 調査の設計	1
4. 集計・分析にあたって	2
5. グラフの種類	2
6. 回収率	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代別	3
(3) 回答方法別	3
(4) 職業別	3
(5) 居住年数別	3
(6) 居住形態別	3
(7) 地域別	4
(8) 現住所の直前の居住地別	5
(9) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)	5
8. 回答者の属性《地域別集計》	6
9. 回答者の属性《年代別集計》	12

II 調査結果

1. 幸福度の現状について	13
(1) 幸福度	13
(2) 幸福度の判断の際に重視した事項(複数回答)	15
2. 郡山市の住みやすさなどについて	23
(1) 住みやすさへの評価	23
(2) 今後の居留意向	26
3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度	29
(1) まちづくりへの満足度結果一覧	29
(2) これからの取組み重要度結果一覧	33
(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》	36
(4) 分野別属性別満足度結果	38
(5) 分野別属性別重要度結果(複数回答)	52

4. 誰一人取り残されないユニバーサルデザインのまちづくり について	54
(1) ユニバーサルデザインの認知状況	54
(2) 思いやりの心について	56
(3) 市内施設の利用しやすさ	58
(4) 市内の道路などの利用しやすさ	60
(5) 市が発信する情報の理解のしやすさ	62
(6) 市の取組みに対する満足度	64
(7) 優先的に取り組むべき分野（複数回答）	66
(8) ユニバーサルデザインのまちづくりについての意見等（自由記載）	70
5. 市への意見や要望など	72
【分野Ⅰ】 産業・仕事の未来	72
【分野Ⅱ】 交流・観光の未来	72
【分野Ⅲ】 学び育む子どもたちの未来	73
【分野Ⅳ】 誰もが地域で輝く未来	73
【分野Ⅴ】 暮らしやすいまちの未来	74
【分野Ⅵ】 基盤的取組	75
 (付) 調査票様式	
調査票	77

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

時代とともに変化する市民意見の動向と現在の多様なニーズを把握し、今後の本市施策、事業の検討、推進、評価等の基礎データとして活用するために実施しました。

2. 調査の項目

- (1) 幸福度の現状について… 2 問
- (2) 住みやすさについて… 2 問
- (3) まちづくりについて（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 6 分野 43 項目についての満足度）… 43 問
- (4) これからの取組について（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 6 分野 43 項目についての重要度）… 1 問
- (5) 誰一人取り残されないユニバーサルデザインのまちづくりについて… 8 問
- (6) 対象者の基本属性について… 8 問
- (7) 市への意見や要望など（自由記載）… 1 問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：郡山市全域
- (2) 調査対象：郡山市内に在住する満 18 歳以上の者
- (3) 標 本 数：1,500 人（男性 750 人、女性 750 人）

<内訳>

		標 本 数	性 別		年 代 別						
			男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全 体		1,500	750	750	32	186	220	273	276	263	250
地 区 別	旧市内	564	275	288	13	72	80	101	112	100	86
	富田	123	61	62	2	17	21	24	22	19	18
	大槻	151	74	77	4	17	20	28	27	26	29
	安積	160	79	81	4	20	24	30	28	26	28
	三穂田	18	10	8	0	2	2	3	3	4	4
	逢瀬	18	10	8	0	2	2	3	3	4	4
	片平	29	14	15	0	3	4	6	4	6	6
	喜久田	57	29	28	2	7	9	12	10	8	9
	日和田	48	25	23	1	6	8	9	8	8	8
	富久山	177	89	88	4	25	32	33	32	28	23
	湖南	12	7	6	0	0	1	1	2	4	4
	熱海	23	12	11	0	2	2	3	4	6	6
	田村	80	43	37	2	9	11	14	13	15	16
	西田	19	10	9	0	2	2	3	4	4	4
	中田	21	12	9	0	2	2	3	4	5	5

- (4) 抽出方法：住民基本台帳(令和6年5月1日現在)からの年代、地域を考慮した無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による調査票の配布・回収、インターネットでの返信
- (6) 調査期間：2024（令和6）年5月30日～6月14日（16日間）
- (7) そ の 他：これまで「市民意識調査」として2009年度から実施。アンケートの回答は市民の皆さまの意見としていただくものであることから、2018年度から「市民意見レーダー」と名称を変更。

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないこともあります。
例：回答者総数3人で、「はい」：1人（33.3%）、「いいえ」：1人（33.3%）、「無回答」：1人（33.3%）の場合等、合計しても必ずしも100%とはならない。
- (3) 図表中の数値（%）の合計と分析文中の数値（%）の合計は、数値（%）を単位未満四捨五入している影響により一致しないことがあります。
- (4) 複数回答の場合、回答者総数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超えることがあります。
- (5) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢があります。

5. グラフの種類

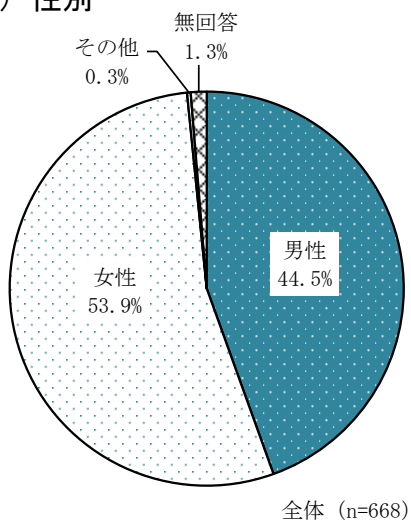
- (1) 棒 グ ラ フ：棒の長短で数量の大小を比較します。
- (2) 折れ線グラフ：時間経過を沿って数量の変化や傾向を示します。
- (3) 円 グ ラ フ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。
- (4) 帯 グ ラ フ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。異なる帯グラフを並べることで、項目の構成比の変化を捉えることができます。
- (5) 散 布 図：2つの変量の相関関係を示します。横軸と縦軸にそれぞれ別の量を取り、データが当てはまる場所に点を打って示すグラフです。

6. 回収率

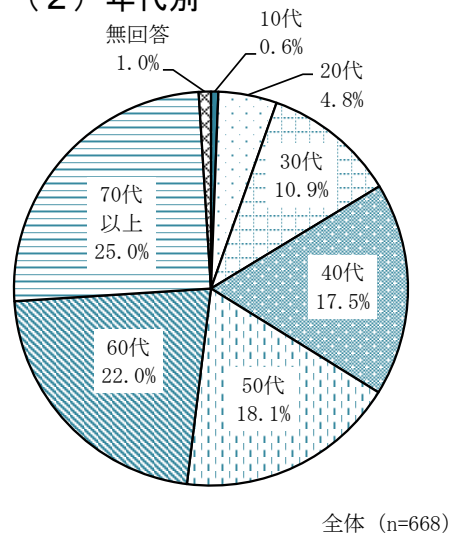
- (1) 有効回収数：668 件
- (2) 有効回収率：44.5%（対前年比 +2.2 ポイント）

7. 回答者の属性

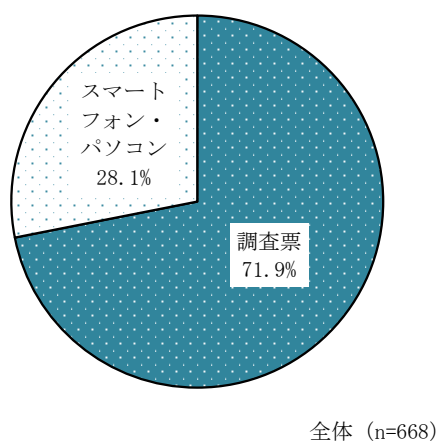
(1) 性別



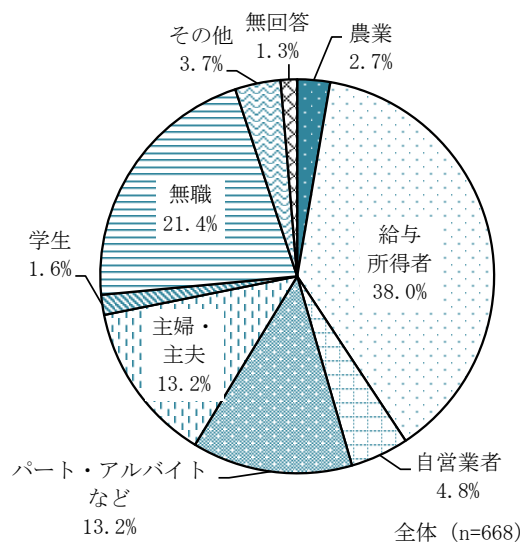
(2) 年代別



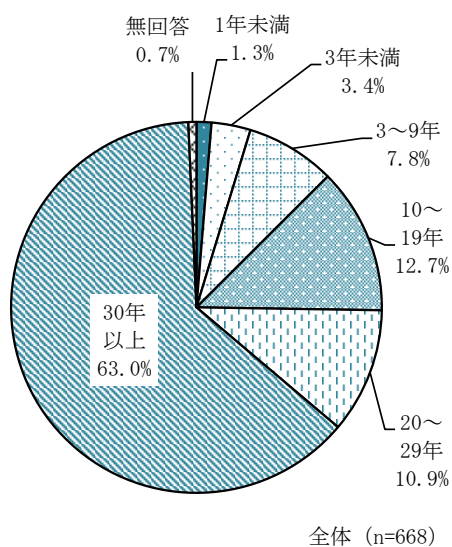
(3) 回答方法別



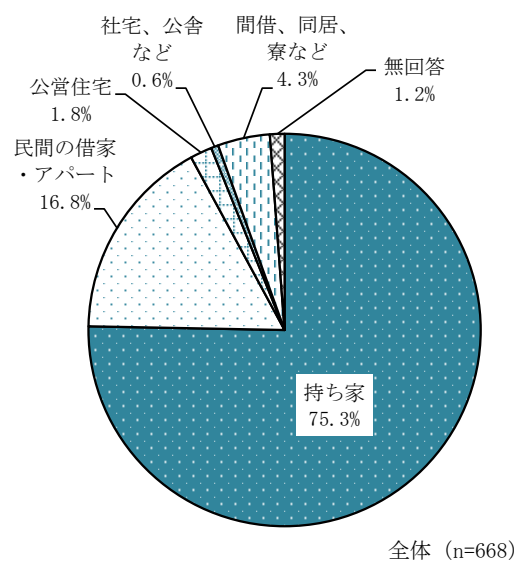
(4) 職業別



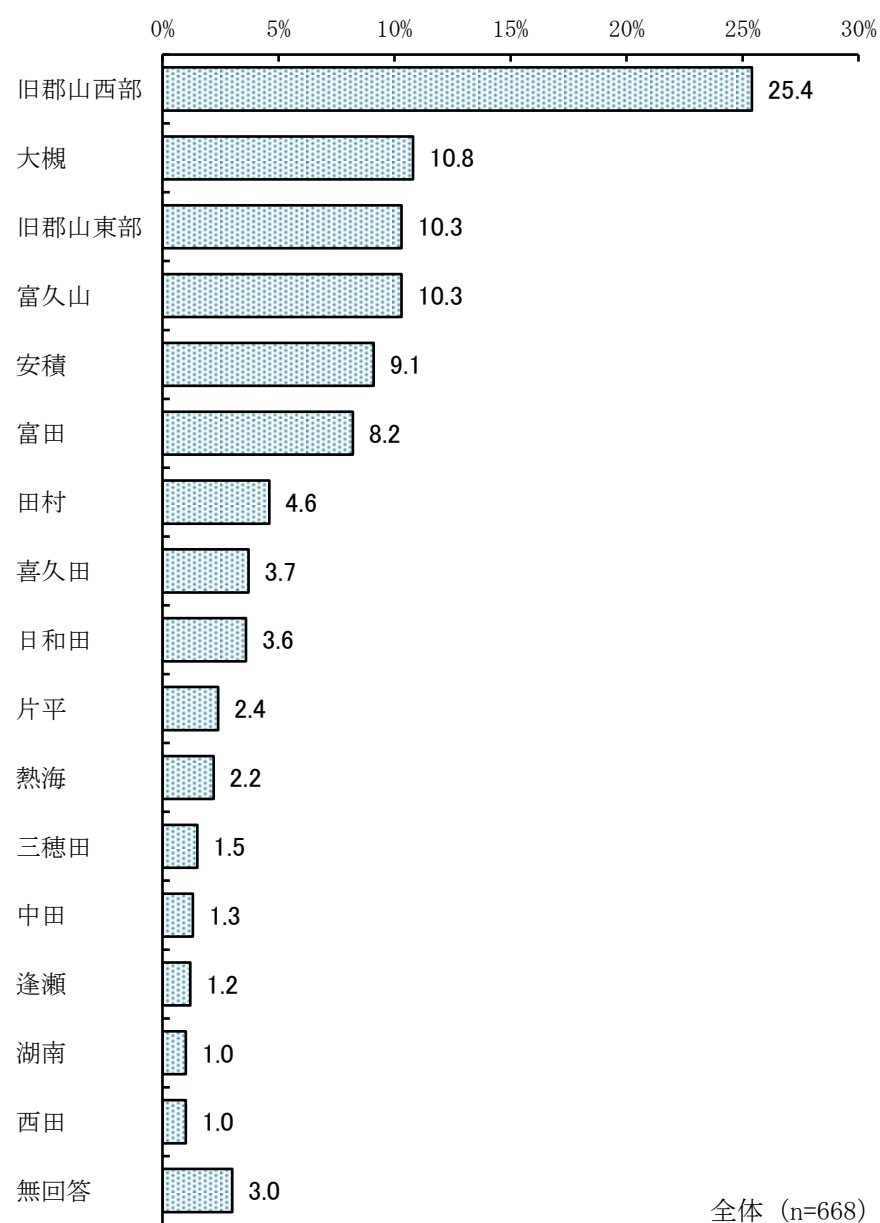
(5) 居住年数別



(6) 居住形態別



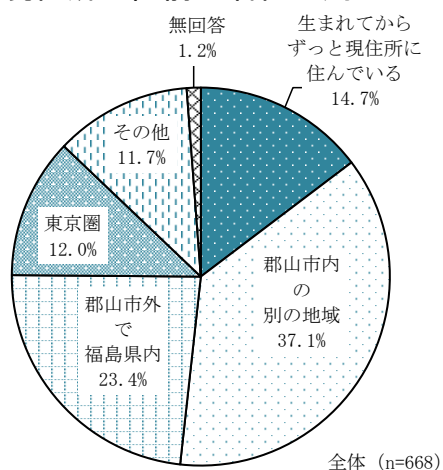
(7) 地域別



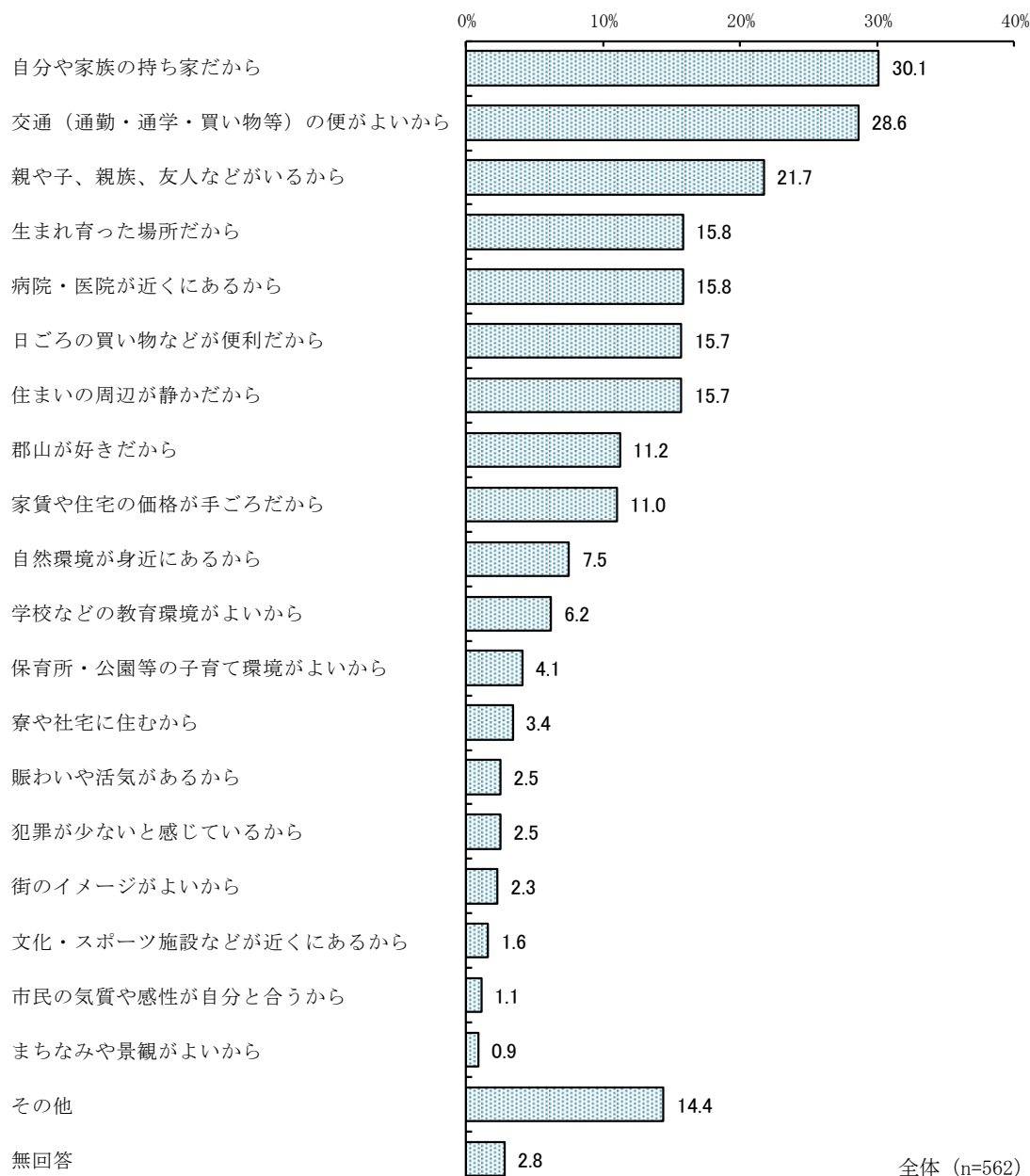
※ 旧郡山東部・・・芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など

※ 旧郡山西部・・・駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外

(8) 現住所の直前の居住地別

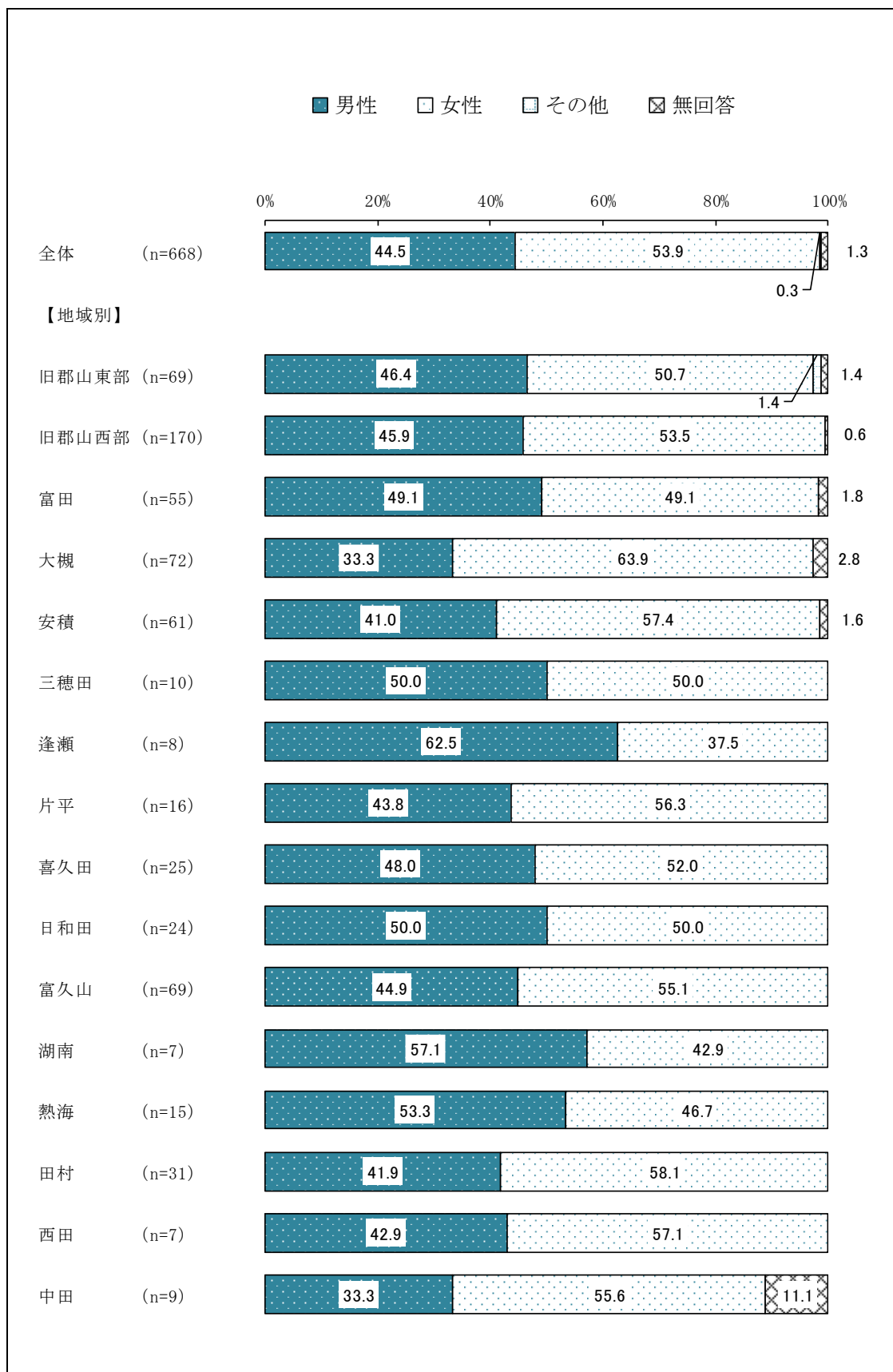


(9) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)

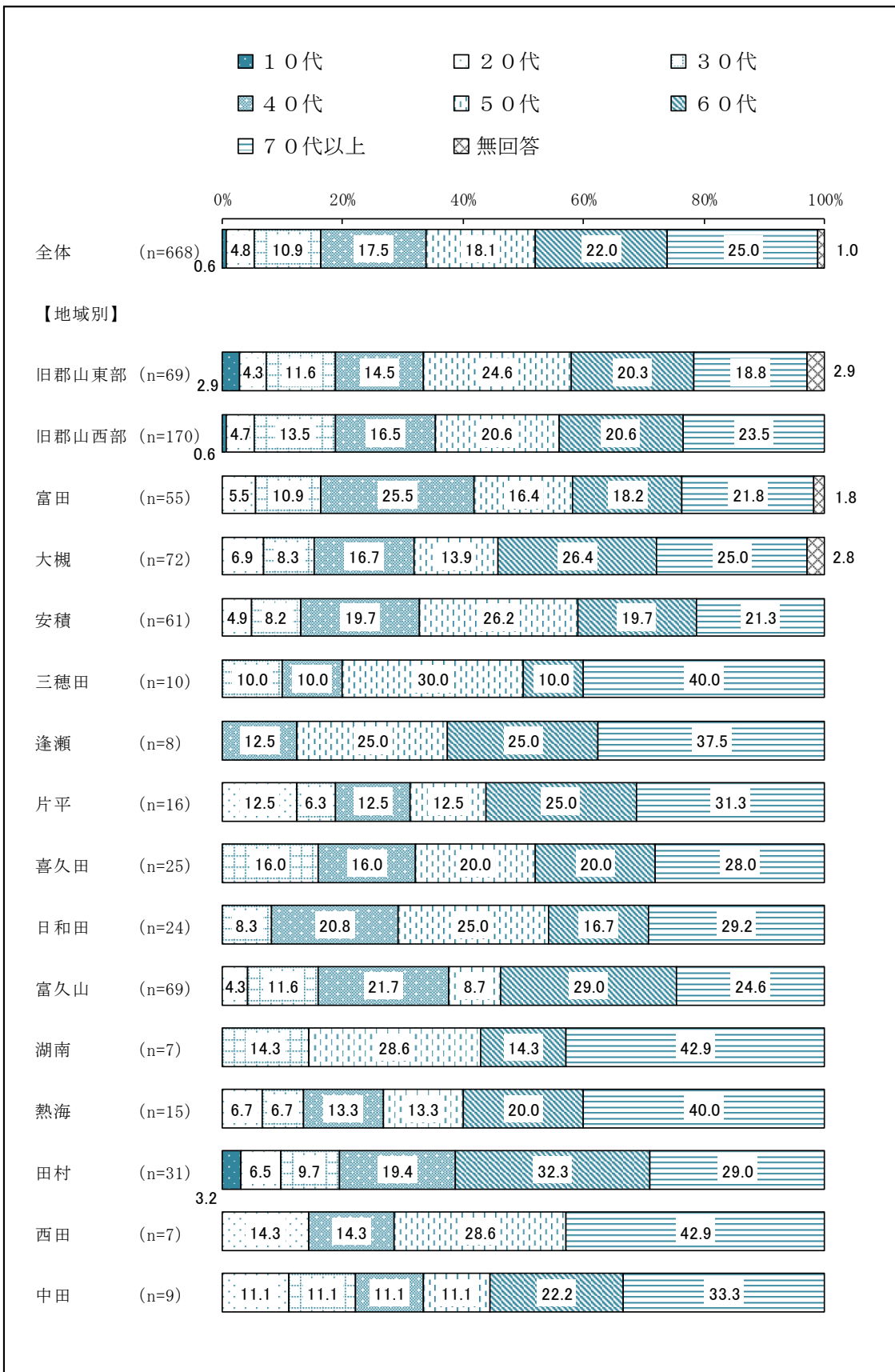


8. 回答者の属性《地域別集計》

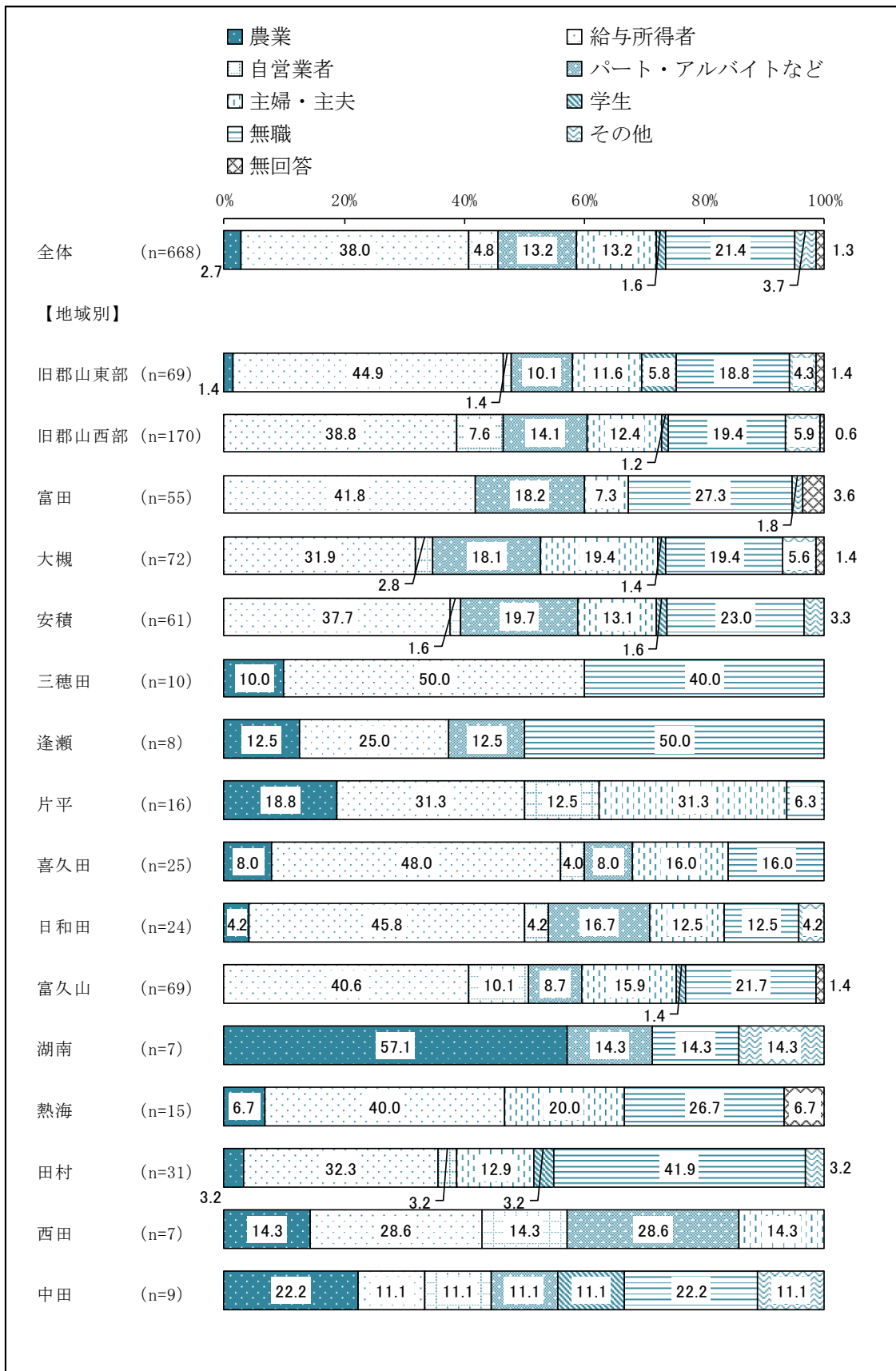
【性別】



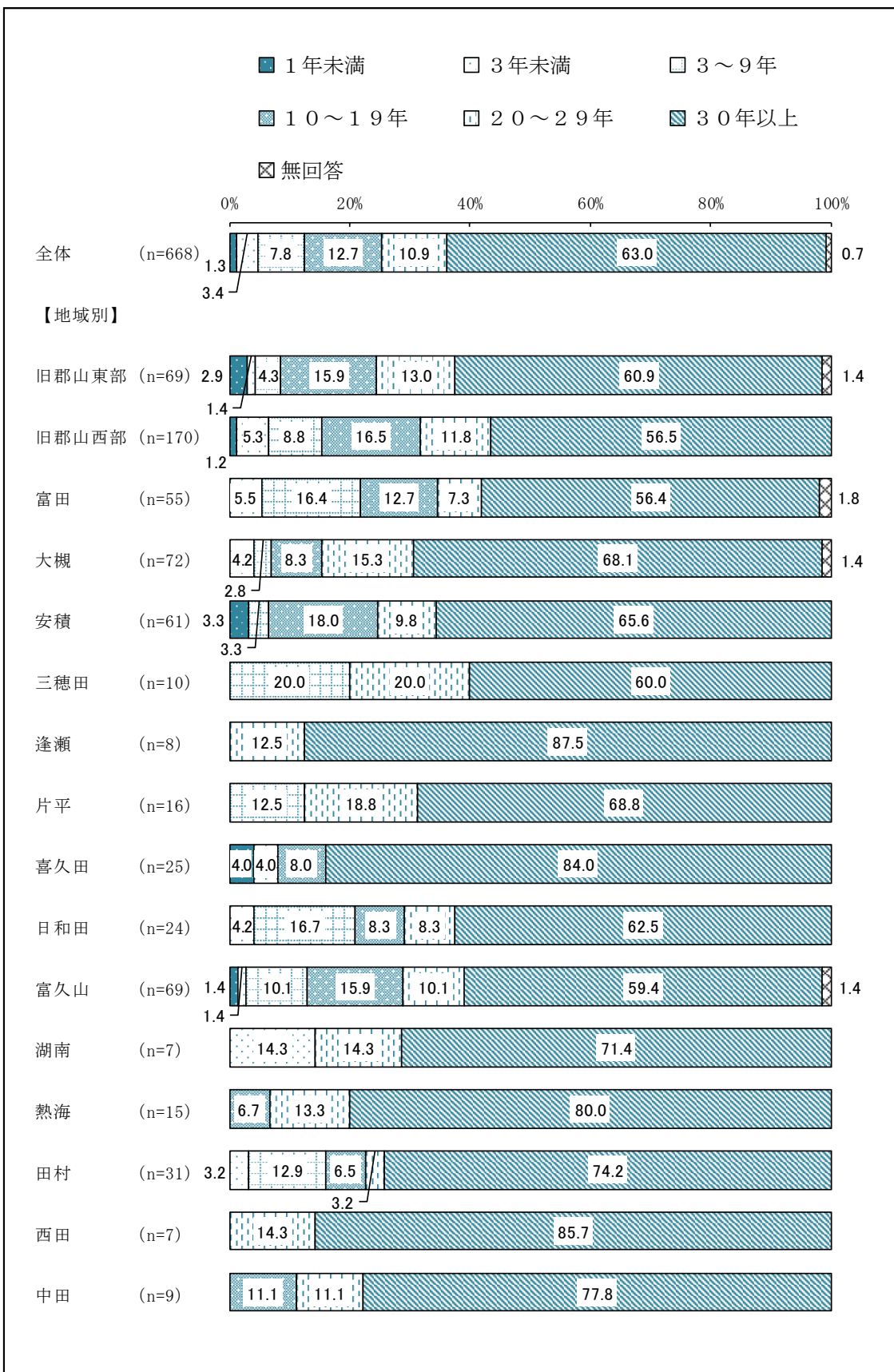
【年代別】



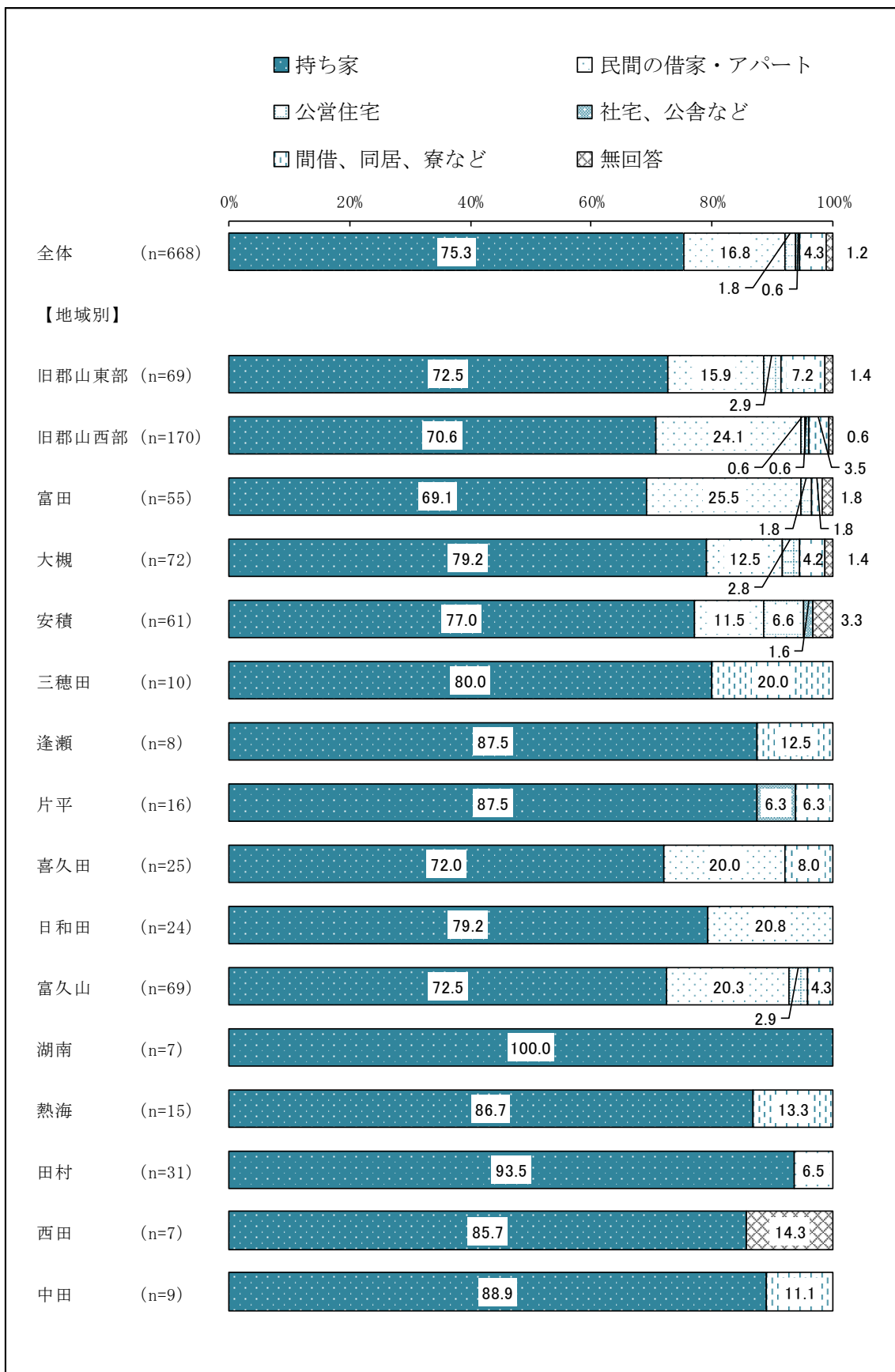
【職業別】



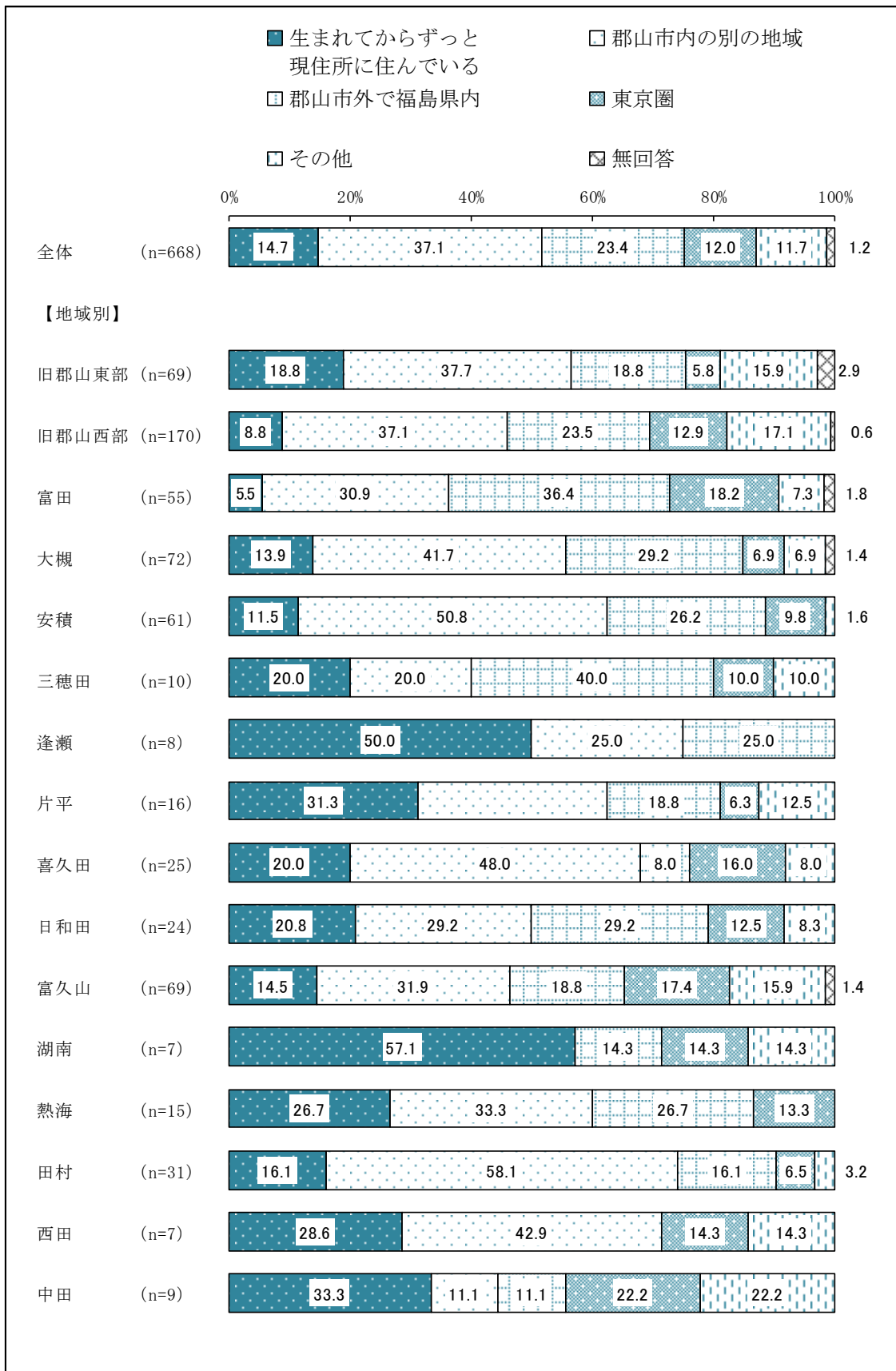
【居住年数別】



【居住形態別】

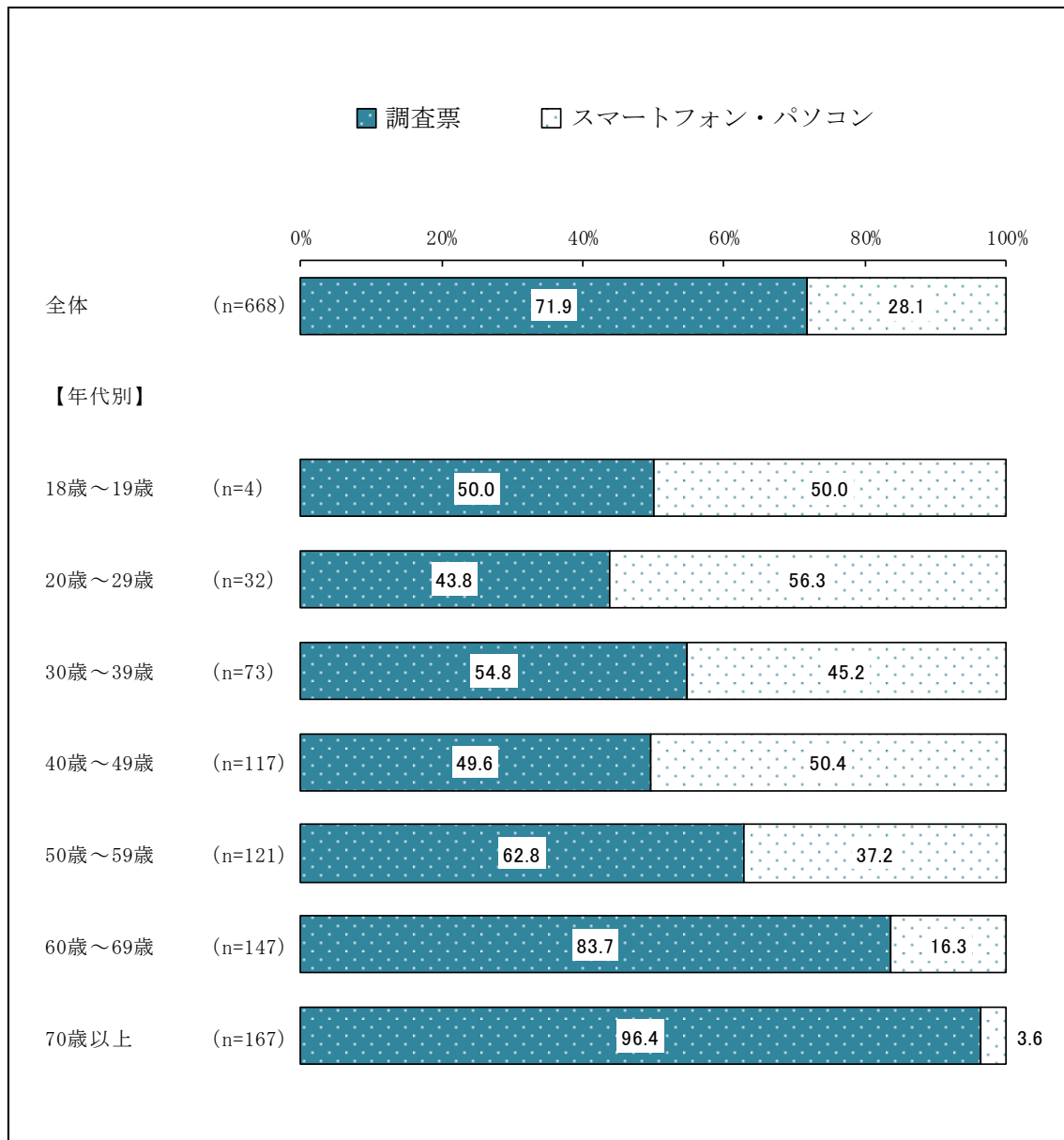


【直前の居住地別】



9. 回答者の属性《年代別集計》

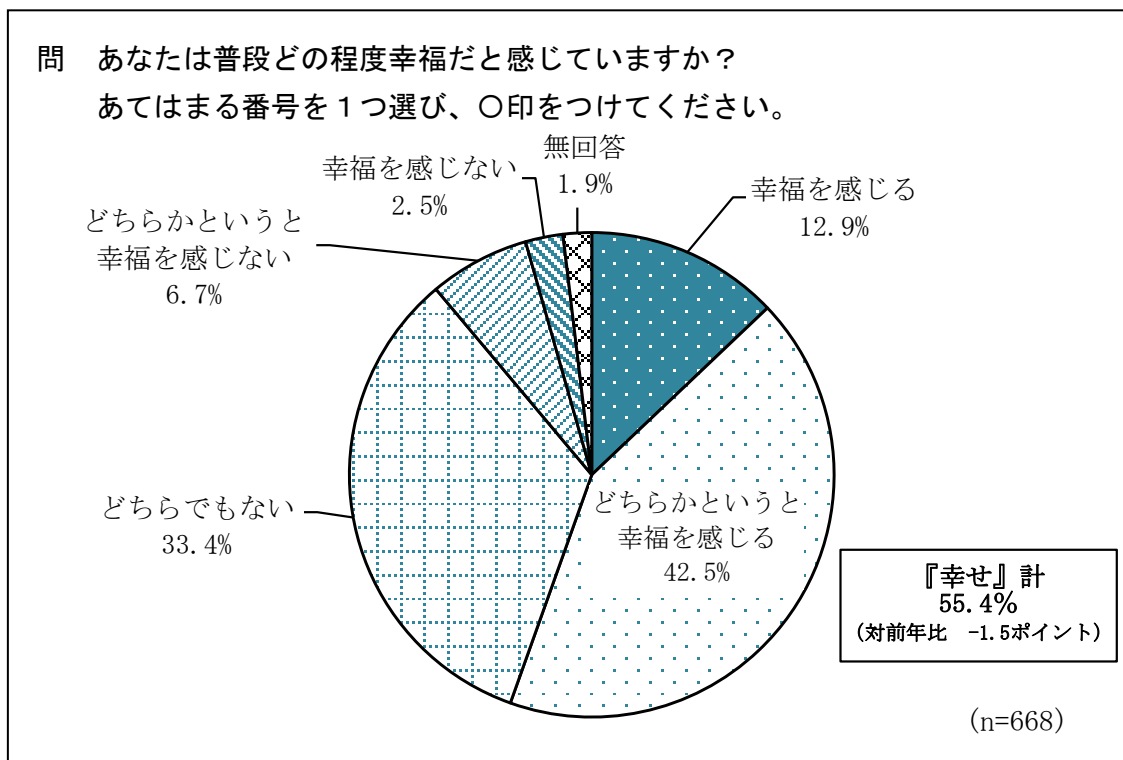
【回答方法別】



Ⅱ 調 査 結 果

1. 幸福度の現状について

(1) 幸福度



半数以上の市民は幸せと感じています

【全体結果】

「幸福を感じる（とても幸せ）」(12.9%)と「どちらかというと幸福を感じる（どちらかというと幸せ）」(42.5%)の両者を合計すると『幸せ』(55.4%)となっています。

一方、「どちらかというと幸福を感じない（どちらかというと不幸せ）」(6.7%)と「幸福を感じない（不幸せ）」(2.5%)を合計すると『不幸せ』(9.2%)となっています。

【属性別結果】(図 1-1 参照)

① 性別

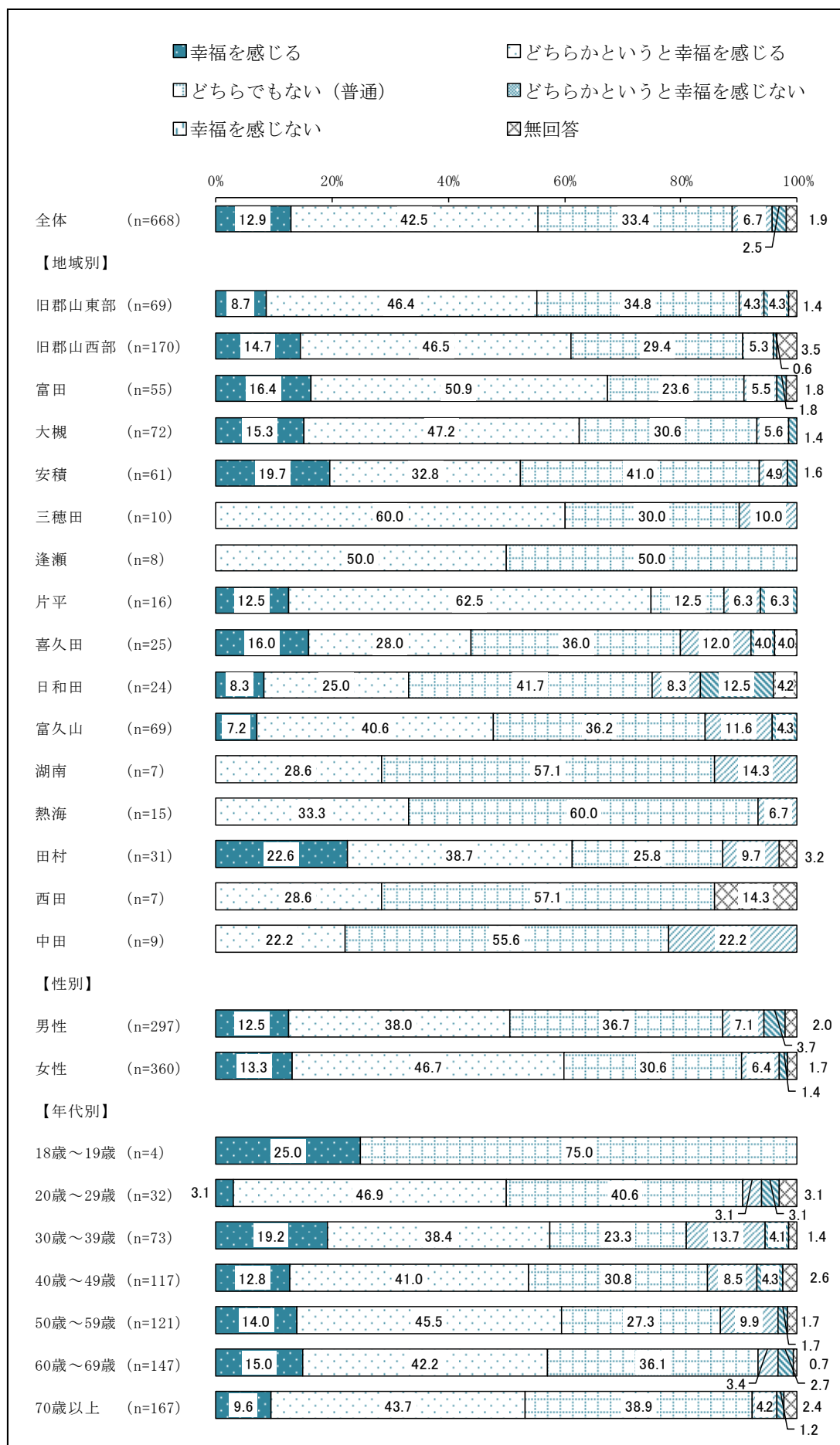
『幸せ』の割合は、女性(60.0%)の方が男性(50.5%)よりも高くなっています。

② 年代別

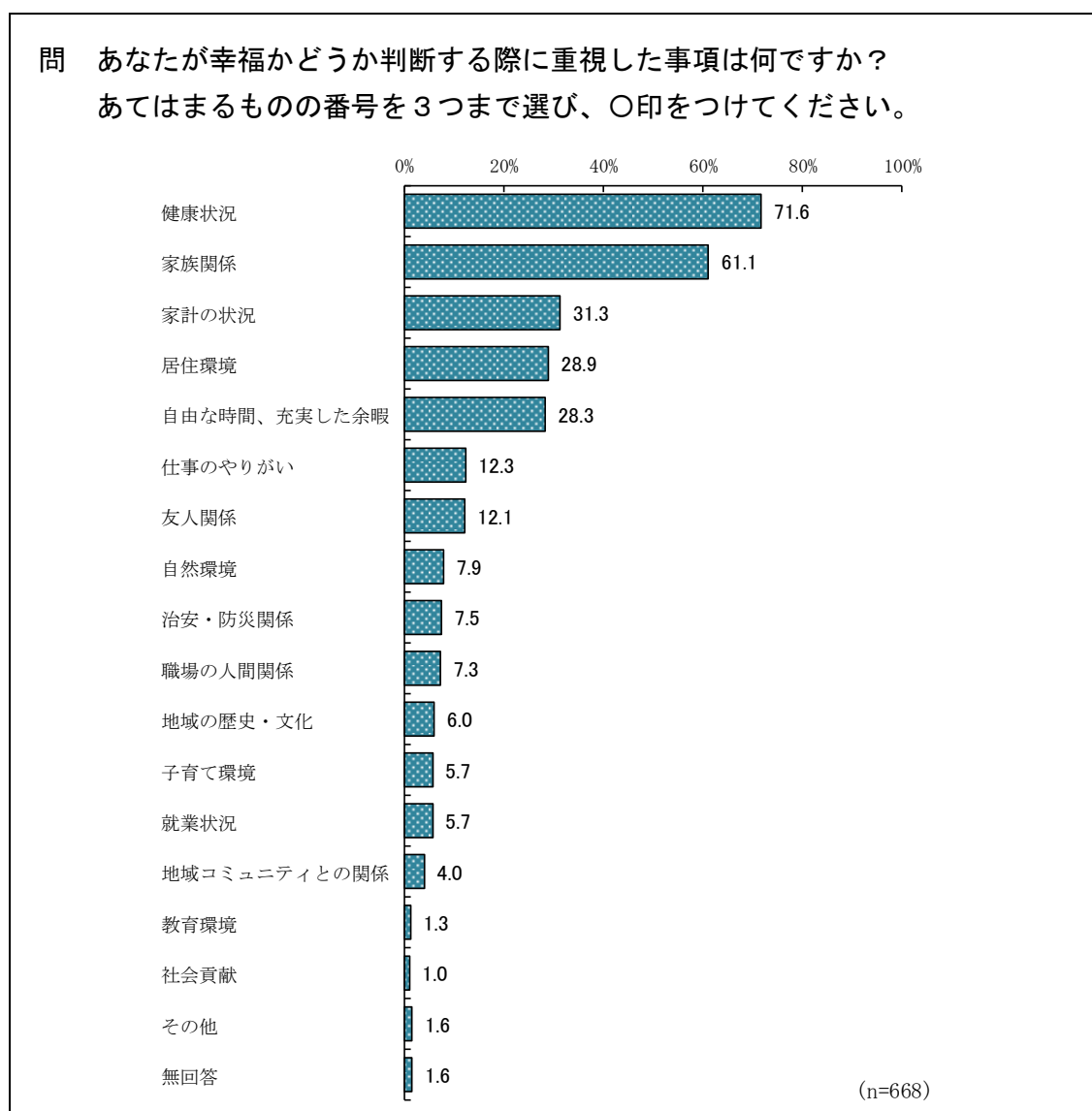
『幸せ』の割合は、50代(59.5%)で最も高くなっています。

なお、10代については回答数が少ないため、参考として数値のみ掲載します(以降同様)。

図 1 - 1 幸福度（地域別／性別／年代別）



(2) 幸福度の判断の際に重視した事項（複数回答）



幸福度の判断には「健康状況」、「家族関係」を重視

【全体結果】

幸福かどうか判断する際には「健康状況」（71.6%）、「家族関係」（61.1%）が特に重視されており、以下、「家計の状況」（31.3%）、「居住環境」（28.9%）、「自由な時間、充実した余暇」（28.3%）の順に続いています。

※WHO憲章では「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、すべてにおいて満たされた状態（well-being）にあることをいう」と定義されています。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 性別

「健康状況」（男性：66.3%、女性：76.7%）と「友人関係」（男性：9.4%、女性：14.4%）については、女性の方が男性より高い割合で関心を持っているのに対して、「仕事のやりがい」（男性：15.8%、女性：9.2%）と「就業状況」（男性：8.4%、女性：3.3%）に関しては、男性の方が女性より高くなっています。

② 年代別

20代では「自由な時間、充実した余暇」に重点を置き、30～50代では「健康状況」や「家族関係」を重視し、高齢層では「健康状況」に加え、「居住環境」も重要視しています。

図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～1/6～（地域別／性別／年代別）

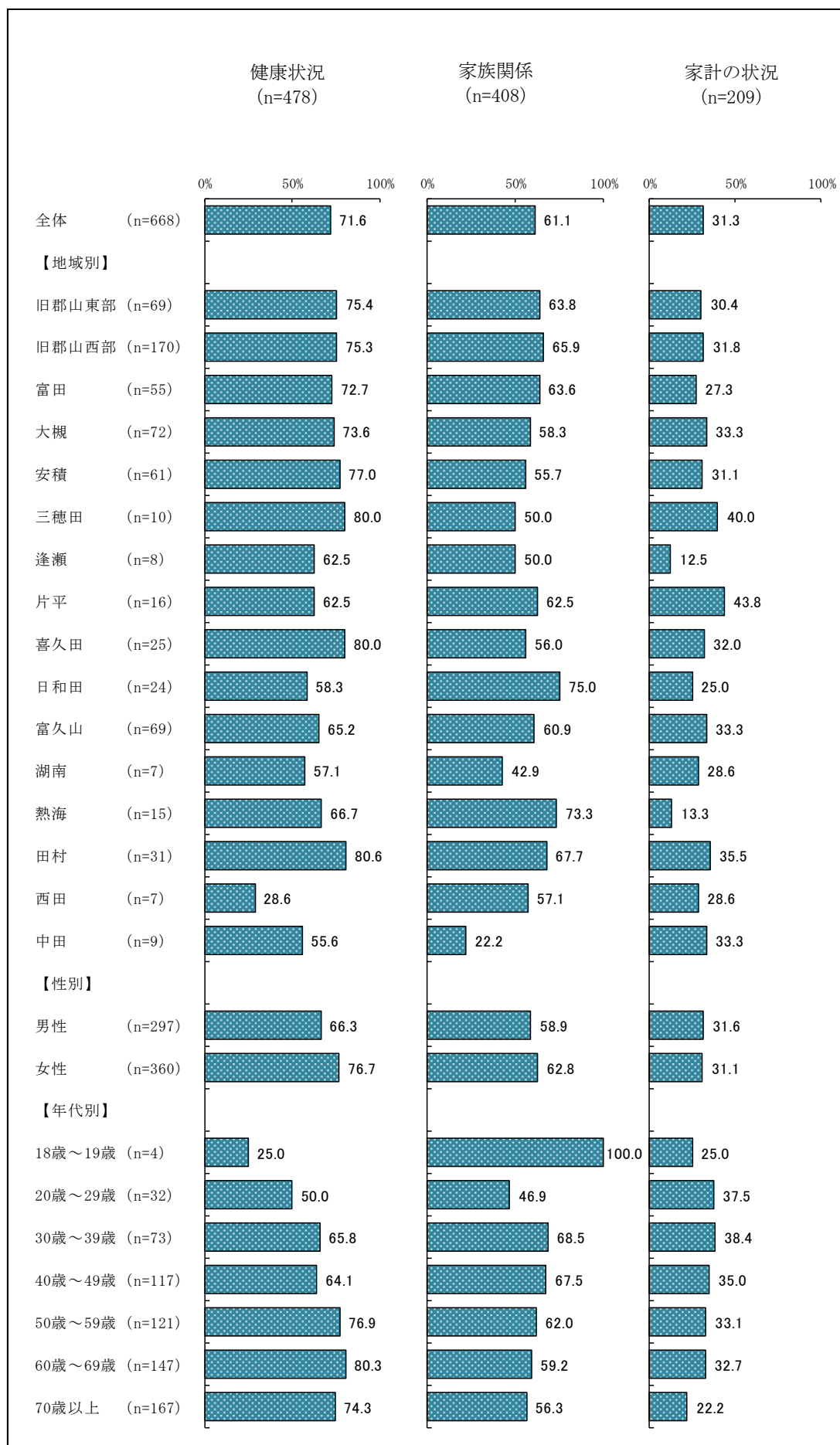


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～2/6～（地域別／性別／年代別）

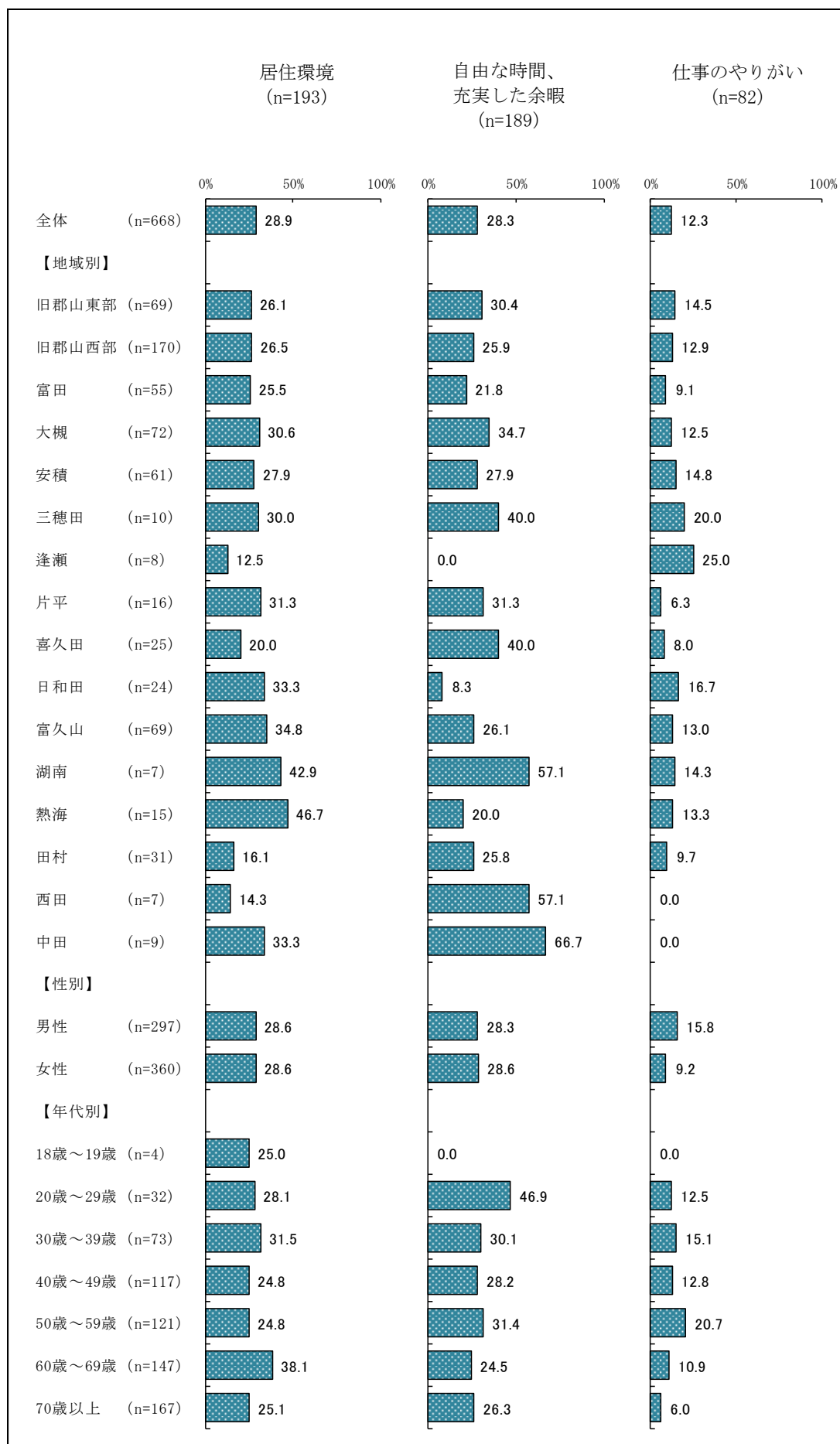


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～3/6～（地域別／性別／年代別）

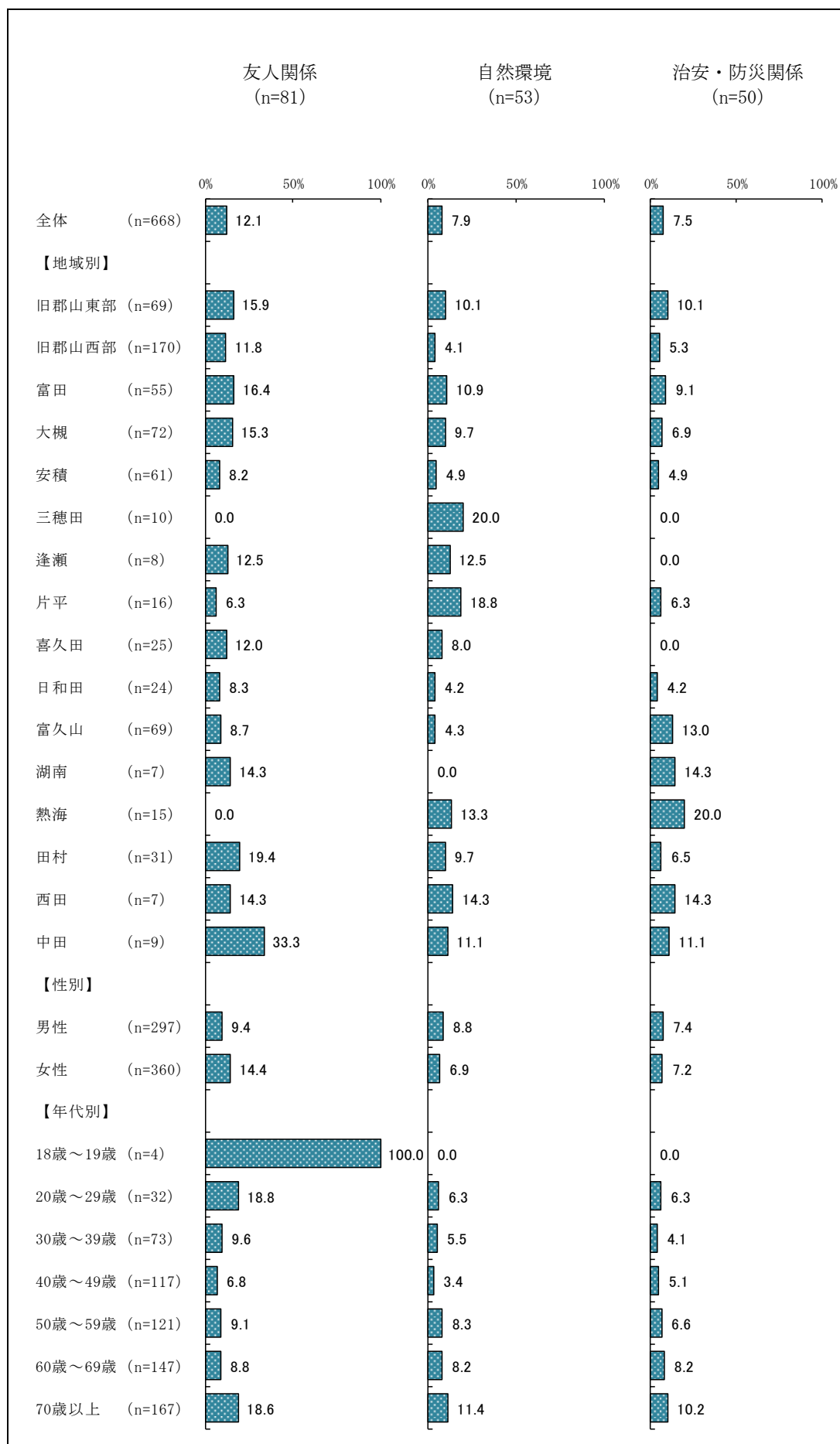


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～4/6～（地域別／性別／年代別）

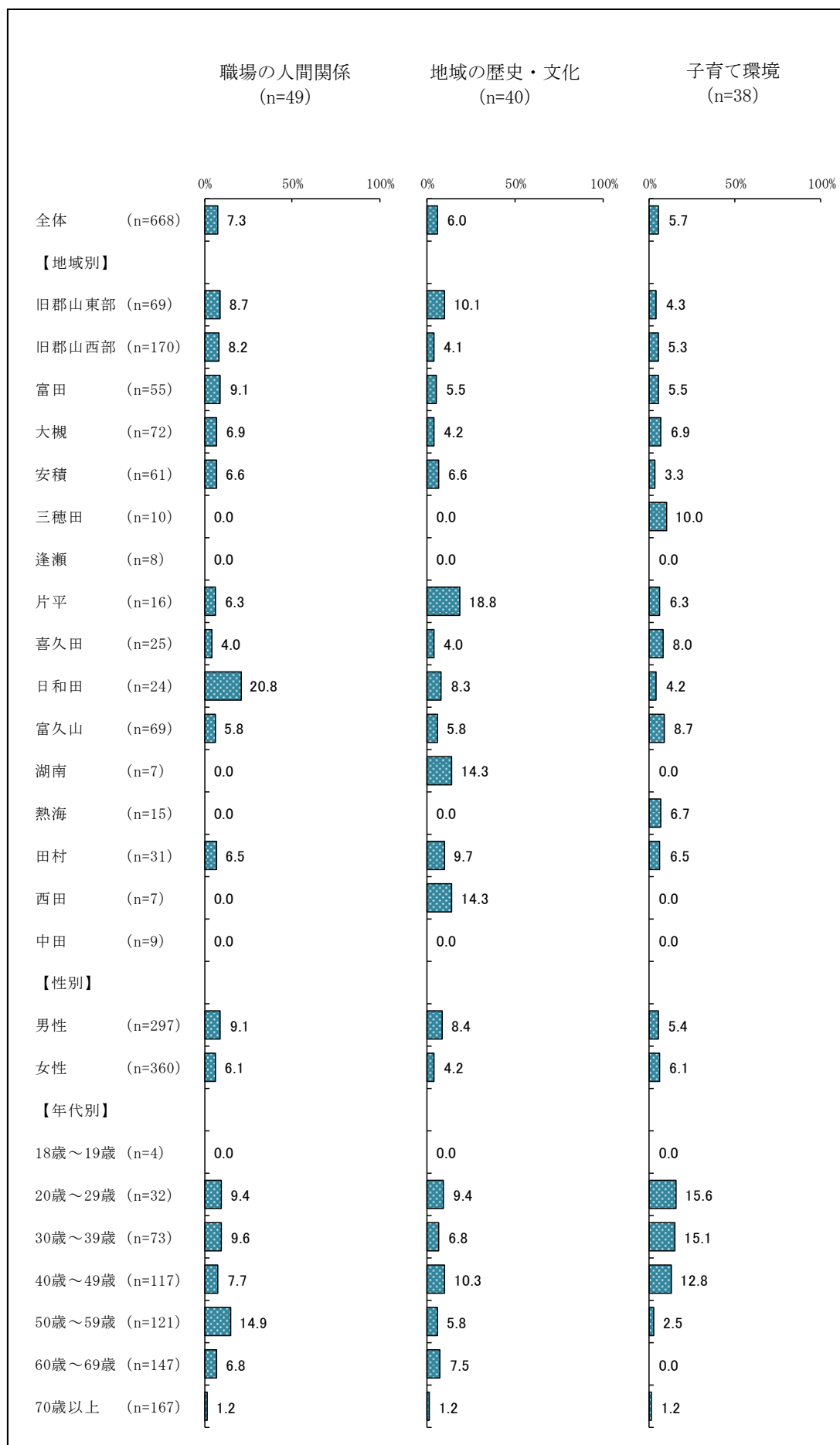


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～5/6～（地域別／性別／年代別）

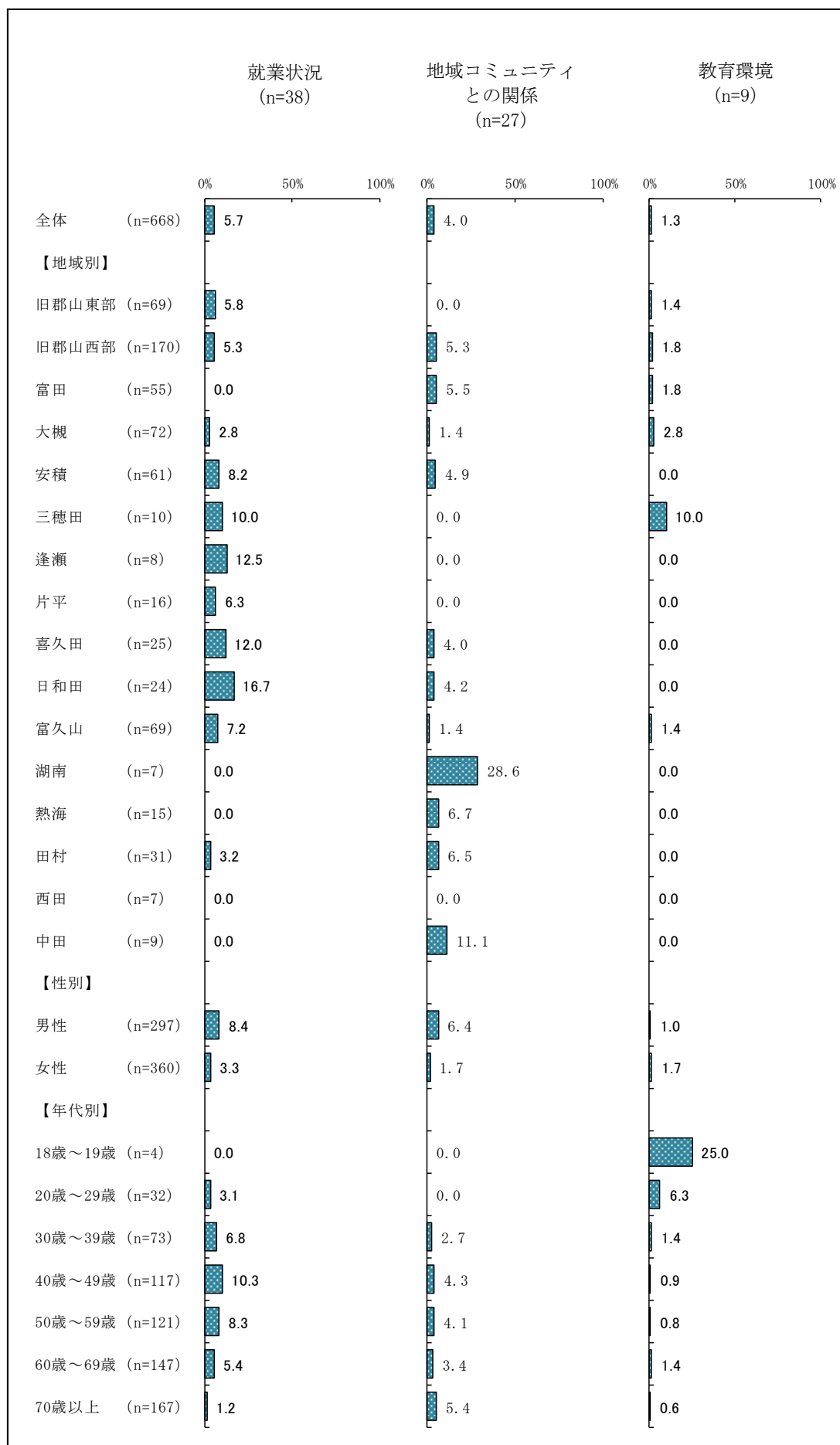
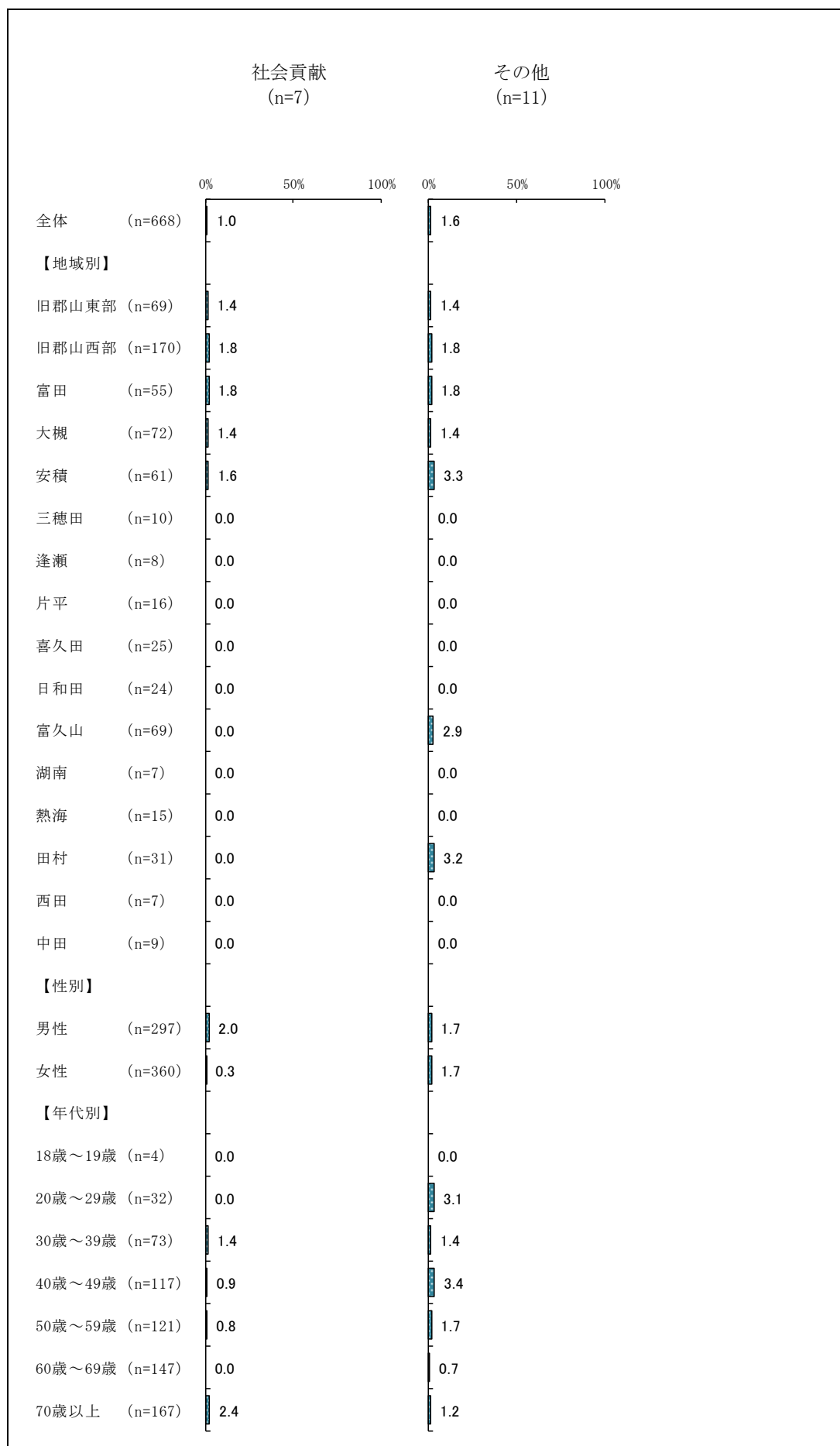
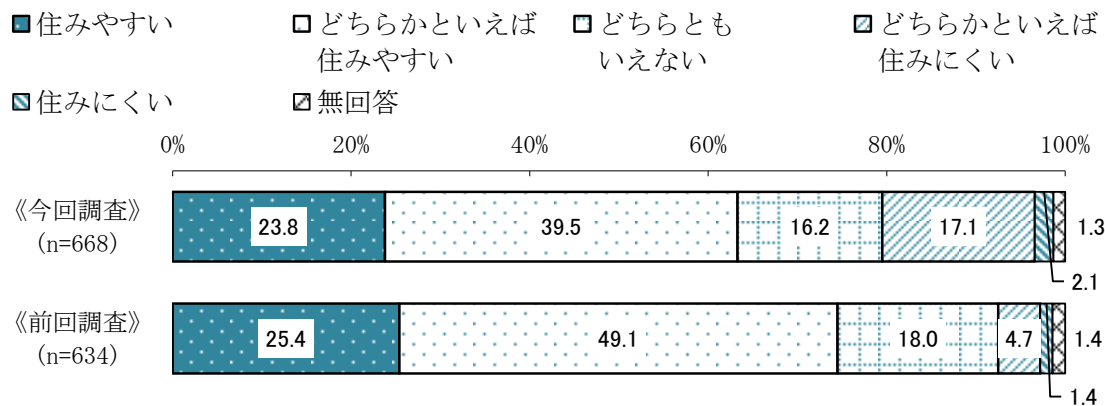
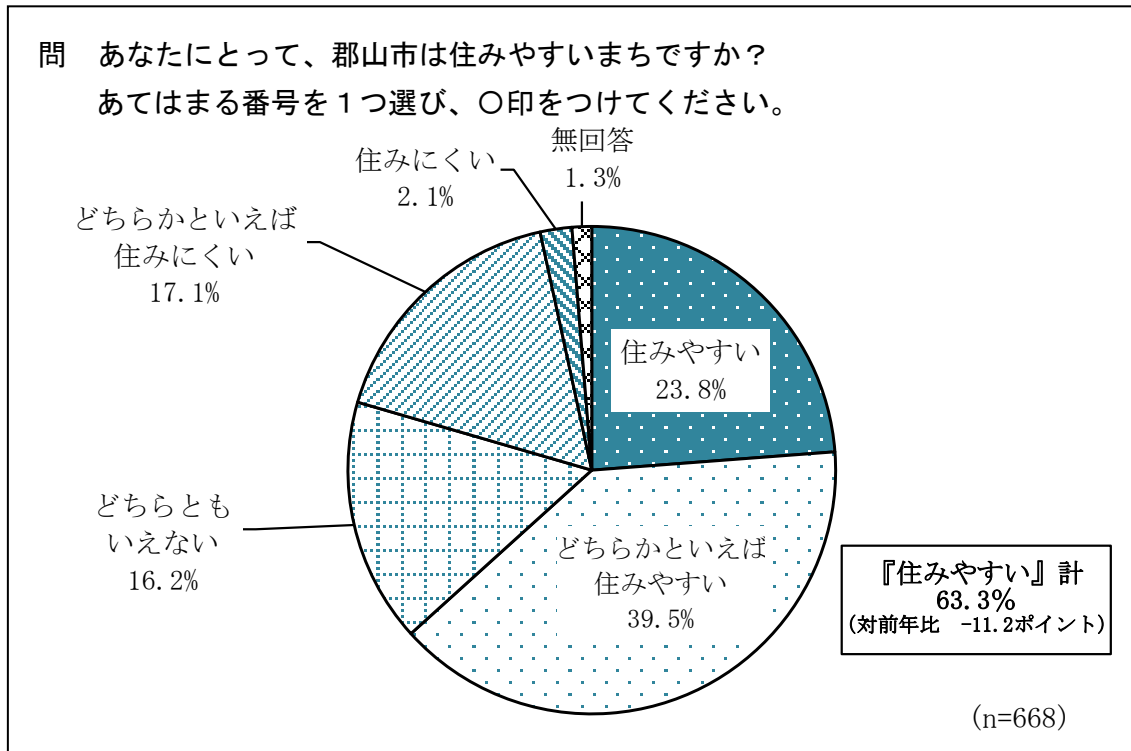


図 1－2 幸福度の判断の際に重視した事項～6/6～（地域別／性別／年代別）



2. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



6割強の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

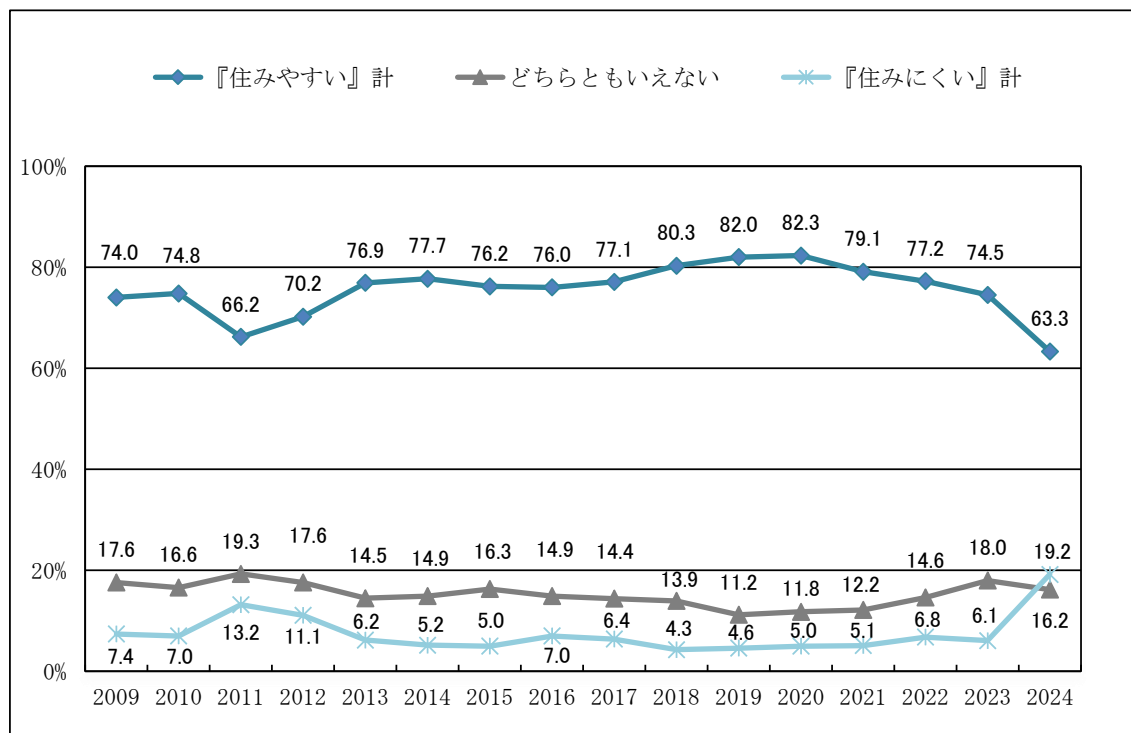
【全体結果】

郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(23.8%)と「どちらかといえば住みやすい」(39.5%)の両者を合計すると『住みやすい』(63.3%)となっています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(17.1%)と「住みにくい」(2.1%)を合計すると『住みにくい』(19.2%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』の合計ポイントは11.2ポイント低下しています。また、過去の調査結果との比較では、2016年度から上昇傾向でしたが、2020年度をピークに減少が続いています(図2-1参照)。

図 2－1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-2 参照）

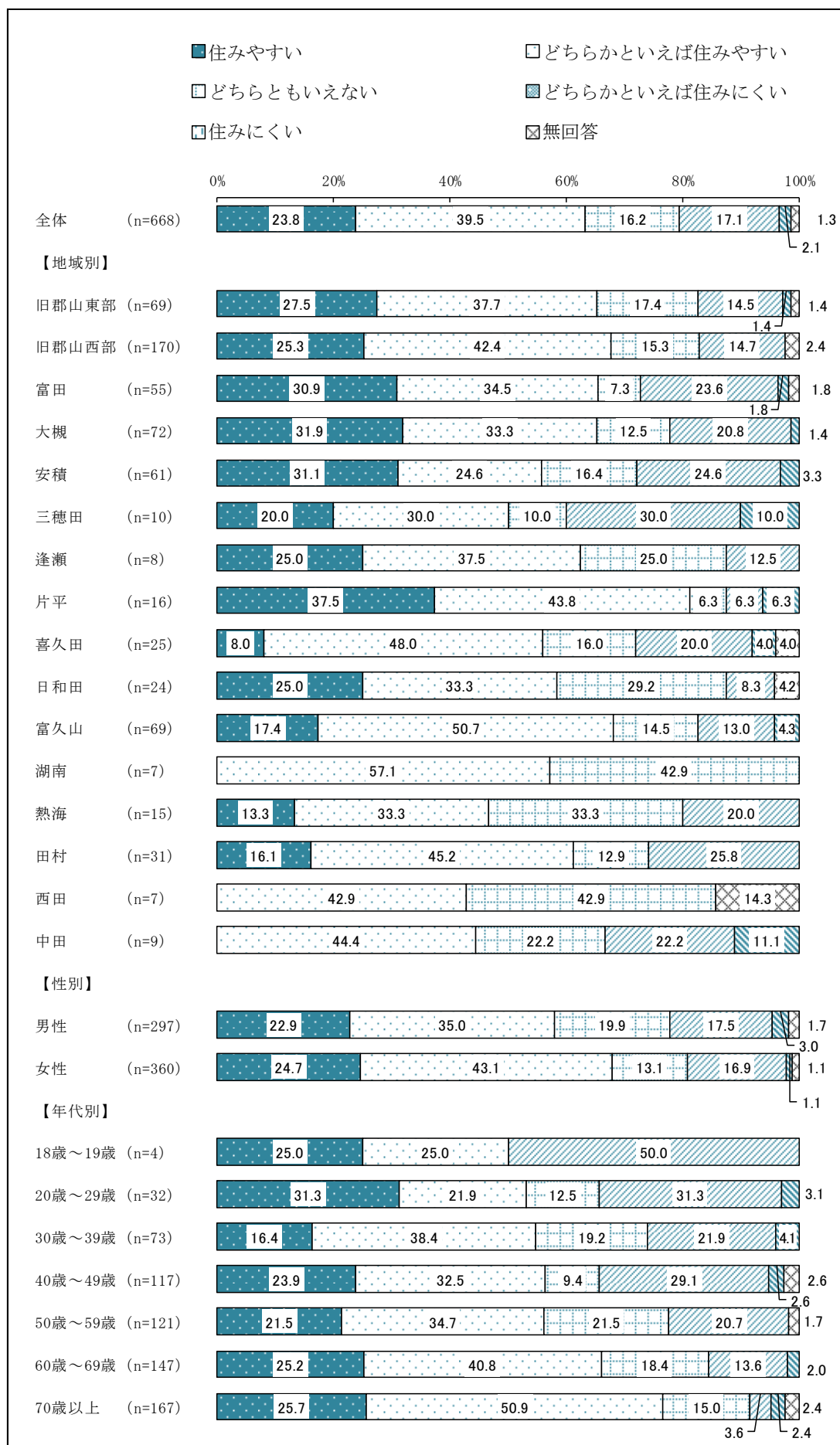
① 性別

『住みやすい』の割合は、女性（67.8%）の方が男性（57.9%）よりも高くなっています。

② 年代別

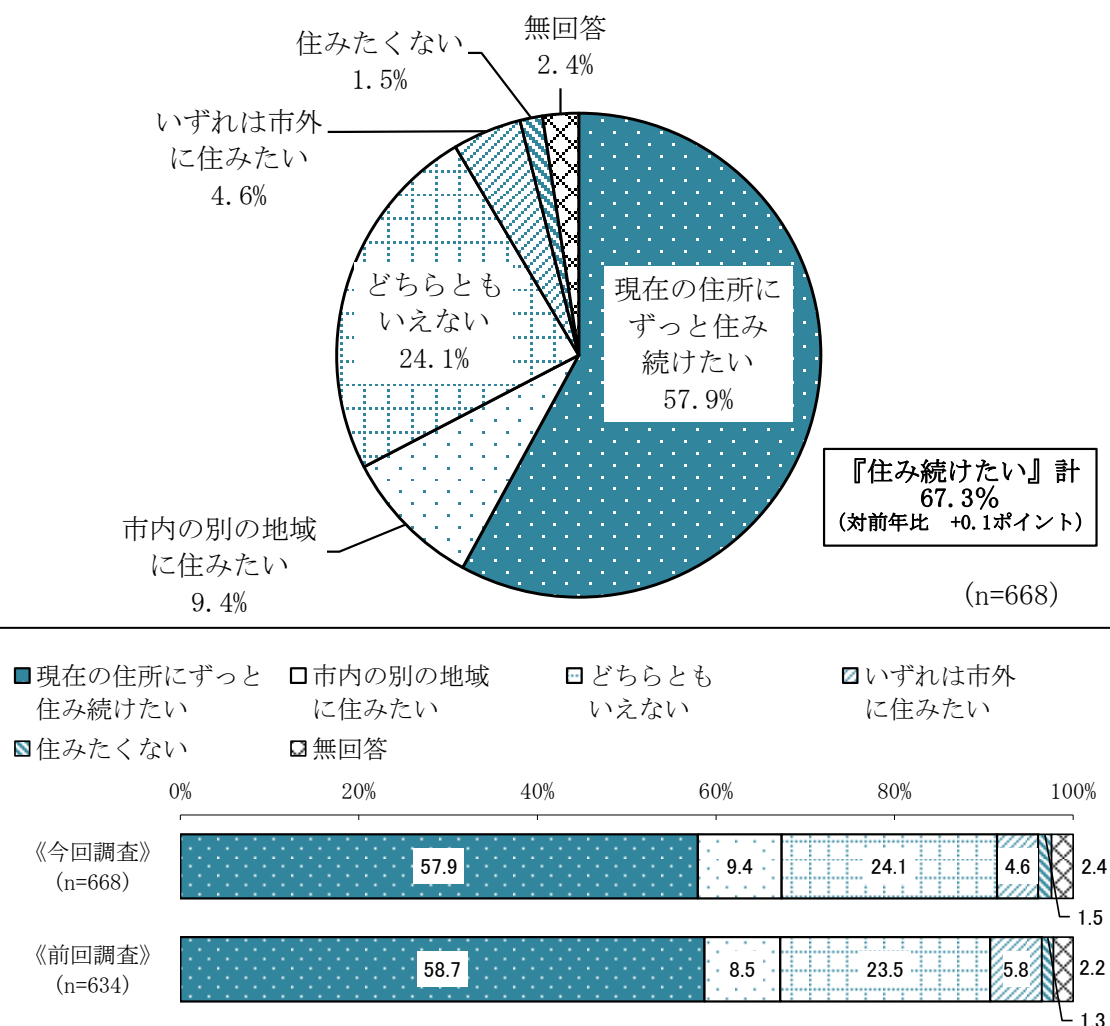
『住みやすい』の割合は、70代以上（76.6%）で最も高くなっています。

図 2-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居留意向

問 あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。



——— 7 割弱の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしている ———

【全体結果】

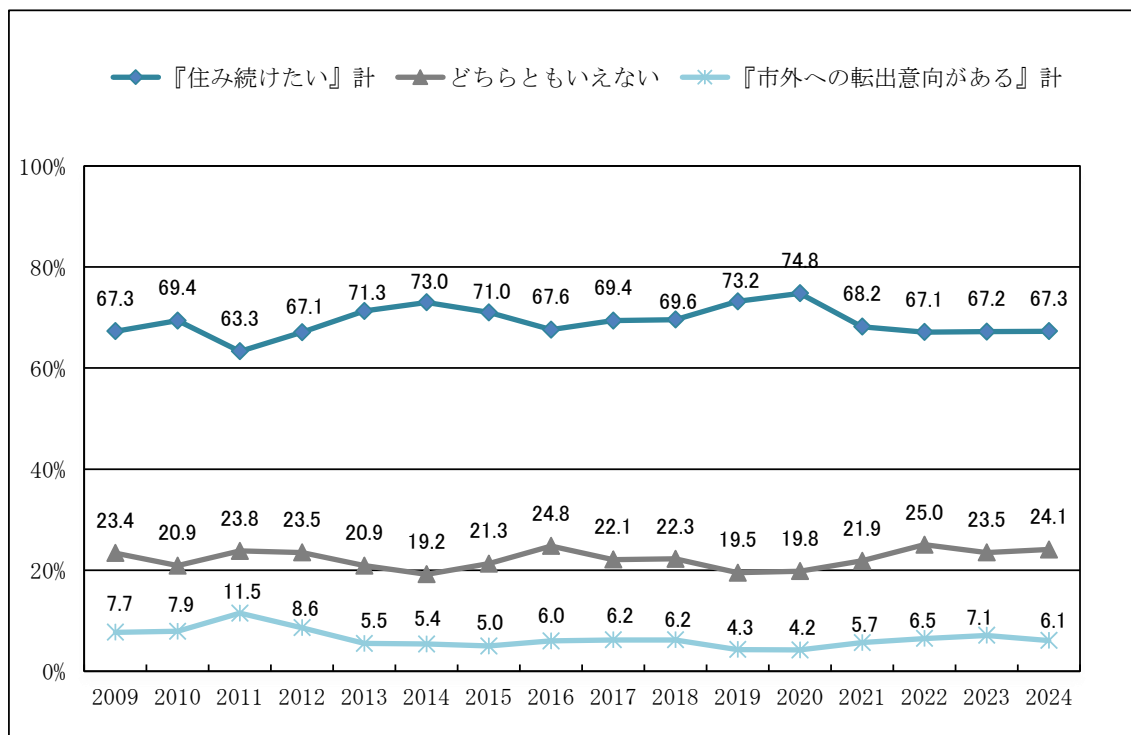
今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」(57.9%)と「市内の別の地域に住みたい」(9.4%)の両者を合計すると『住み続けたい』(67.3%)となっています。

前項の『住みやすい』の合計と比較して、大きな差は見られませんでした。

一方、「いずれは市外に住みたい」(4.6%)と「住みたくない」(1.5%)を合計すると『市外への転出意向がある』(6.1%)となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』の合計は低下したものの、2013年度以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』の合計は2011年度をピークに減少していましたが、2020年度以降上昇傾向となっています(図2-3参照)。

図 2-3 今後の居住意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-4 参照）

① 性別

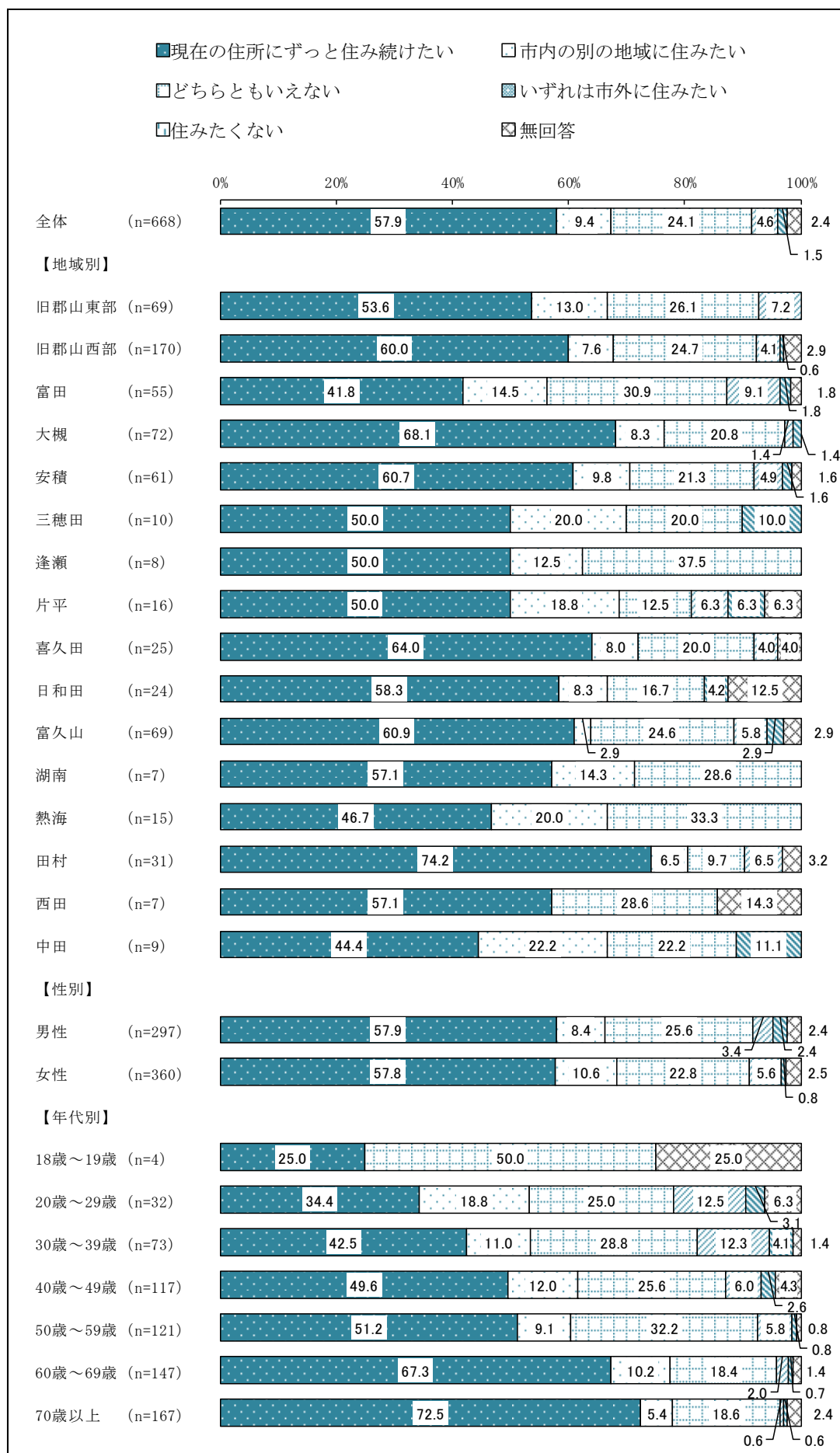
『住み続けたい』の割合は、女性（68.4%）の方が男性（66.3%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

『住み続けたい』の割合は、70代以上（77.9%）で最も高く、次いで60代（77.5%）が続き、高齢層で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』の割合は、30代（16.4%）で最も高くなっています。

図2-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）



3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取組み）における 43 項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表 3-1 43 項目（施策）の満足度ランキング

平均得点69.5点						
順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の 変動	10位以上 の変動
1位	(2位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	77.4	➡	
2位	(1位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	76.3	➡	
3位	(3位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	74.9	➡	
4位	(4位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	74.2	➡	
5位	(5位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	73.6	➡	
6位	(6位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	73.3	➡	
7位	(7位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	73.0	➡	
8位	(8位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	72.9	➡	
9位	(8位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	72.2	➡	
10位	(12位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	71.6	➡	
11位	(12位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	71.2	➡	
12位	(20位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	71.1	➡	
13位	(15位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	71.0	➡	
13位	(23位)	基盤的取組	DX推進	71.0	⬆	△
15位	(25位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	70.7	⬆	△
16位	(18位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.5	➡	
17位	(17位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	70.2	➡	
18位	(22位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	70.1	➡	
19位	(10位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	69.9	➡	
20位	(26位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	69.8	➡	
21位	(12位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	5R(資源の有効利用)	69.4	➡	
22位	(20位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	69.0	➡	
23位	(33位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	創業・起業支援	68.9	⬆	△
24位	(27位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	68.8	➡	
24位	(11位)	基盤的取組	復興・創生の更なる推進	68.8	⬆	▼
26位	(16位)	基盤的取組	SDGs	68.7	⬆	▼
26位	(24位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	68.7	➡	
28位	(19位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	68.6	➡	
29位	(29位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	68.5	➡	
30位	(35位)	基盤的取組	行政経営	68.2	➡	
31位	(31位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	67.9	➡	
31位	(31位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	67.9	➡	
33位	(28位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	67.8	➡	
34位	(30位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	67.6	➡	
35位	(36位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	67.3	➡	
36位	(37位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	66.8	➡	
37位	(39位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	66.6	➡	
38位	(34位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	66.4	➡	
39位	(38位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	65.9	➡	
40位	(40位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	65.4	➡	
41位	(41位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	63.8	➡	
42位	(42位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション・関係人口	62.6	➡	
43位	(43位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	62.0	➡	

平均より高い
平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました（表3-1参照）。

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40 + \text{【わからない】} \times 0) \\ & \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」120人、「どちらかといえばよい」287人、
「どちらかといえば不満」85人、「不満」53人、「わからない」113人ですと、

$$\frac{120 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 287 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 85 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 53 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 113 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{545 \text{ 人}}$$

$$\div 77.4$$

※平均得点=77.4点となります。

※2019年度から「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「音楽のまちづくり」「医療」「自然環境」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「音楽のまちづくり」「医療」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」(2017年度以前の項目名)を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれ、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。(表3-3参照)

「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から16年経過し、市民の認知度が高いこと、「医療」については、病床数が全国平均を大きく上回るなど、市民のニーズを満たす医療を提供していることなどが、満足度につながっていると考えられます。

また、前年度調査に比べて「DX推進」「地域コミュニティ」「創業・起業支援」が大きく順位を上げました。

これらの項目に関連する本市の主な取組みは、次のとおりです。

「DX推進」では、スマートフォン等の活用による「てのひらの上のデジタル市役所」を推進するため、行政手続きのオンライン化、証明書等発行手数料や施設使用料のキャッシュレス決済により市民の利便性向上を図っています。

「地域コミュニティ」では、町内会・自治会等の活動拠点となる地域集会所の整備費等補助や、町内会役員の負担軽減を図る町内会DX推進事業、ふれあいネットワーク事業での市政情報の定期的な発信等により、町内会等地域団体の積極的な活動を支援し、快適で健康的な安全・安心の地域づくりの推進に努めています。

「創業・起業支援」としては、創業支援等事業計画に基づく支援を実施したほか、社会起業家に対する伴走支援に加え、新たにスタートアップ支援補助金を創設するなど、創業気運の醸成を図っています。

6分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「学び育む子どもたちの未来」の71.3点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の70.7点、「暮らしやすいまちの未来」の69.5点となっています。

表3-2 6分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	71.3
2位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	70.7
3位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.5
4位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	68.9
	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	68.9
6位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	67.2

参考までに、過去10年間の満足度上位3つは下表のとおりです。

表3-3 10年間の満足度上位3項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
2024	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2023	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2022	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2021	医療	除去土壌等の搬出	音楽のまちづくり
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療

(2) これからの取組み重要度結果一覧

まちづくり（取組み）における43項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表3-4 43項目（施策）の重要度ランキング

平均割合13.3%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の 変動	10位以上 の変動
1位	(1位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	40.7	→	
2位	(3位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	38.5	→	
3位	(2位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	34.9	→	
4位	(4位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	28.1	→	
5位	(7位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	27.1	→	
6位	(5位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	24.7	→	
7位	(6位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	24.6	→	
8位	(11位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	22.5	→	
9位	(8位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	22.3	→	
10位	(9位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	20.7	→	
11位	(10位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	19.6	→	
12位	(12位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	17.7	→	
13位	(21位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	15.4	→	
14位	(15位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	13.3	→	
15位	(13位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	13.2	→	
16位	(25位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	12.3	→	
16位	(14位)	基盤的取組	SDGs	12.3	→	
18位	(19位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	12.1	→	
19位	(18位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	11.7	→	
20位	(16位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	10.9	→	
21位	(20位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	10.8	→	
22位	(16位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	10.5	→	
23位	(26位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	10.3	→	
23位	(23位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	10.3	→	
25位	(31位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	5R(資源の有効利用)	10.0	→	
26位	(33位)	基盤的取組	行政経営	9.6	→	
27位	(28位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	8.5	→	
28位	(24位)	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	8.4	→	
29位	(21位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	創業・起業支援	7.0	→	
30位	(29位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	6.9	→	
31位	(26位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	6.7	→	
32位	(35位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	6.6	→	
33位	(32位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	5.8	→	
34位	(34位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション・関係人口	5.5	→	
35位	(30位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	5.1	→	
36位	(40位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	4.8	→	
36位	(36位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	4.8	→	
38位	(37位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	4.0	→	
39位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	3.9	→	
40位	(42位)	基盤的取組	DX推進	3.1	→	
41位	(41位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	3.0	→	
42位	(37位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	2.8	→	
43位	(43位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.9	→	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※１：平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※２：平均割合（回答率）の算出例

例えば、「子育て」272人ですと、

$$272 \text{ 人} \div 668 \text{ 人} \times 100\% \approx 40.7$$

※平均割合（回答率）＝40.7%となります。

— 重要度の上位3つは、「子育て」「高齢者福祉」「雇用・就労」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「子育て」「高齢者福祉」「雇用・就労」が上位となっています。

「子育て」については、急速に進む少子化や人口減少などへの関心の高まりに加え、本市は2022年7月に「全力で子育て応援中！」を宣言し、「子どもが安心して生まれ、育つまち 郡山」として、「ベビーファースト」運動を推進していることなどから、各種団体や事業者など地域ぐるみでの子育て支援の取組みが広がったこともあり、重要度が高まっていると考えられます。

また、「10年間の重要度上位3項目」において、「高齢者福祉」は2014年度から、「雇用・就労」は2018年度から、ほぼ毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。（表3-6参照）

また、上位10位内では、「高齢者福祉」「防犯・交通安全・消費者対策」「防災」が前年度調査に比べて順位を上げています。

「防犯・交通安全・消費者対策」については、全国的に高齢者による重大事故、SNS型詐欺やなりすまし詐欺などによる被害が連日報道され、市民の交通安全意識や防犯に対する意識も高まり、重要度が高くなったと考えられます。

「防災」では、近年の気候変動等の影響により水災害が頻発していることを受け、郡山市ゲリラ豪雨対策9年プランにより市内5か所で進めていた雨水貯留施設の整備が完了しており、ほかに被害の発生前から行政や住民などの各主体が迅速で的確な対応をとるためのタイムライン式行動計画の策定やウェブサイト・SNSからの防災情報の発信を行っています。

また、6分野の重要度を比較すると、最も重要度が高かった分野は、「学び育む子どもたちの未来」で、満足度においても最も高く、引き続き重点的に維持していく分野といえます。次いで、「産業・仕事の未来」の17.7%と続いています。

表 3－5 6 分野別の重要度ランキング

順 位	分 野	回答率
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	18.9
2位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	17.7
3位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	14.8
4位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	11.8
5位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	10.4
6位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興、創生の更なる推進)	7.0

参考までに、過去 10 年間の重要度上位 3 つは下表のとおりです。

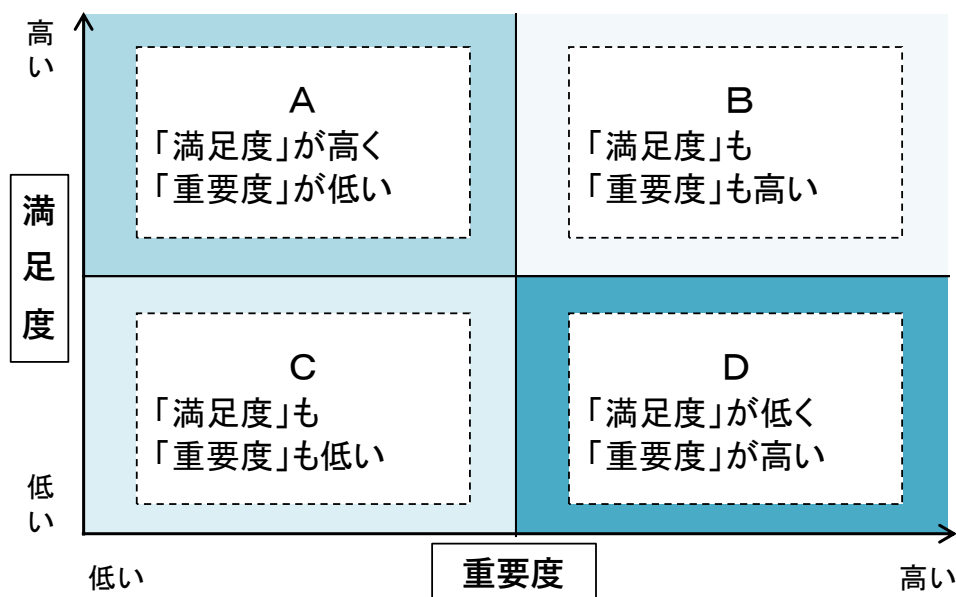
表 3－6 10 年間の重要度上位 3 項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
2024	子育て	高齢者福祉	雇用・就労
2023	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2022	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2021	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て

（３）施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取組み）における 43 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては前出 30 頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出 34 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

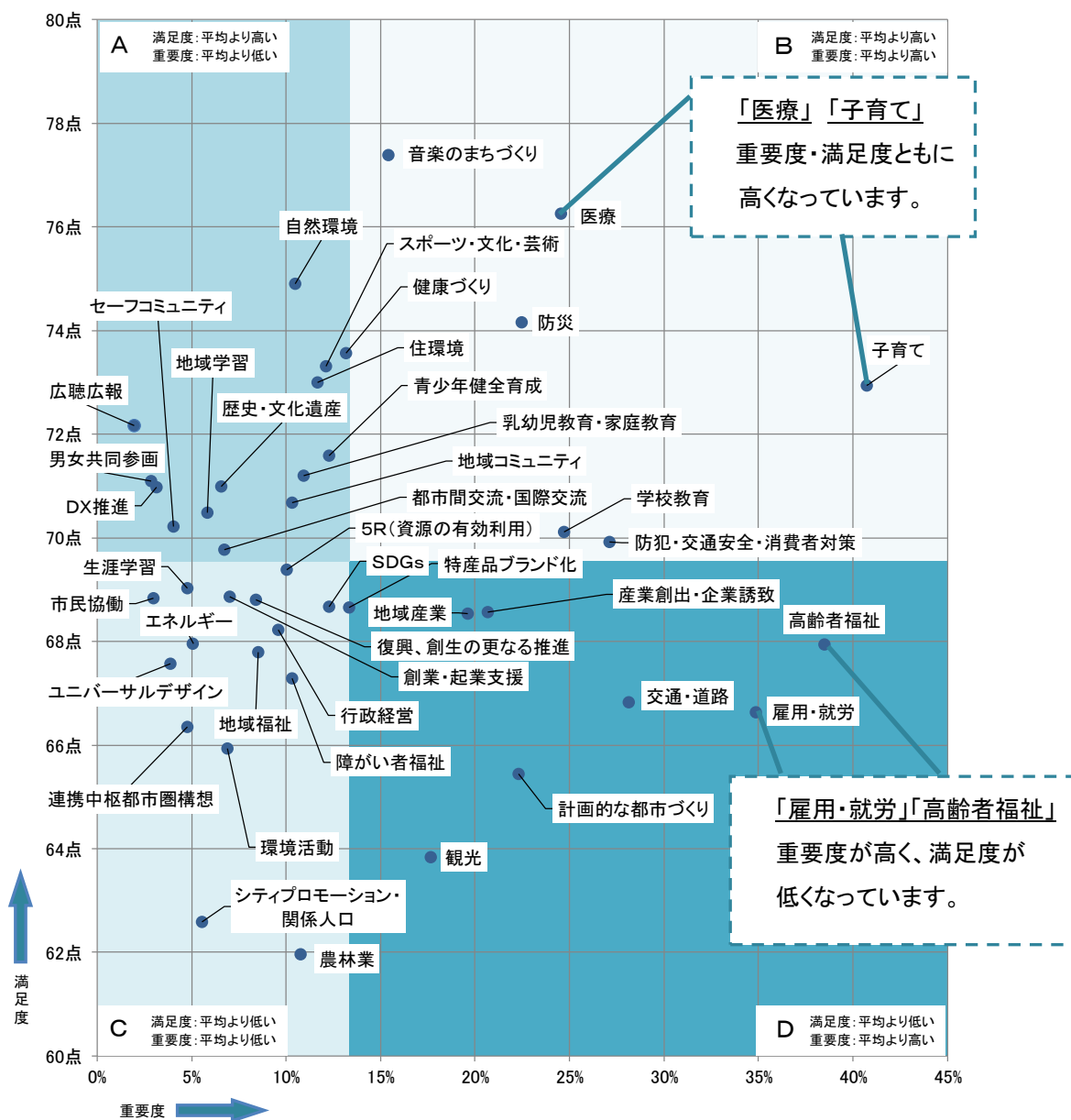
重要度も満足度も低い取組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図3-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

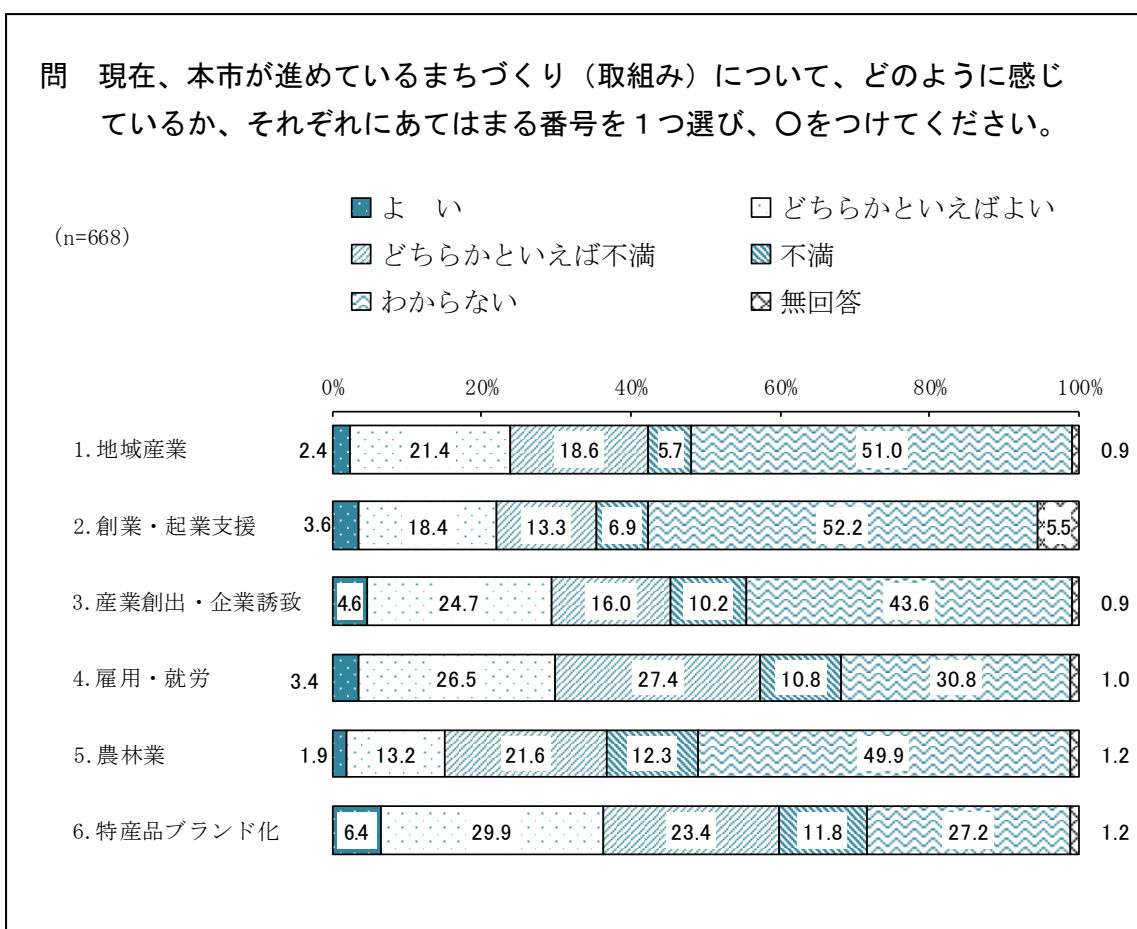


—— 「雇用・就労」「高齢者福祉」に関して優先的な施策の改善
が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」「高齢者福祉」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（36.3%）でした。以下、『4. 雇用・就労』（29.9%）、『3. 産業創出・企業誘致』（29.3%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（38.2%）でした。『6. 特産品ブランド化』については評価が分かれる結果となっています（満足：36.3%、不満：35.2%）。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-2 参照）。

平均得点をみると、『2. 創業・起業支援』が 68.9 点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』（62.0 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを以下に掲載しました。（表 3-7 参照）

図 3-2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

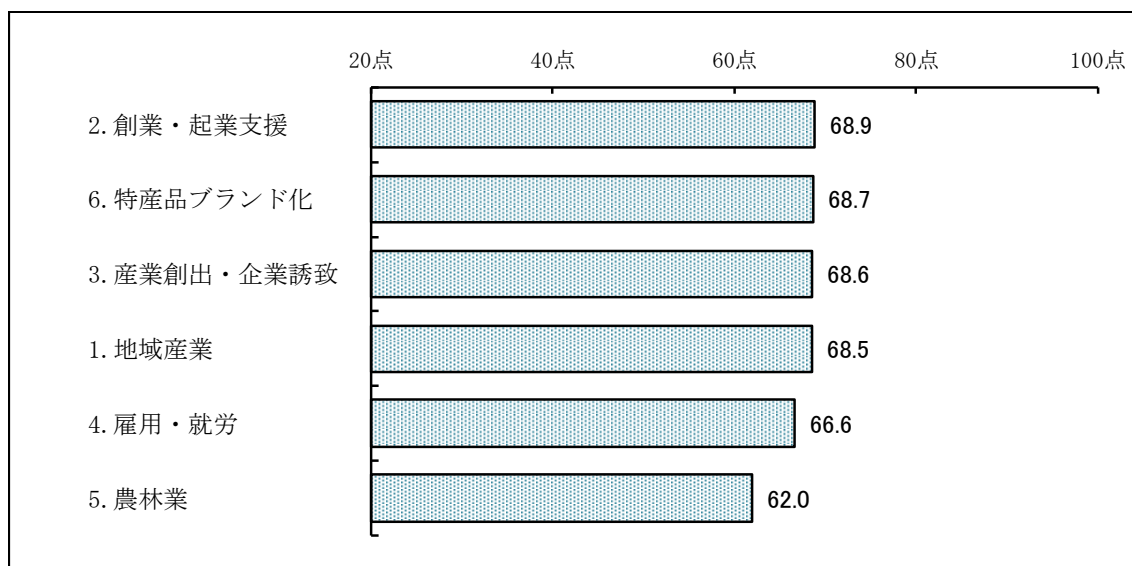


表 3-7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

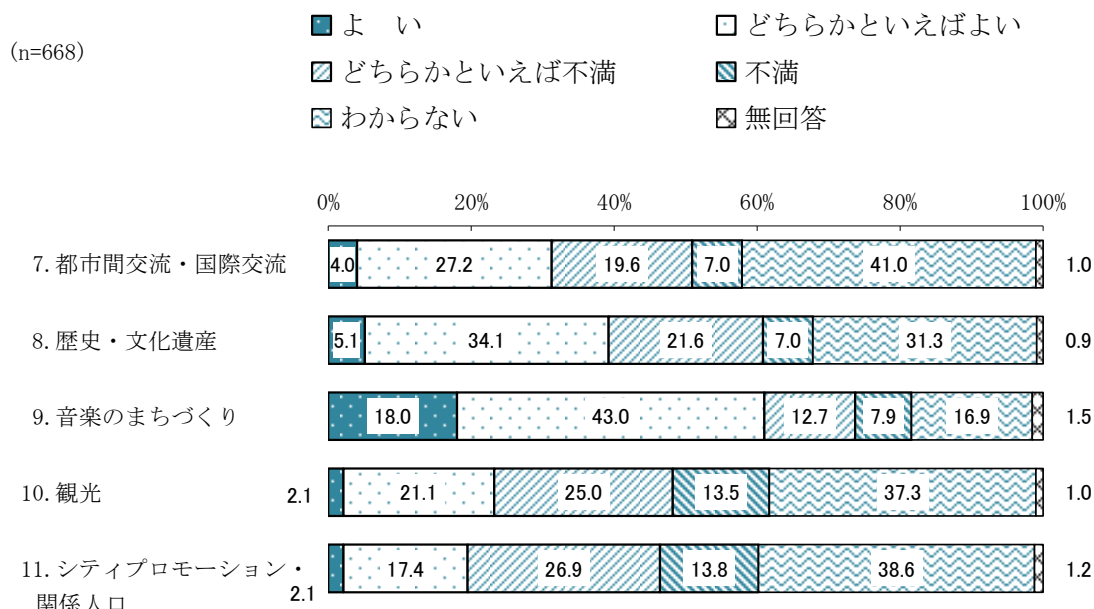
	男 性	女 性
1位	創業・ 起業支援 (68.4点)	特産品 ブランド化 (71.3点)
2位	産業創出・ 企業誘致 (68.1点)	地域産業 (70.0点)
3位	雇用・就労 (67.4点)	創業・ 起業支援 (69.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	地域産業	産業創出・ 企業誘致 (78.6点)	特産品 ブランド化 (70.2点)	産業創出・ 企業誘致 特産品 ブランド化 (71.3点)	創業・ 起業支援 (68.8点)	創業・ 起業支援 (68.5点)	地域産業 (68.6点)
2位		特産品 ブランド化 (78.3点)	地域産業 (69.4点)		産業創出・ 企業誘致 (68.2点)	産業創出・ 企業誘致 (68.1点)	創業・ 起業支援 (67.8点)
3位	創業・ 起業支援 (80.0点)	農林業 (74.7点)	産業創出・ 企業誘致 (68.8点)	創業・ 起業支援 (71.2点)	特産品 ブランド化 (68.0点)	特産品 ブランド化 (67.6点)	雇用・就労 (67.6点)

② 交流・観光の未来

(交流・文化・観光・シティプロモーション分野) への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（61.0%）となり、次点の『8. 歴史・文化遺産』（39.2%）を大きく上回っています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション・関係人口』（40.7%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-3 参照）。

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が 77.4 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション・関係人口』（62.6 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-8 参照）。

図 3－3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

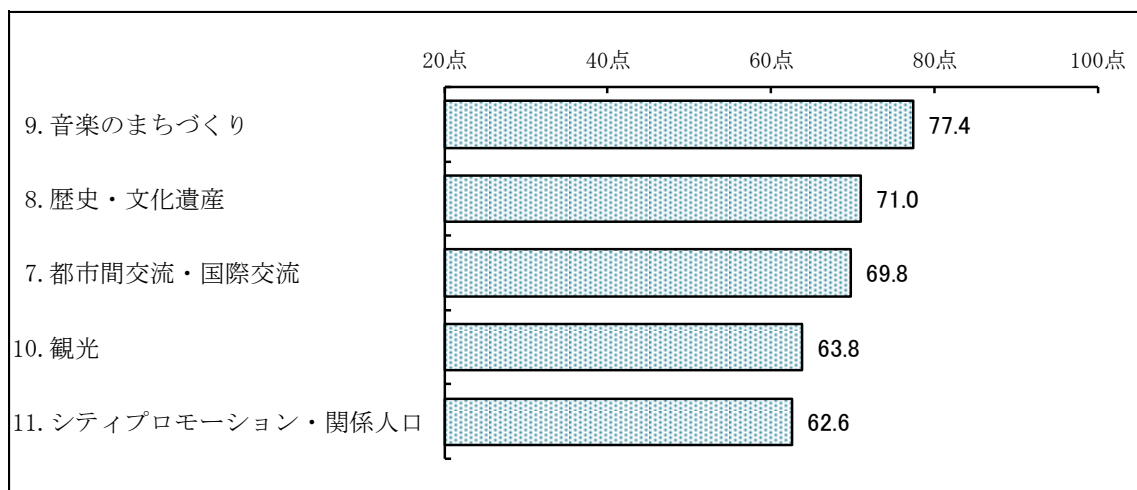


表 3－8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	音楽の まちづくり (75.8点)	音楽の まちづくり (79.0点)
2位	歴史・ 文化遺産 (69.8点)	歴史・ 文化遺産 (72.5点)
3位	都市間交流・ 国際交流 (68.9点)	都市間交流・ 国際交流 (70.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	都市間交流・ 国際交流	歴史・ 文化遺産 (82.7点)	音楽の まちづくり (76.1点)	音楽の まちづくり (75.6点)	音楽の まちづくり (76.9点)	音楽の まちづくり (78.4点)	音楽の まちづくり (78.2点)
2位	歴史・ 文化遺産 音楽の まちづくり (80.0点)	音楽の まちづくり (82.5点)	都市間交流・ 国際交流 (68.2点)	歴史・ 文化遺産 (72.7点)	都市間交流・ 国際交流 (69.5点)	歴史・ 文化遺産 (70.3点)	歴史・ 文化遺産 (71.9点)
3位		都市間交流・ 国際交流 (74.3点)	歴史・ 文化遺産 (67.8点)	都市間交流・ 国際交流 (70.8点)	歴史・ 文化遺産 (69.4点)	都市間交流・ 国際交流 (67.7点)	都市間交流・ 国際交流 (71.3点)

問 現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

(n=668)

■ よい □ どちらかといえばよい
▨ どちらかといえば不満 ▨ 不満
▩ わからない ▩ 無回答

Category	Good (■)	Somewhat Good (▨)	Somewhat Dissatisfied (▩)	Dissatisfied (▨)	Don't Know (▩)
12. 子育て	6.0	41.2	17.8	6.7	26.9
13. 乳幼児教育・家庭教育	4.5	36.1	21.1	6.7	30.4
14. 青少年健全育成	5.4	36.2	22.0	6.4	28.3
15. 学校教育	4.6	32.8	23.1	7.6	30.8
16. 地域学習	5.7	31.0	19.8	8.4	34.1

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』——

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（47.2%）となり、次いで『14. 青少年健全育成』（41.6%）も約4割で続いています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-4 参照）。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表3-9参照）。

図 3-4 学び育む子どもたちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

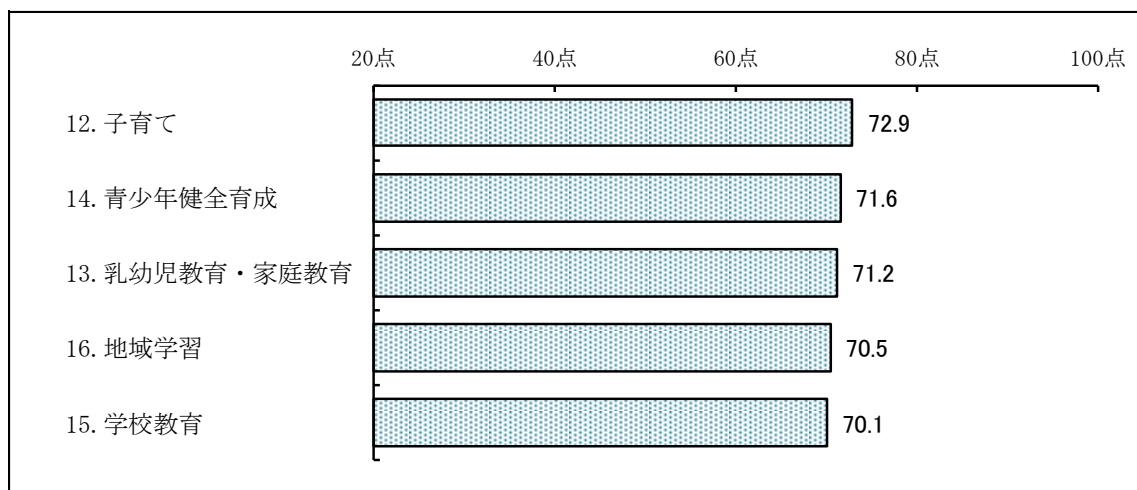


表 3-9 学び育む子どもたちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (71.3点)	子育て (74.2点)
2位	青少年健全育成 (70.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (73.4点)
3位	学校教育 (70.0点)	青少年健全育成 (72.3点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	子育て	青少年健全育成 (78.1点)	地域学習 (75.7点)	地域学習 (74.6点)	子育て (71.7点)	子育て (72.5点)	子育て (73.7点)
2位	乳幼児教育・家庭教育	地域学習 (77.0点)	子育て (71.9点)	子育て (73.7点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.6点)	青少年健全育成 (70.0点)	青少年健全育成 (73.1点)
3位	地域学習 (80.0点)	子育て (76.0点)	学校教育 (71.5点)	学校教育 (73.2点)	青少年健全育成 (69.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (68.6点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.3点)

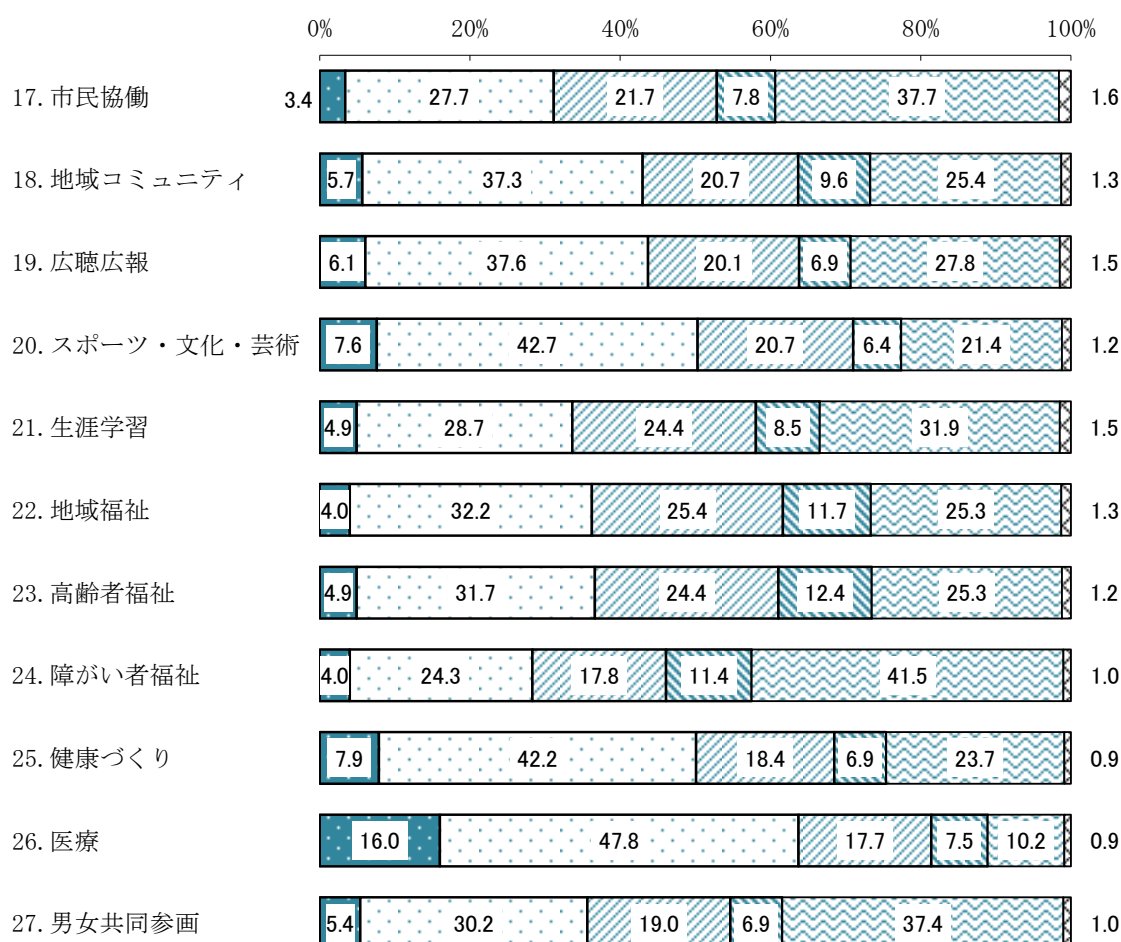
④誰もが地域で輝く未来

（市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

(n=668)

■ よい □ どちらかといえばよい
 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満
 ■ わからない ■ 無回答



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（63.8%）でした。以下、『20. スポーツ・文化・芸術』（50.3%）、『25. 健康づくり』（50.1%）、『19. 広聴広報』（43.7%）が4割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『22. 地域福祉』（37.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-5 参照）。

平均得点をみると、『26. 医療』が 76.3 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（67.3 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-10 参照）。

図 3-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

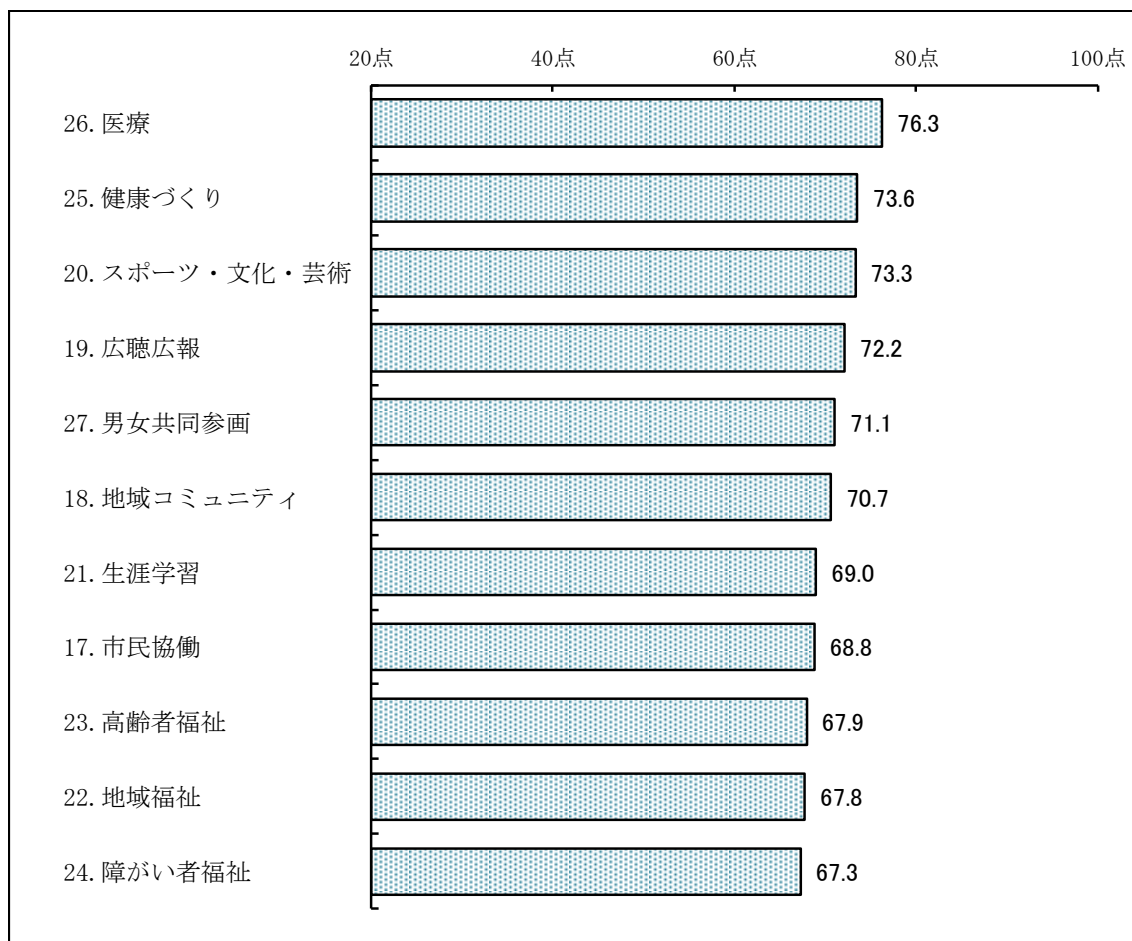


表 3－10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

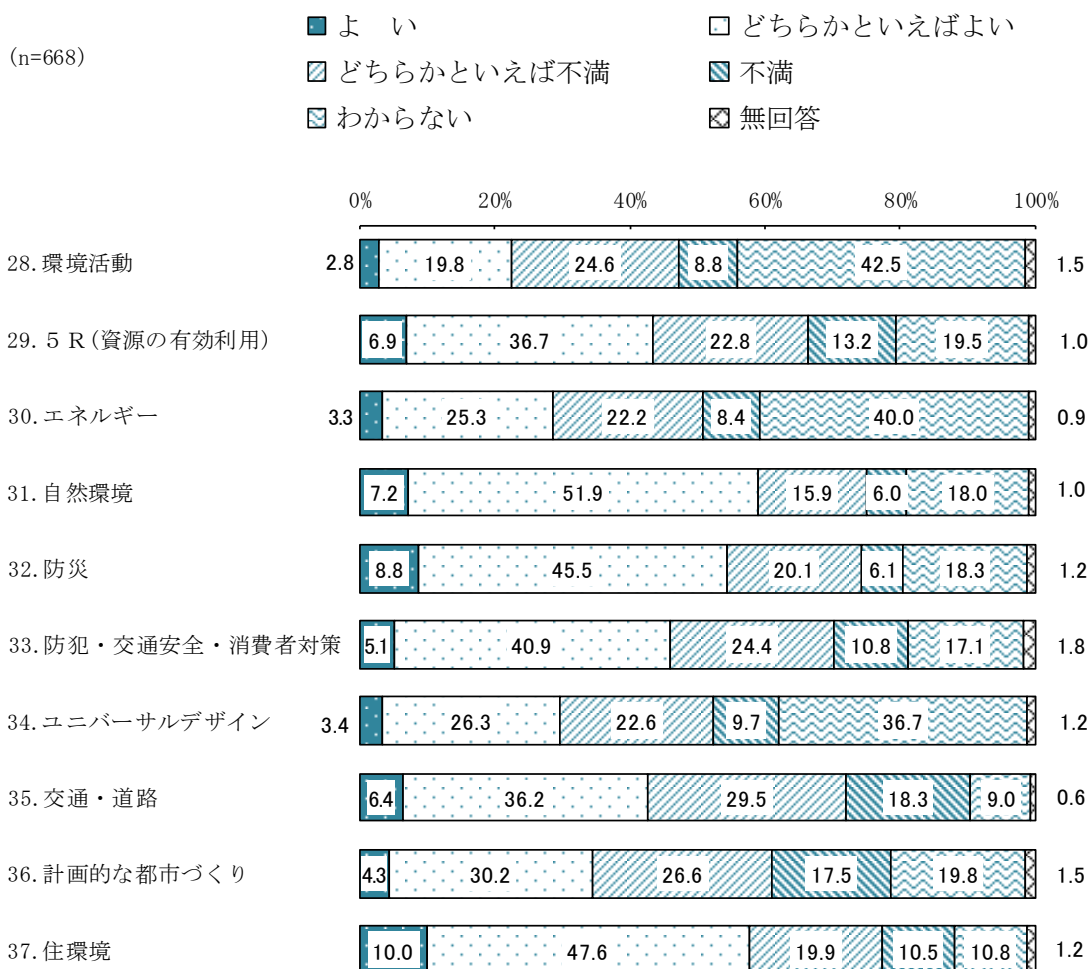
	男 性	女 性
1位	医療 (76.7点)	医療 (76.0点)
2位	健康づくり (73.3点)	健康づくり (74.0点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (73.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	地域 コミュニティ (86.7点)	医療 (80.0点)	医療 (79.1点)	医療 (76.2点)	医療 (73.3点)	医療 (73.1点)	医療 (79.1点)
2位	スポーツ・ 文化・芸術 医療 (85.0点)	男女共同参画 (78.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (74.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (74.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (71.7点)	広聴広報 (72.5点)	健康づくり (77.7点)
3位		市民協働 (78.8点)	健康づくり (74.1点)	健康づくり (73.4点)	健康づくり (71.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.3点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.2点)

⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』 ——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『31. 自然環境』（59.1%）となり、次いで『37. 住環境』（57.6%）と『32. 防災』（54.3%）も5割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『35. 交通・道路』（47.8%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-6 参照）。

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 74.9 点で最も高くなっています。
一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（65.4 点）でした。
なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-11 参照）。

図 3－6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

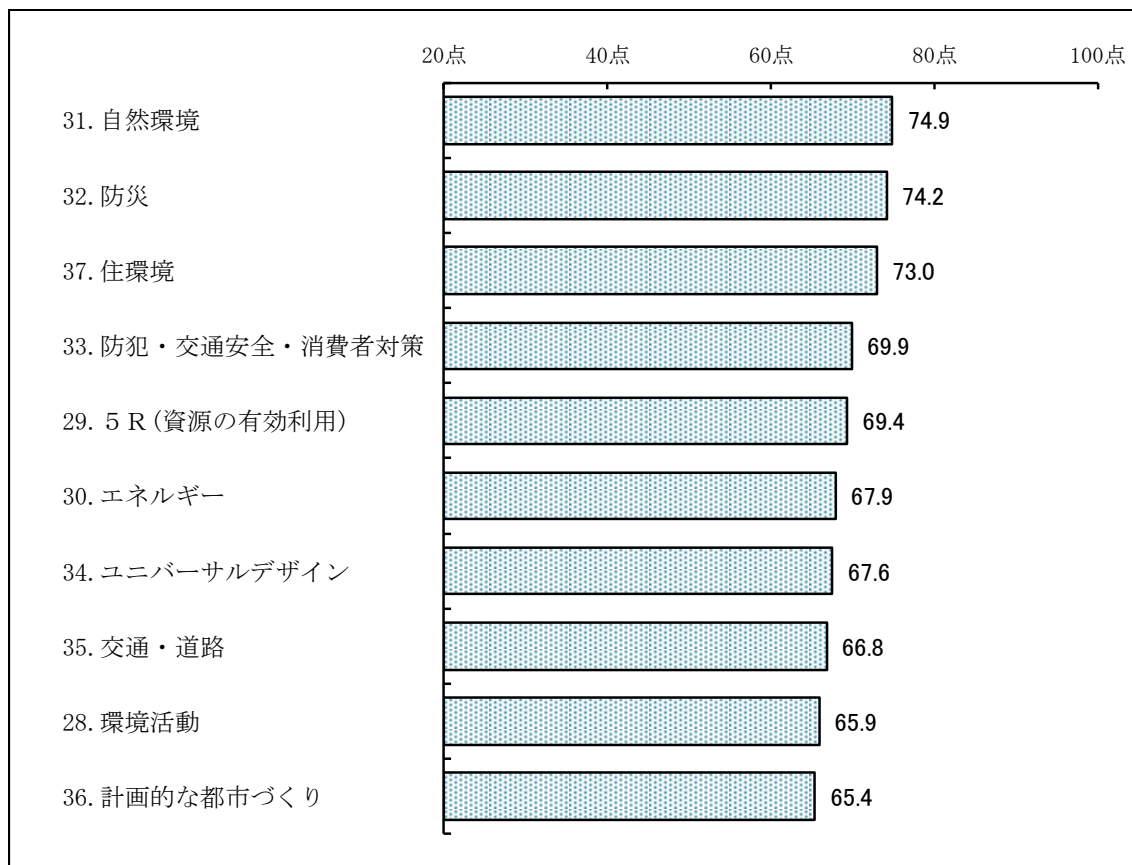


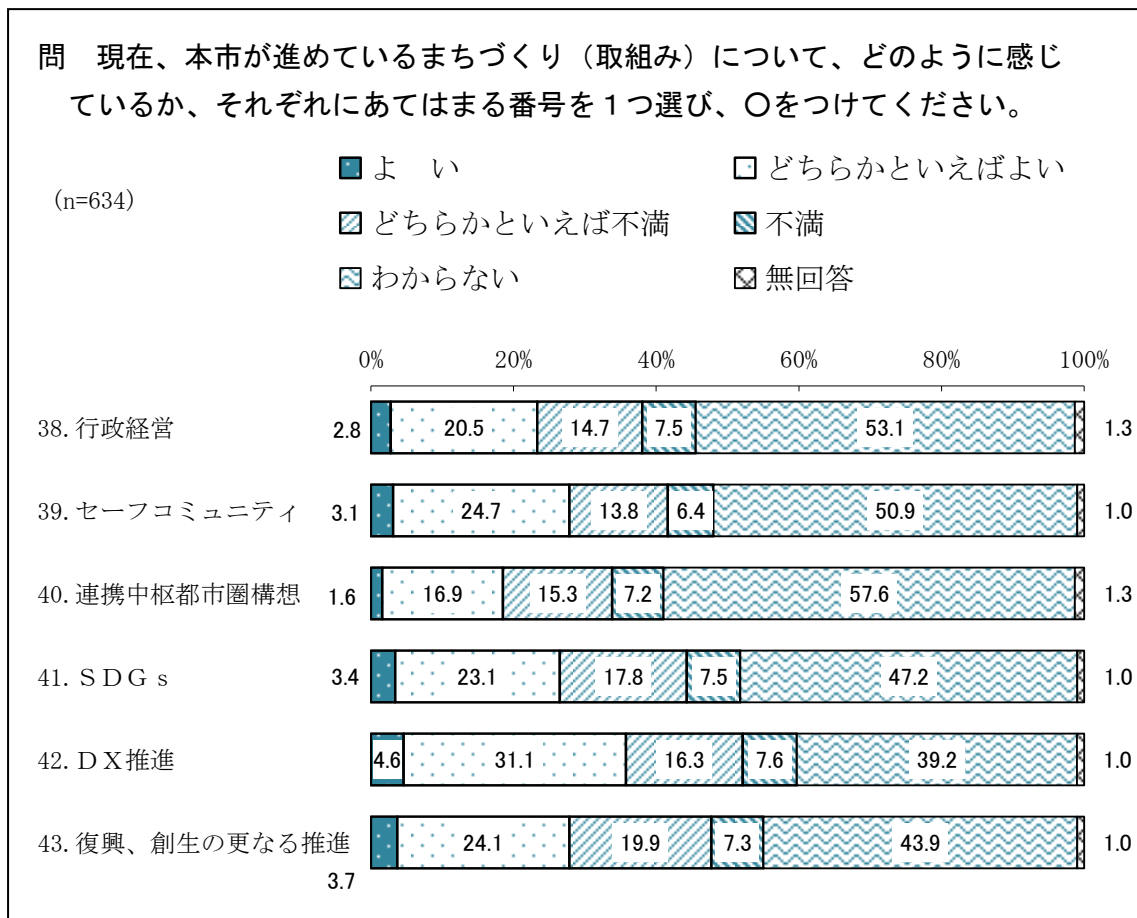
表 3－1 1 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	自然環境 (73.7点)	自然環境 (76.0点)
2位	防災 (73.1点)	防災 (74.9点)
3位	住環境 (72.7点)	住環境 (73.5点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	ユニバーサル デザイン (80.0点)	エネルギー (82.5点)	自然環境 (76.9点)	自然環境 (76.3点)	自然環境 (74.0点)	自然環境 (74.7点)	防災 (76.6点)
2位	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 住環境	自然環境 (80.0点)	防災 (75.6点)	住環境 (73.8点)	防災 (73.5点)	防災 (72.4点)	住環境 (75.7点)
3位	(75.0点)	5R(資源の 有効利用) (79.1点)	エネルギー (73.8点)	防災 (71.9点)	住環境 (72.4点)	住環境 (70.2点)	自然環境 (73.0点)

⑥基盤的取組

（行政経営、セーフコミュニティ、連携中枢都市圏、SDGs、DX推進、復興・創生の更なる推進）への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『DX推進』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『42. DX推進』（35.7%）、次いで『39. セーフコミュニティ』と『43. 復興、創生の更なる推進』が同率（27.8%）で続いています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『43. 復興、創生の更なる推進』（27.2%）となっています。

また、『42. DX推進』以外の項目において「わからない」の割合が4割以上と高くなっています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-8 参照）。

平均得点をみると、『42. D X推進』が71.0点で最も高くなっています。
一方で、最も低かったのは『40. 連携中枢都市圏構想』（66.4点）でした。
なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました（表3-12参照）。

図3-8 基盤的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

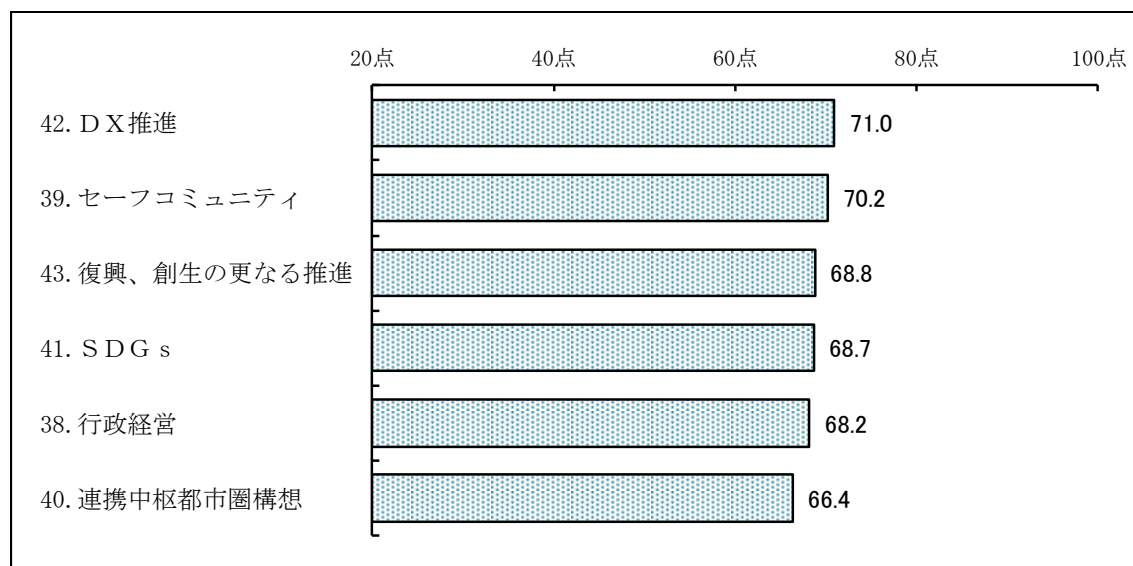


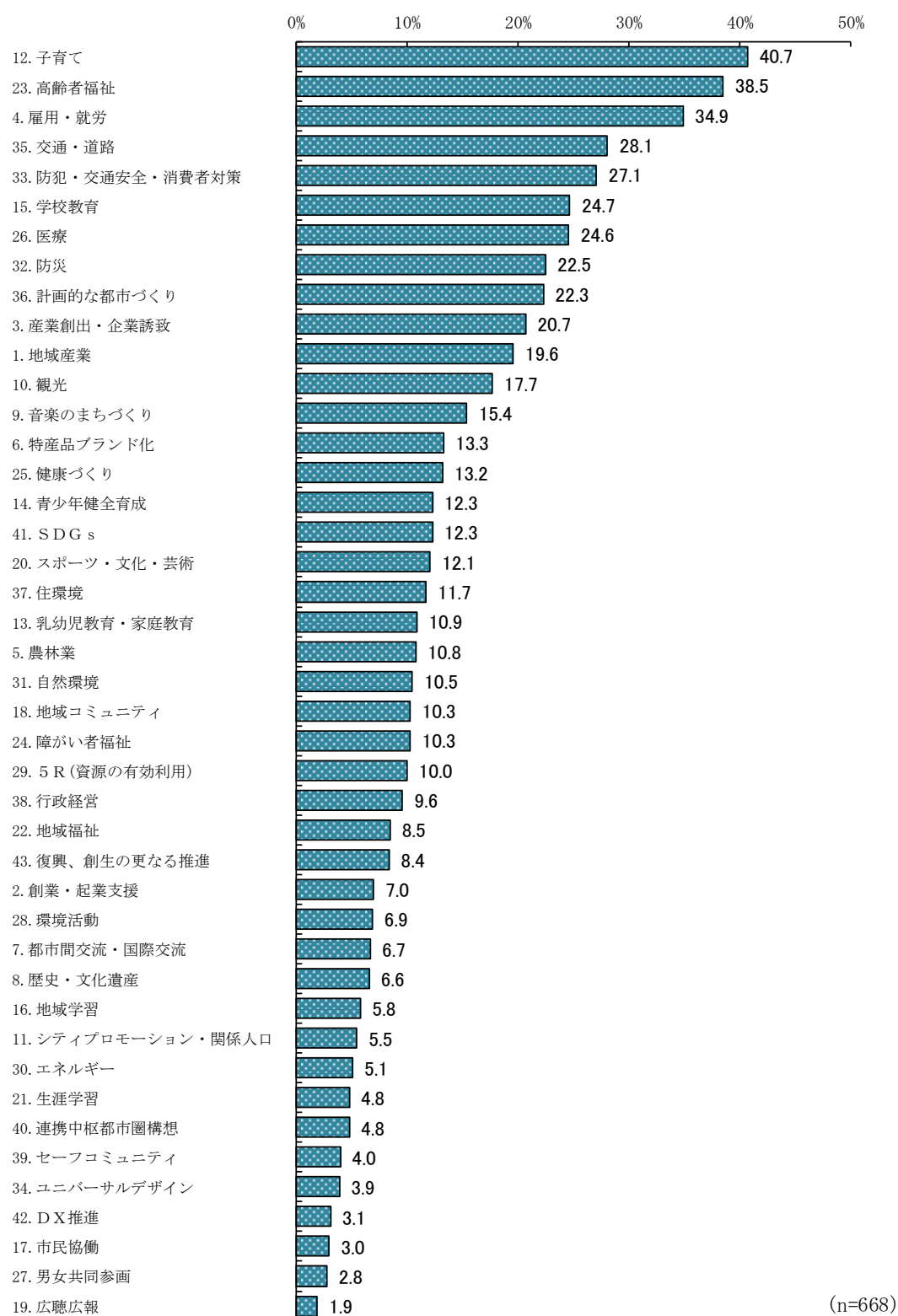
表3-12 基盤的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	セーフ コミュニティ (69.6点)	D X推進 (72.7点)
2位	D X推進 (69.4点)	セーフ コミュニティ (70.9点)
3位	行政経営 (68.5点)	復興、創生の 更なる推進 (70.3点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	行政経営	D X推進 (80.9点)	復興、創生の 更なる推進 (73.7点)	セーフ コミュニティ (71.6点)	D X推進 (71.5点)	D X推進 (67.7点)	S D G s (71.5点)
2位	セーフ コミュニティ 連携中枢都市 圏構想 (80.0点)	復興、創生の 更なる推進 (80.0点)	D X推進 (73.0点)	D X推進 (71.5点)	セーフ コミュニティ (68.6点)	セーフ コミュニティ (67.1点)	セーフ コミュニティ (71.1点)
3位		S D G s (78.9点)	セーフ コミュニティ (72.8点)	行政経営 (71.4点)	復興、創生の 更なる推進 (66.9点)	S D G s (66.9点)	D X推進 (69.6点)

(5) 分野別属性別重要度結果（複数回答）

問 現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、特に重要と思われるものの番号を1～43から5つ選び、その番号に○印をつけてください。



最も重要視されている施策・事業は「子育て」

【全体結果】

『12. 子育て』（40.7%）の割合が最も高くなっています。以下、『23. 高齢者福祉』（38.5%）、『4. 雇用・就労』（34.9%）、『35. 交通・道路』（28.1%）、『33. 防犯・交通安全・消費者対策』（27.1%）の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました（表3-13 参照）。

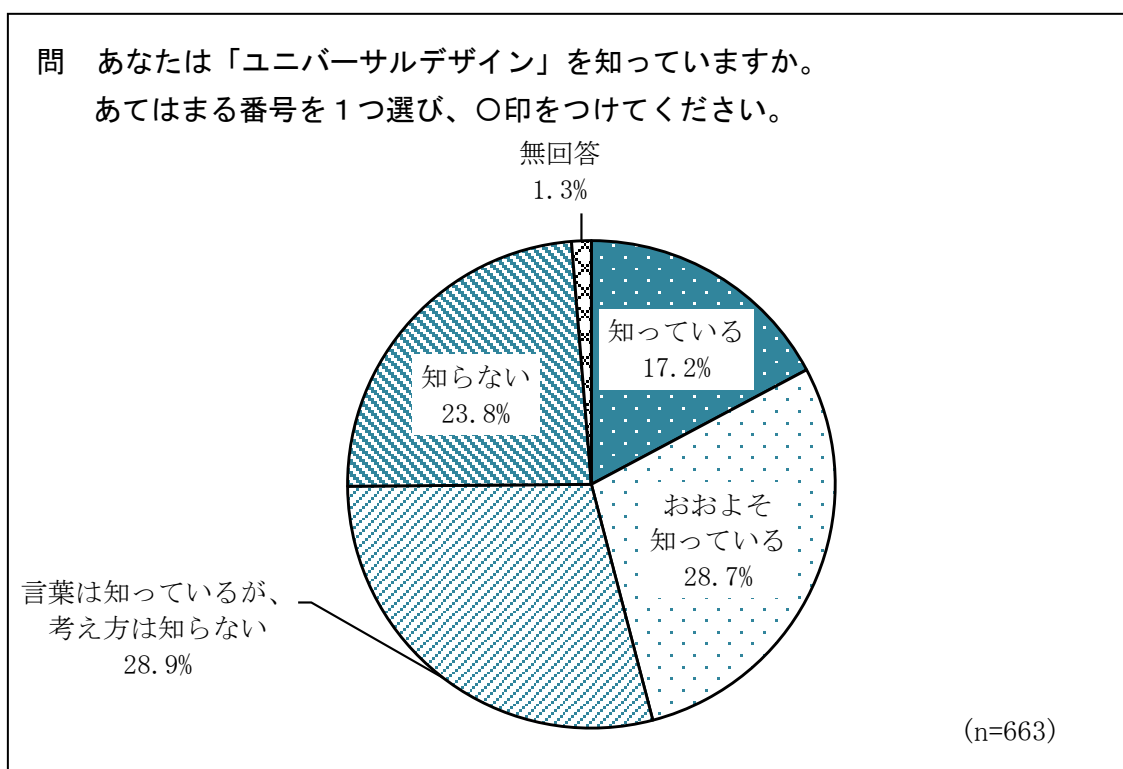
表3-13 これからの取組みについての重要度＜性別、年代別の上位5つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (43.1点)	高齢者福祉 (41.4点)
2位	高齢者福祉 (35.0点)	子育て (39.2点)
3位	雇用・就労 (33.3点)	雇用・就労 (36.4点)
4位	交通・道路 (30.3点)	防犯・交通安全・消費者対策 (29.2点)
5位	計画的な都市づくり (26.3点)	学校教育 (28.3点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	雇用・就労	子育て (59.4点)	子育て (67.1点)	子育て (52.1点)	高齢者福祉 (43.8点)	高齢者福祉 (45.6点)	高齢者福祉 (42.5点)
2位	学校教育	交通・道路	雇用・就労 (47.9点)	雇用・就労 (38.5点)	雇用・就労 (38.0点)	子育て (40.1点)	防犯・交通安全・消費者対策 (31.1点)
3位	高齢者福祉	計画的な都市づくり (43.8点)	防災 (32.9点)	学校教育 (36.8点)	交通・道路 (29.8点)	雇用・就労 (33.3点)	子育て (27.5点)
4位	防犯・交通安全・消費者対策	雇用・就労 (40.6点)	防犯・交通安全・消費者対策 交通・道路	交通・道路 (35.9点)	子育て (28.9点)	医療 (27.9点)	雇用・就労 (24.6点)
5位	計画的な都市づくり (50.0点)	観光 (31.3点)	交通・道路 (30.1点)	高齢者福祉 (33.3点)	地域産業 医療 (25.6点)	交通・道路 (25.2点)	交通・道路 (21.0点)

4. 誰一人取り残されないユニバーサルデザインのまちづくりについて

(1) ユニバーサルデザインの認知状況



————— 半数弱の市民がユニバーサルデザインを知っている —————

【全体結果】

ユニバーサルデザインを「知っている」または「おおよそ知っている」と回答した方は45.9%となっています。

【属性別結果】(図 4-1 参照)

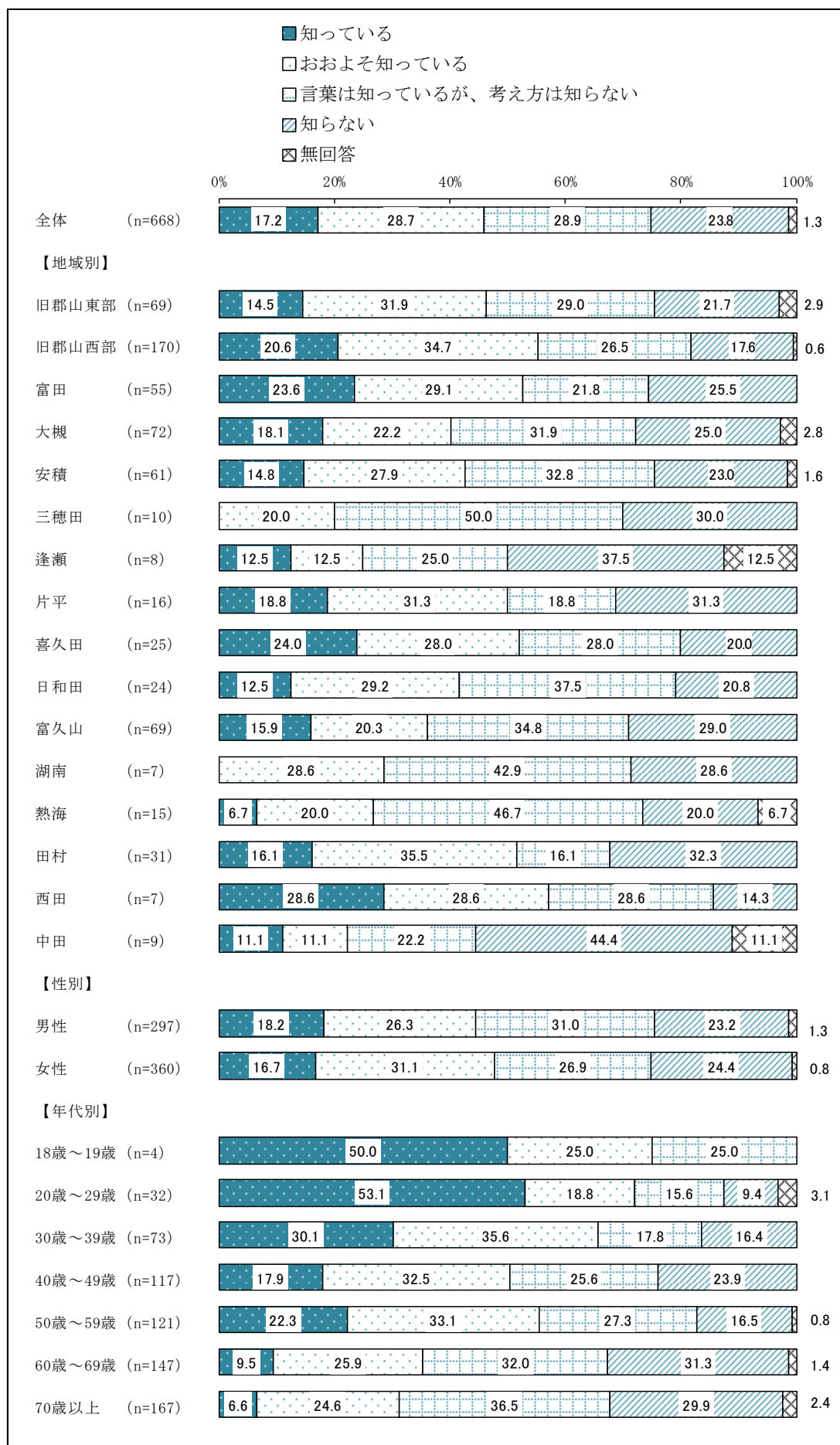
① 性別

「知っている」または「おおよそ知っている」と回答した方は、女性(47.8%)の方が男性(44.5%)よりもやや高くなっています。

② 年代別

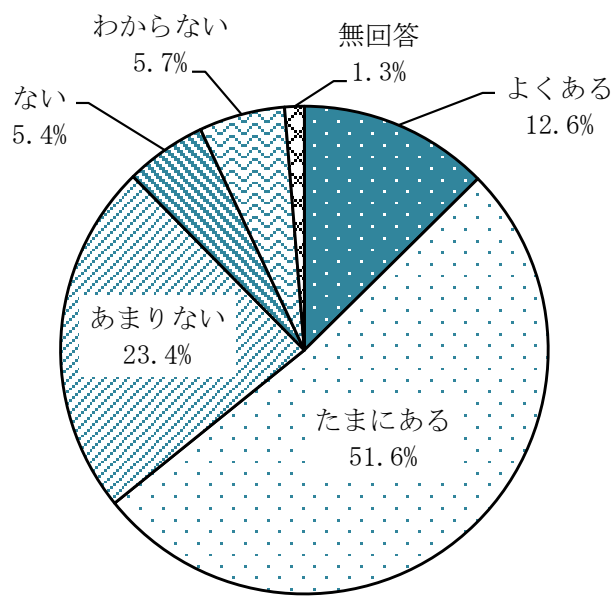
若年層ほど高い割合で「知っている」と回答しています。特に20代では半数以上が「知っている」と回答しています。一方で、高齢層では、「知らない」の割合が高くなっており、60代以上では約3割が「知らない」と回答しています。

図 4 - 1 ユニバーサルデザインの認知状況（地域別／性別／年代別）



(2) 思いやりの心について

問 あなたは、周りの人の「思いやりの心」を感じることがありますか。
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。



————— 6割強の市民が思いやりの心を感じることがある —————

【全体結果】

思いやりの心を感じることが「よくある」または「たまにある」と回答した方は64.2%となっています。

【属性別結果】(図 4-2 参照)

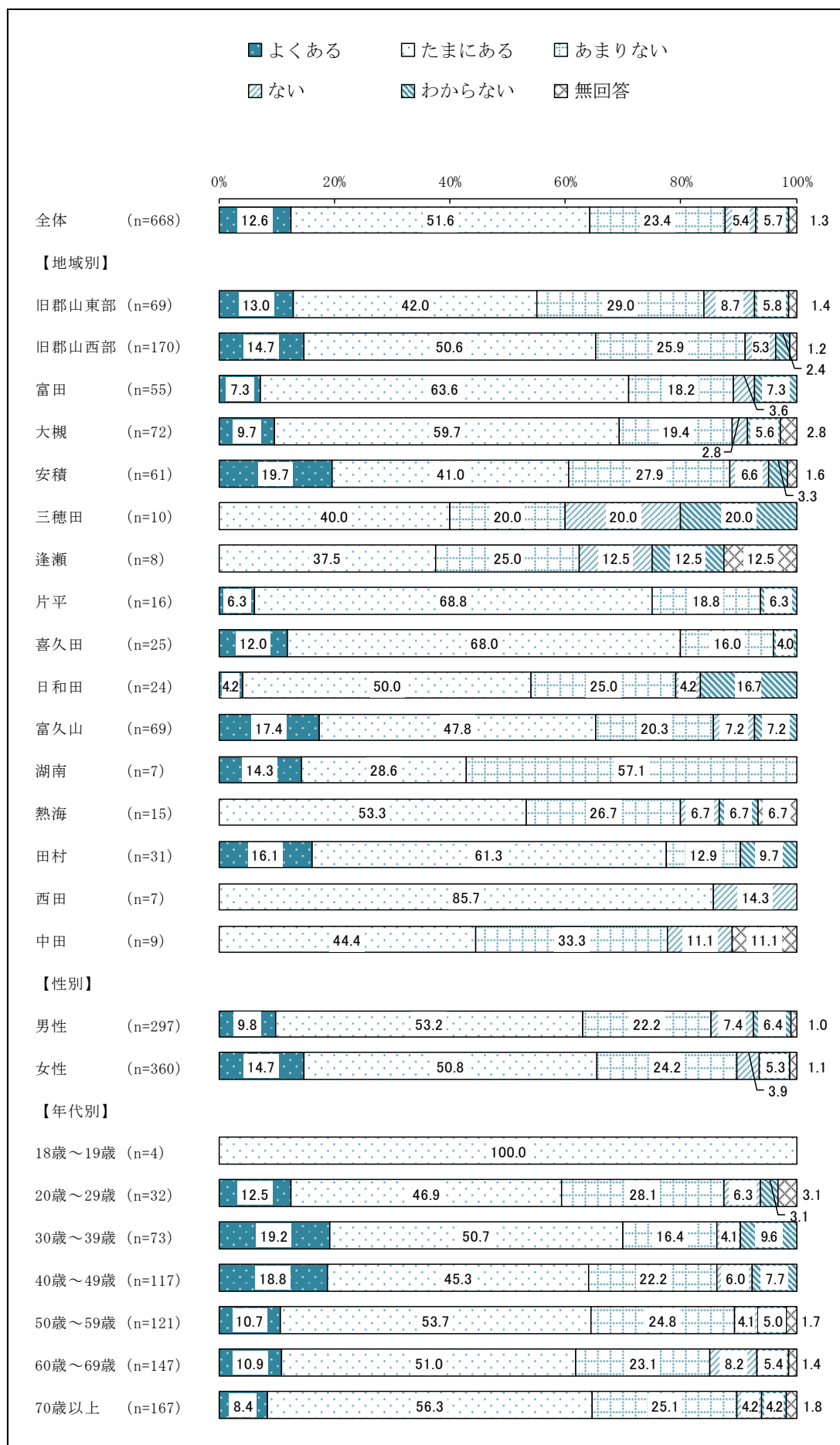
① 性別

「よくある」または「たまにある」と回答した方は、女性(65.5%)の方が男性(63.0%)よりもやや高くなっています。

② 年代別

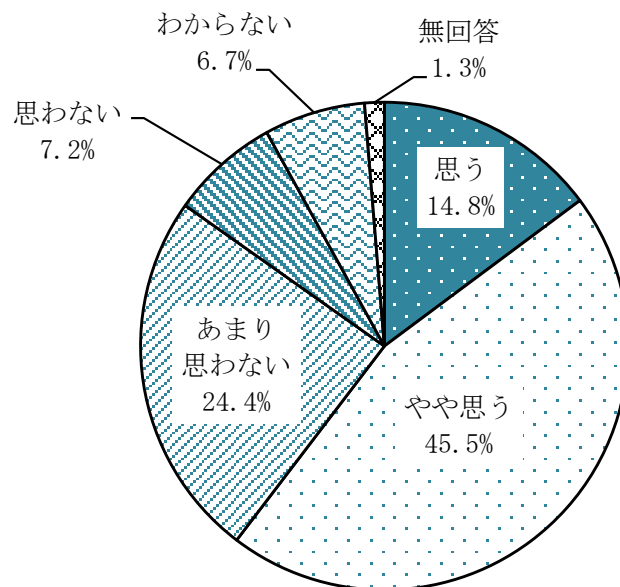
「よくある」または「たまにある」と回答した方は、30代(69.9%)で最も高くなっています。

図 4-2 思いやりの心について（地域別／性別／年代別）



(3) 市内施設の利用しやすさ

問 市内にある施設（市役所などの公的施設やスーパーなどの民間施設）は、利用しやすいものになっていると思いますか。あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。



(n=663)

——— 約6割の市民が利用しやすいと思っている ———

【全体結果】

利用しやすいと「思う」または「やや思う」と回答した方は60.3%となっています。

【属性別結果】(図4-3 参照)

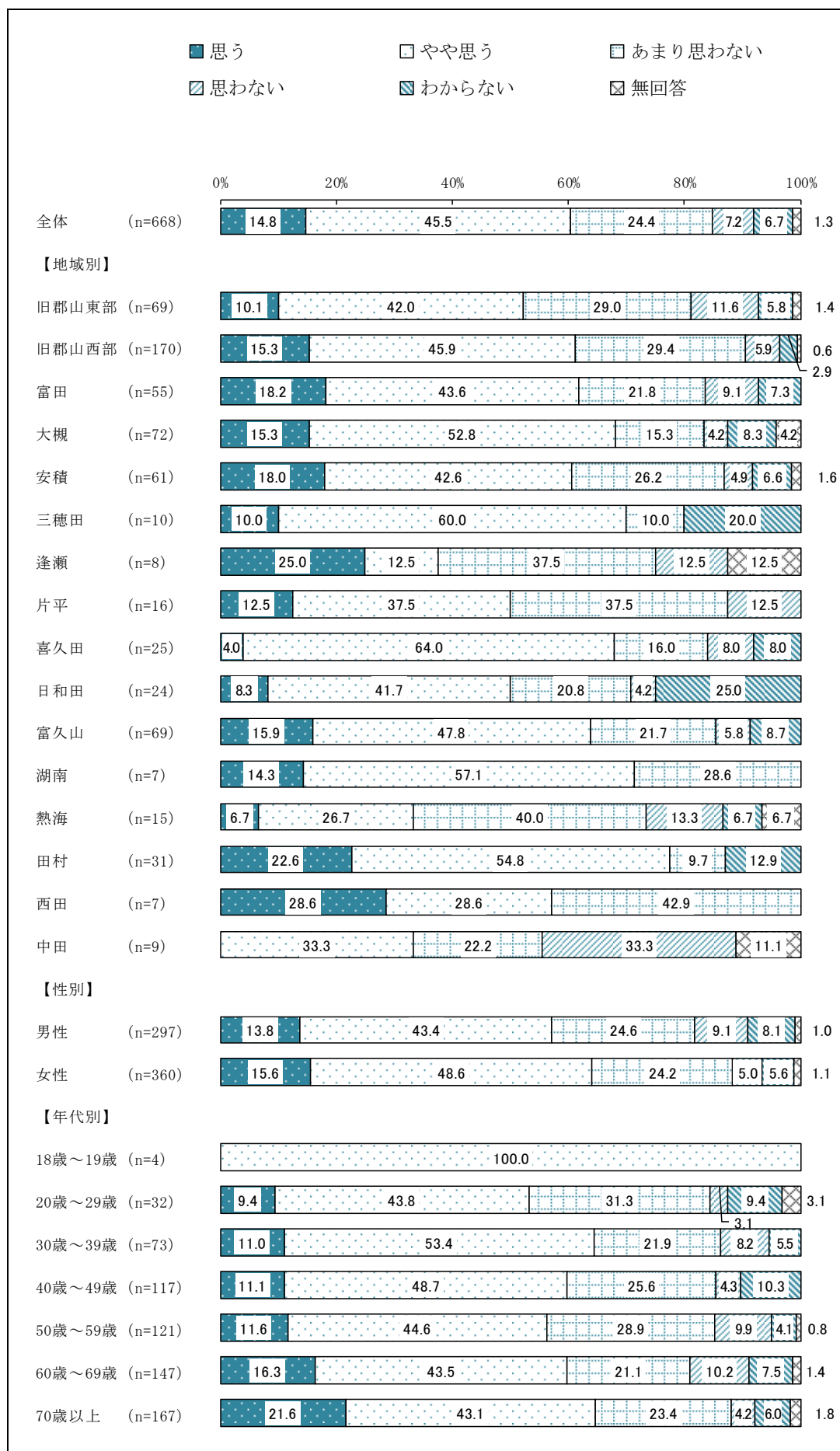
① 性別

「思う」または「やや思う」と回答した方は、女性（64.2%）の方が男性（57.2%）よりも高くなっています。

② 年代別

年齢が上がるにつれて「思う」の割合が増加しています。70代以上では21.6%が「思う」と回答しています。

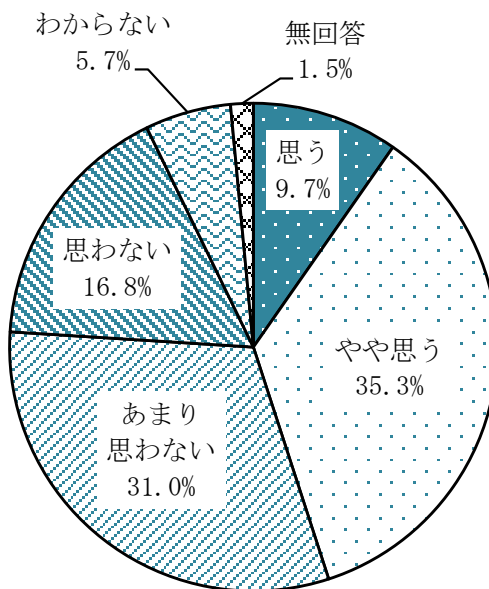
図 4-3 市内施設の利用しやすさ（地域別／性別／年代別）



(4) 市内の道路などの利用しやすさ

問 市内の道路や歩道、駅やバスターミナルなどは、安心して移動し、利用できるものになっていると思いますか。

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。



(n=663)

4 割強の市民が利用しやすいと思っている

【全体結果】

利用しやすいと「思う」または「やや思う」と回答した方は 45.0% となっています。

【属性別結果】(図 4-4 参照)

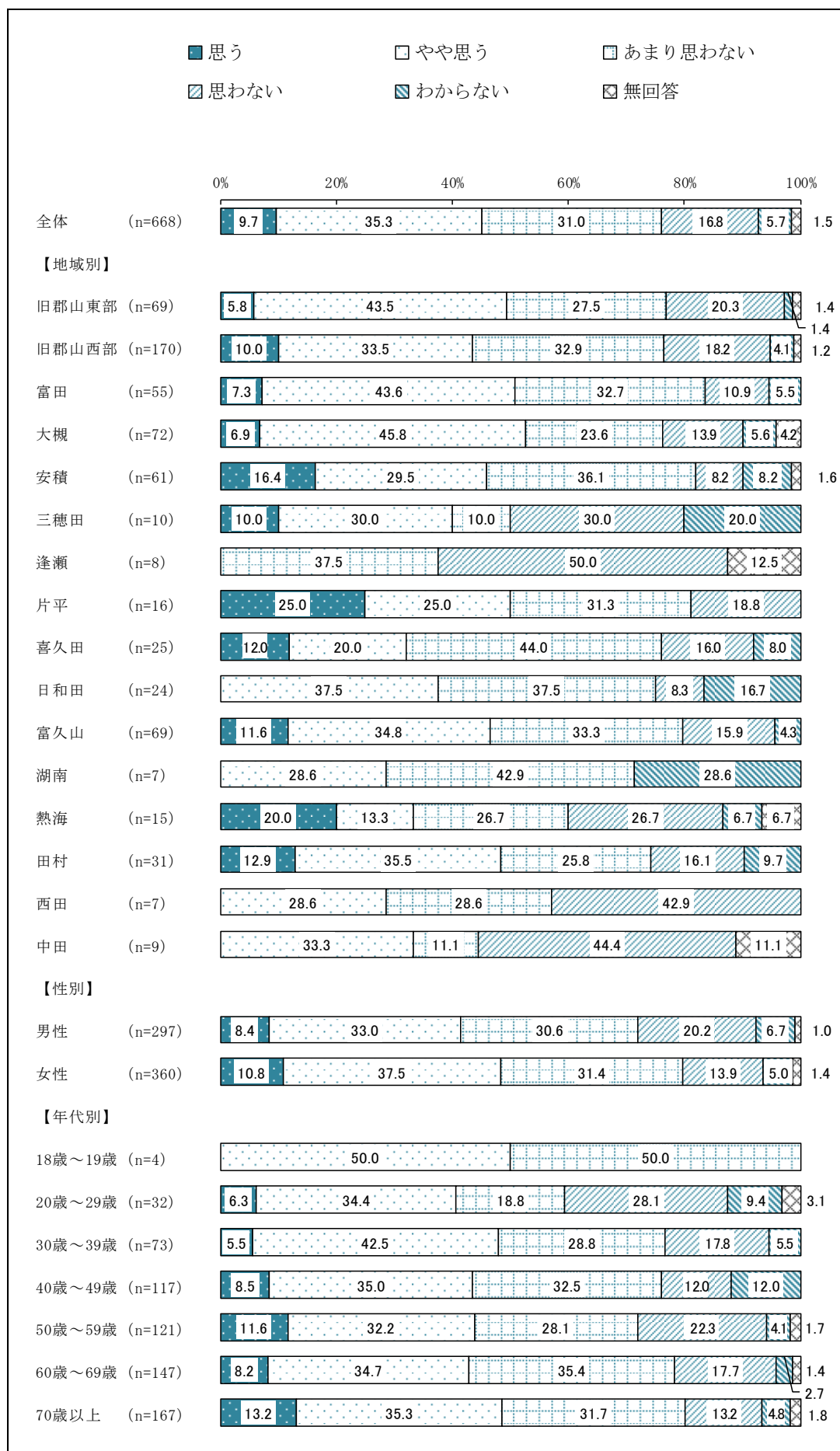
① 性別

「思う」または「やや思う」と回答した方は、女性 (48.3%) の方が男性 (41.4%) よりも高くなっています。

② 年代別

「思う」または「やや思う」と回答した方は、30 代 (48.0%) と 70 代以上 (48.5%) の 2 つの年代で高くなっています。

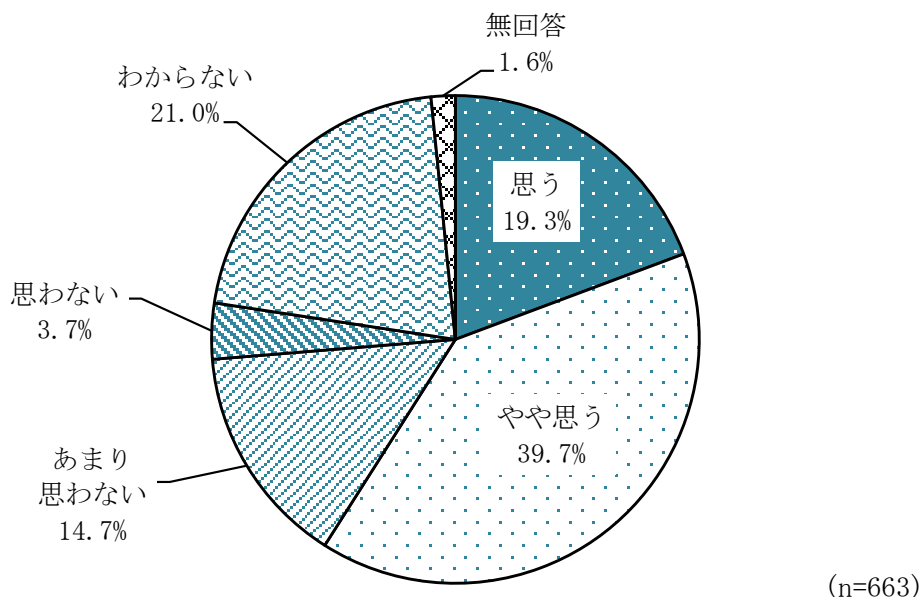
図 4-4 市内の道路などの利用しやすさ（地域別／性別／年代別）



（５）市が発信する情報の理解のしやすさ

問 広報こおりやまや市のウェブサイトなど、市が発信する情報は、やさしい日本語など、理解しやすいものになっていると思いますか。

あてはまる番号を１つ選び、○印をつけてください。



約 6 割の市民が理解しやすいと思っている

【全体結果】

理解しやすいと「思う」または「やや思う」と回答した方は 59.0%となっています。

【属性別結果】（図 4-5 参照）

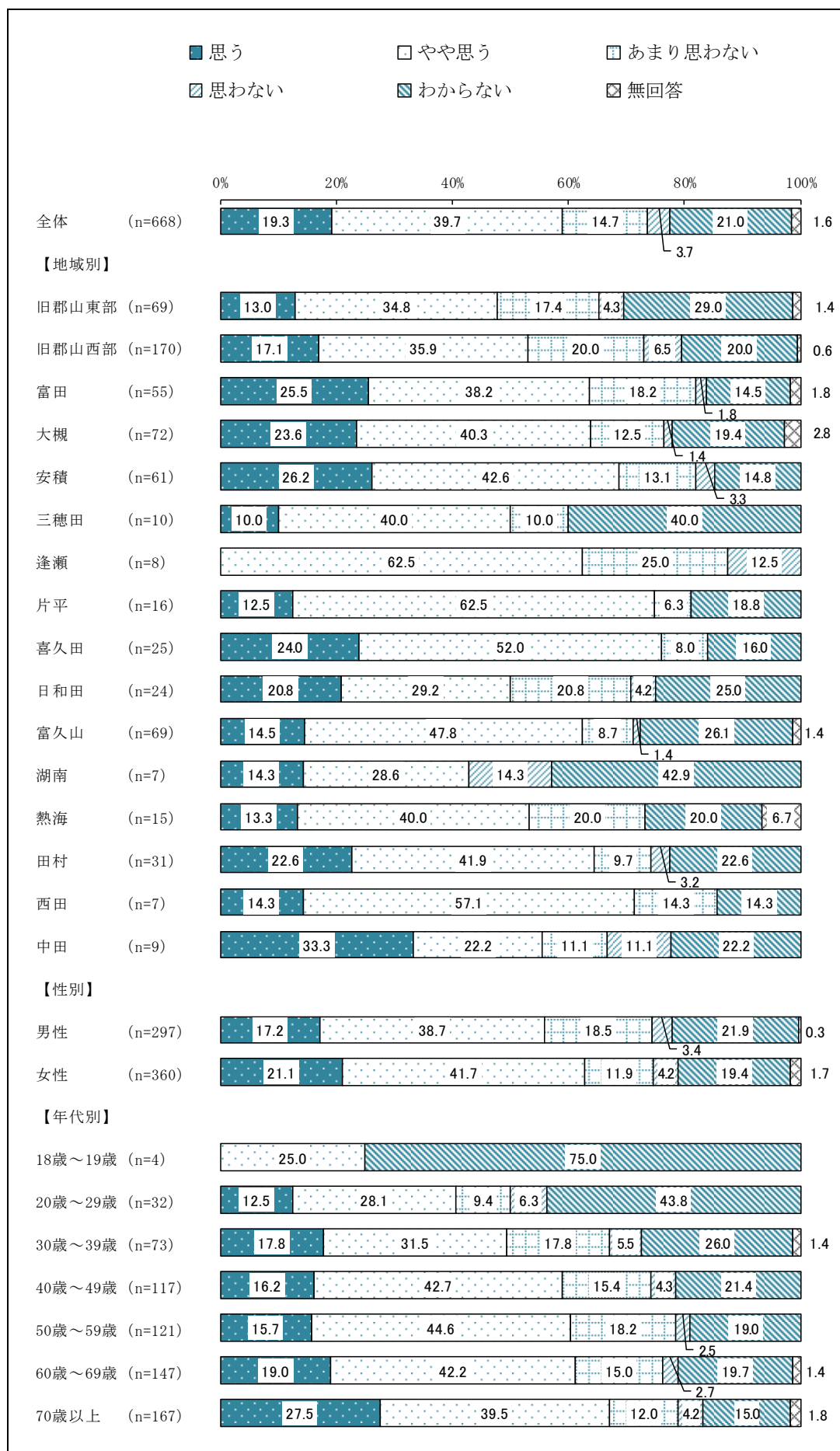
① 性別

「思う」または「やや思う」と回答した方は、女性（62.8%）の方が男性（55.9%）よりも高くなっています。

② 年代別

全体的に見ると、「やや思う」の割合が 30 代以上のすべての年齢層で最も高く、特に 40～60 代の年齢層で顕著です。また、20 代では「わからない」の割合が高くなっています。「思う」と回答した割合は高齢層で最も高く、若年層では比較的低い傾向となっています。

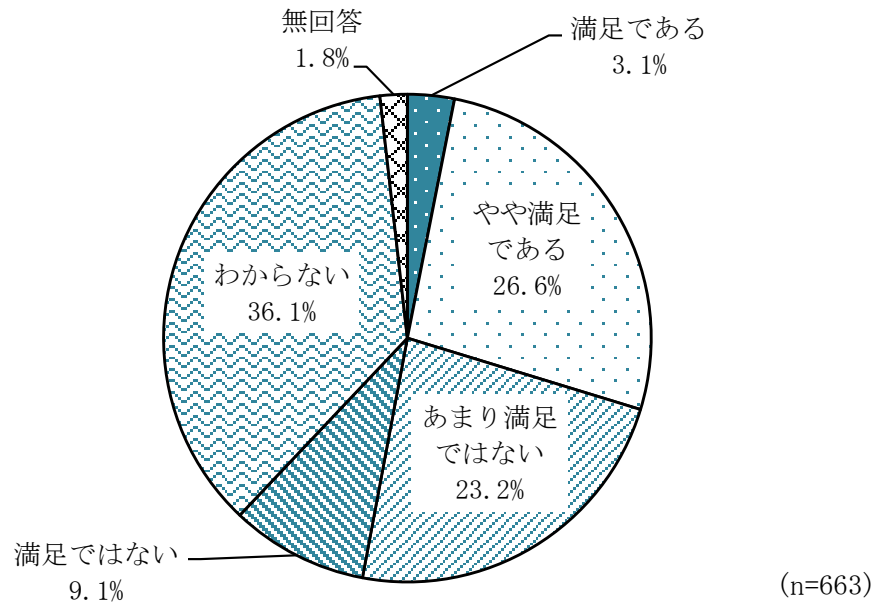
図 4-5 市が発信する情報の理解しやすさ（地域別／性別／年代別）



(6) 市の取組みに対する満足度

問 市は、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組んでいます。市の取組みに対するあなたの満足度はどの程度ですか。

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。



約3割の市民が満足している

【全体結果】

「満足である」または「やや満足である」と回答した方は29.7%となっています。また「わからない」と回答した方が最も多く36.1%を占めています。

【属性別結果】(図4-6参照)

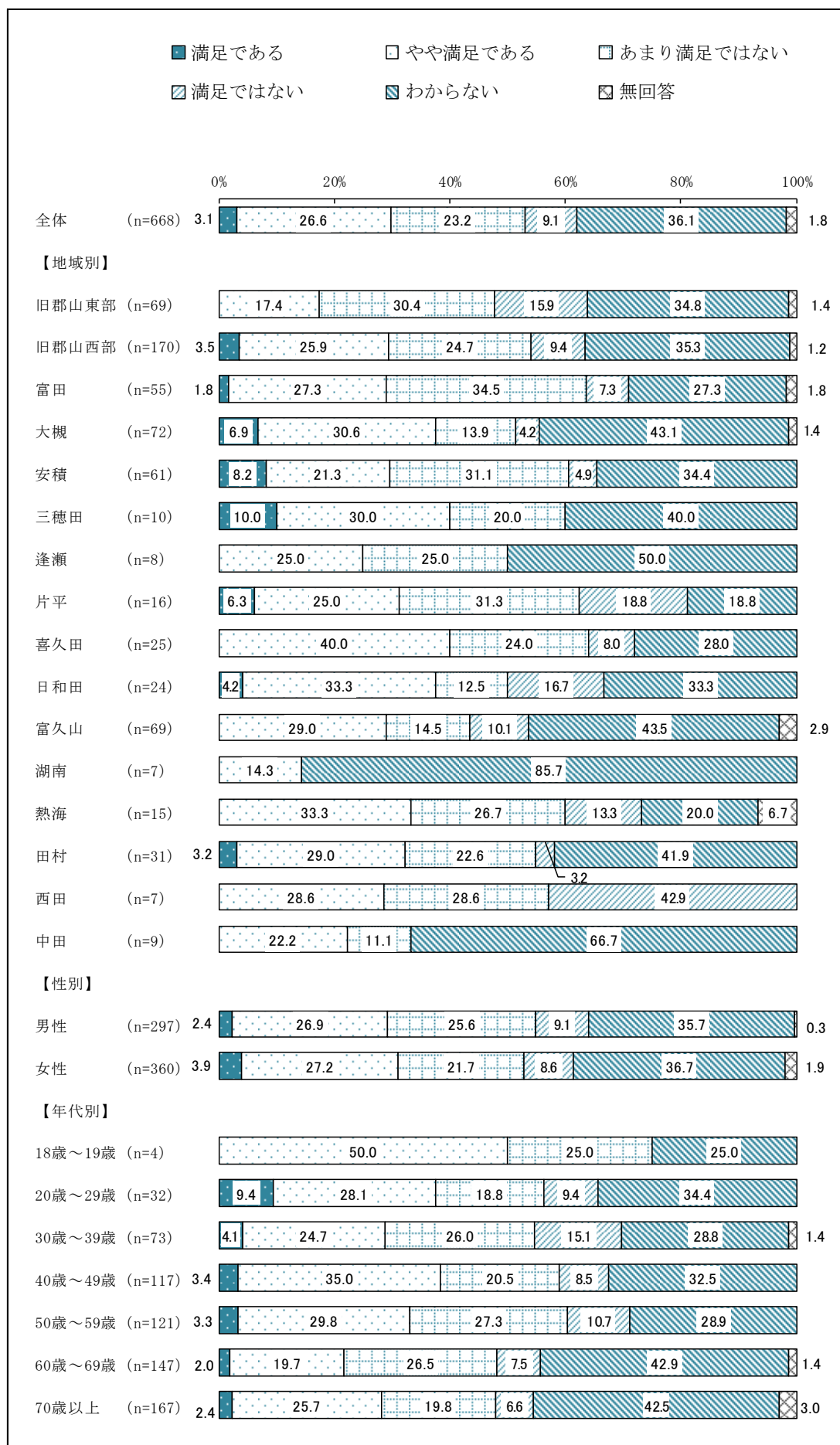
① 性別

「満足である」または「やや満足である」と回答した方は、女性(31.1%)の方が男性(29.3%)よりもやや高くなっています。

② 年代別

高齢層(60代以上)では「満足である」「やや満足である」と回答した割合が3割弱であり、「わからない」と回答した割合が4割強を占めています。

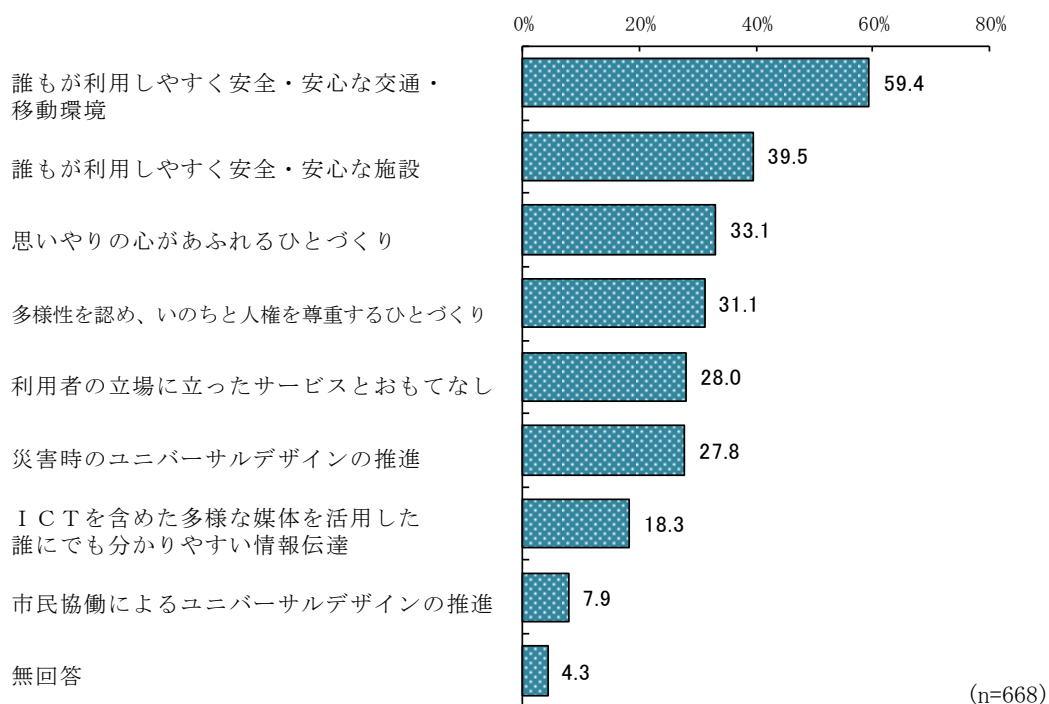
図４－６ 市の取組みに対する満足度（地域別／性別／年代別）



(7) 優先的に取り組むべき分野（複数回答）

問 「ユニバーサルデザインのまちづくり」を進める上で、市が優先的に取り組むべき分野はどれだと思いますか。

あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。



— 約6割の市民が「誰かが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境」への取り組みを重視している —

【全体結果】

市が優先的に取り組むべき分野は「誰かが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境」が59.4%で最も多く、次いで「誰かが利用しやすく安全・安心な施設」が39.5%、「思いやりの心があふれるひとづくり」が33.1%となっています。

【属性別結果】（図4-7 参照）

① 性別

性別での大きな差はみられません。

② 年代別

すべて年齢層で「誰かが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境」を選択した方が5割を超えており、重視する傾向があります。

図 4-7 優先的に取り組むべき分野～1/3～（地域別／性別／年代別）

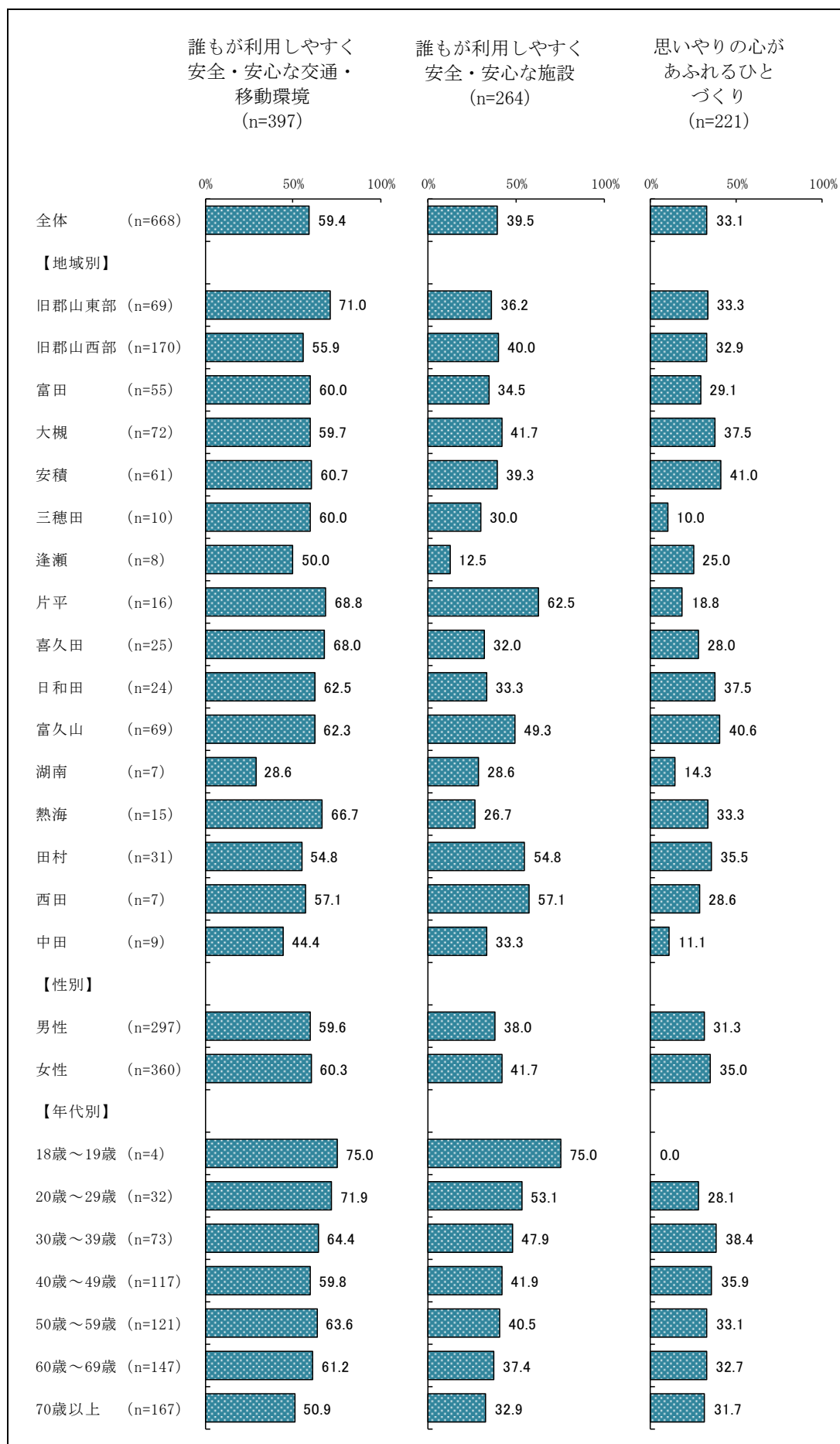


図 4-7 優先的に取り組むべき分野～2/3～（地域別／性別／年代別）

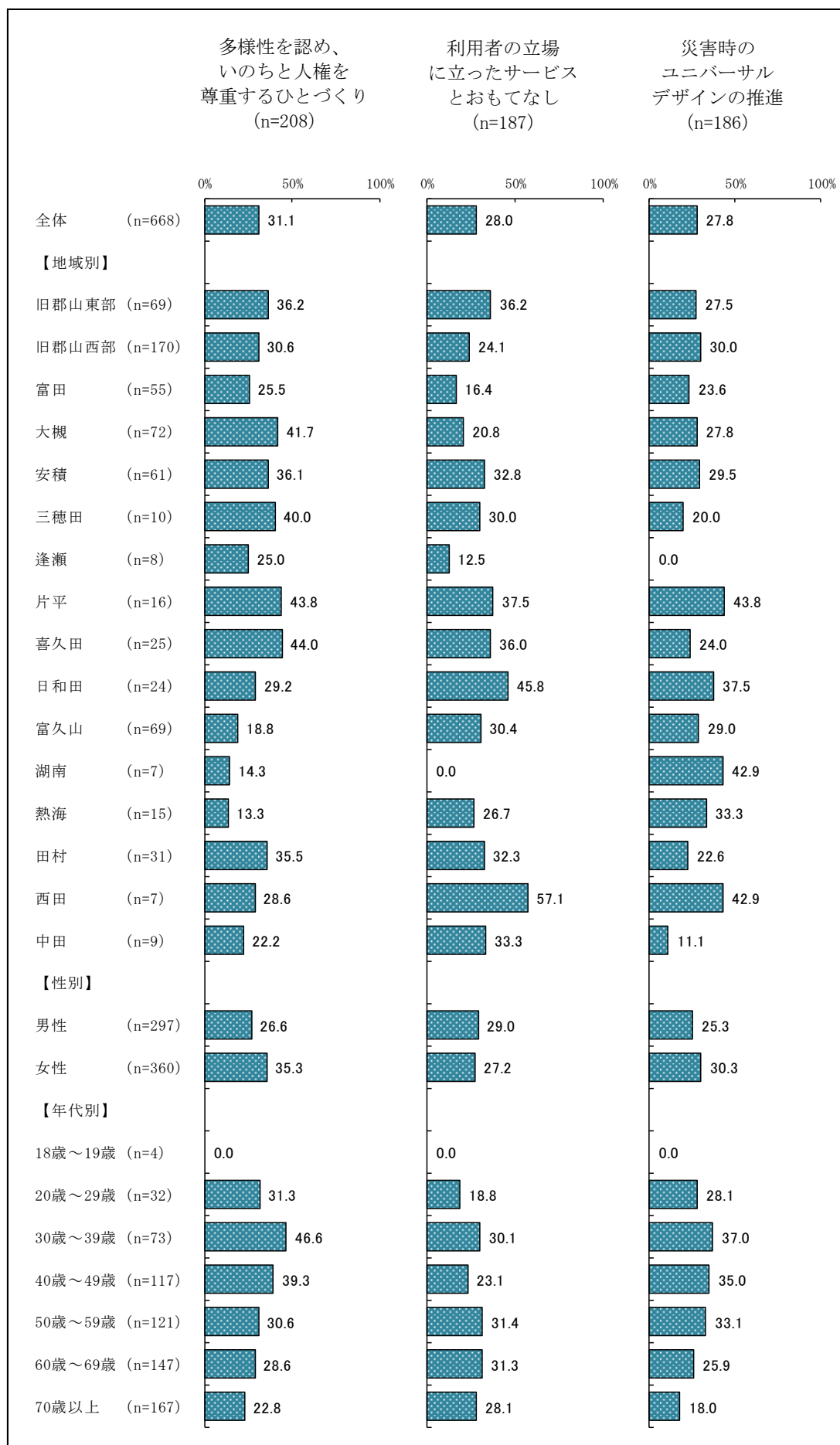
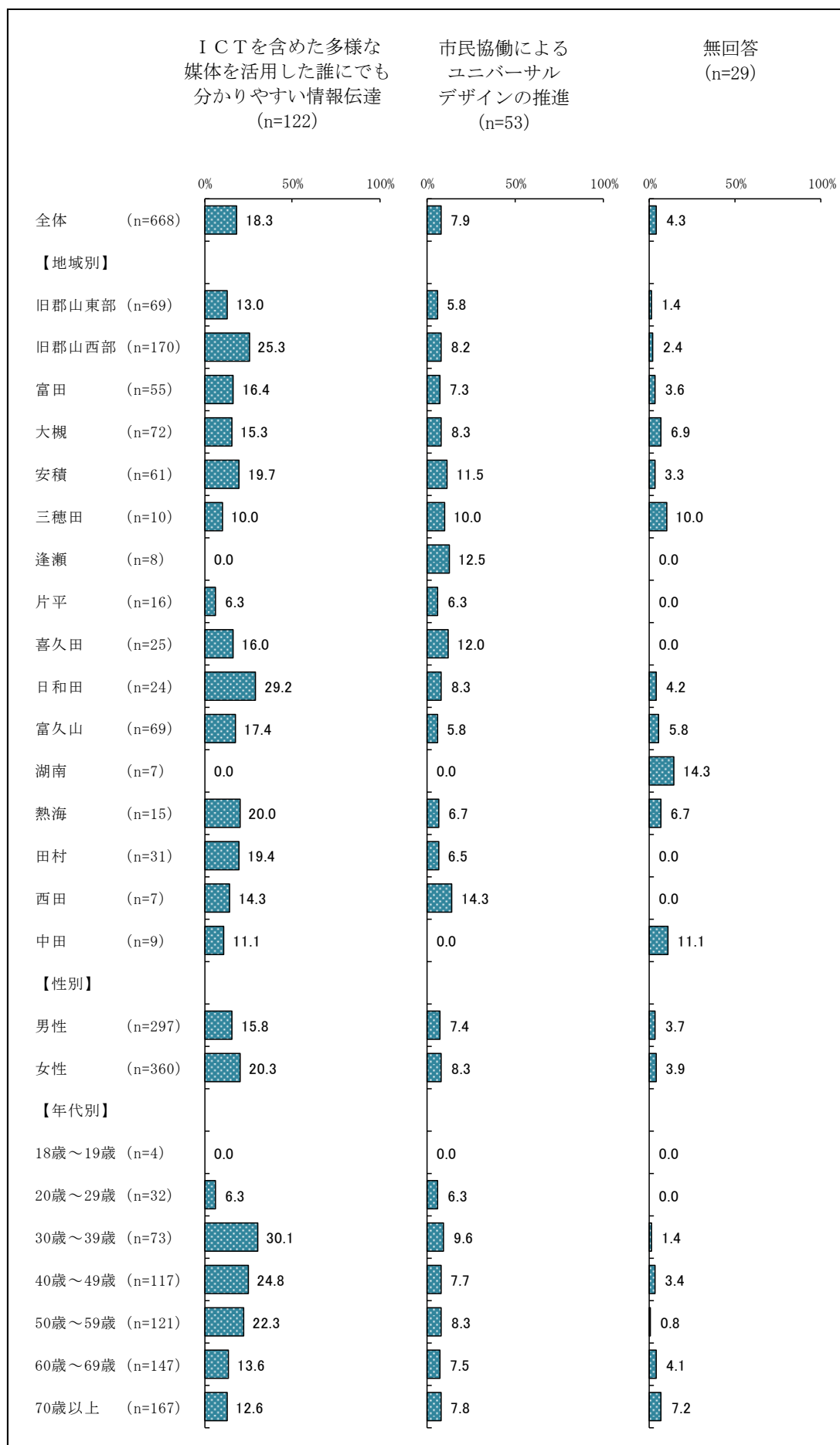


図 4 - 7 優先的に取り組むべき分野～3/3～（地域別／性別／年代別）



(8) ユニバーサルデザインのまちづくりについての意見等（自由記載）

問 ユニバーサルデザインのまちづくりを進めるために、
その他ご意見がありましたらご自由にお書きください。（自由記載）

ユニバーサルデザインのまちづくりについてたくさんのご意見が寄せられました。主な意見は以下のとおりとなります。

【ハート面】

- ・ ユニバーサルデザインという言葉や事業のわかりやすい周知徹底がまず必要と思う。（男性・60代）
- ・ 何年も前から言っているわりには、ほとんどすすんでいないのが現状である。必要としているものごとはどのようなものを各人がもっと体験できる場を多くして理解を深めるべき。（女性・60代）
- ・ ユニバーサルデザインという言葉と意味が理解できない。3R、5R、SDGS、DX等日本語でわかるような表現はできないのか。私はなぜか取り残されたような気分になっている。そう感じるのは私だけでしょうか。（女性・70代以上）
- ・ まずは、デザインの認知度を上げるための簡単な冊子を配布し、誰でもすぐ調べられる環境にする。その意味が浸透すれば自然と思いやりを持てると思う。（例えば、妊婦さん、視覚、聴覚などの障害情報）（女性・40代）
- ・ 障害を持った方が、他の健常者と同じように喜びや楽しみを感じられることが大切、大きなことではなく、外食や買い物日常的なことに目を向けるといいと思う。（男性・20代）

【ハード面】

- ・ 声で案内する信号機を増やしてほしい。段差がいたるところにあるので、なくしてほしい。標識が見えにくい。高齢者にも見えやすいようにもう少し大きくしてほしい。駅の改札が狭い。どんな人でも通りやすいように広げるべき。ノンステップバスを増やしてほしい。駅の階段に手すりを付けてほしい。バスや電車の優先スペースの拡張。（女性・50代）
- ・ 高齢者や子ども達により住みやすく暮らしやすい生活環境のさらなる充実。（男性・70代以上）
- ・ 路線バスを段差のない利用しやすいバスの車内にして、利用しやすく、誰もが利用しやすい様に、時間通りに来てくれる様に努力してほしい。（男性・30代）
- ・ UDだけ単体で考えるのではなく、SDGSや他の物と連動して考えなければならない。Ex) ①SDGS（ここでは低炭素社会）の実現のため、市民の公共交通の利用を促進すると共に、自転車移動を促進。そのために自転車ルール徹底、市道県道への自転車専用レーンを増加（現在あまりにも逆走が多い）②①に負荷して交通移動に関するUD化を促進、マイカー通勤から公共交通活用へのDXを利用したUD化。（男性・50代）

- ・ 仕事でバスを利用するのですが、バスが時間通りに来ず困ることがあります。周りの方も同じように感じている方も多いので、時間通り来れるようなしくみ、工夫がされていけばより安心です。(女性・30代)
- ・ バリアフリーを意識してるのは感じられるが実際には車いすでは通れない歩道が多々ある屈折した踏切など車いすの前輪がハマりやすい道路も多い。(男性・50代)

【ソフト面】

- ・ 情報の整理が必要です。日本は多くを行い過ぎているので、まずは情報を整理し、優先順位を明らかにした方がよいと思う。(男性・40代)
- ・ I C Tに関して。L I N Eで情報という感じだと思いますが、L I N Eをやっていない場合は情報はどちらで？と思います。あえてL I N Eをやりたくない人もいるのですが。(女性・50代)
- ・ 案内表示や広報紙など目に触れる情報について、①漢字にルビをふる。②(キーワードだけでも) 英語の訳文を付けるを徹底してはどうか。特に①。漢字にルビをふって平仮名読みができるだけでも、子どもにも外国人にも理解しやすくなると思う。(男性・40代)
- ・ 大きい文字表記、音声ガイダンス(声大きい目)。(女性・40代)
- ・ I C T含めた情報伝達はこれからの主流になると思うが、私の両親(80代)はスマホを持っていてもL I N Eの使い方もわからない。高齢者への使い方レクチャー会とかあれば、いろんな情報交換ができるし、災害時にも役立つ。(女性・60代)
- ・ スマホが苦手な人々にとり、常時対応してくれるサービスがあればありがたいです。(女性・70代以上)
- ・ 道路標識やマップ、市の広報等、外国籍の人にも伝わりやすいよう、デザイン・言葉を工夫してほしい。(男性・40代)

5. 市への意見や要望など

問 市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記載)

現在、郡山市が進めているまちづくり（取組み）についてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を分野ごとに抜粋し、掲載しました。

寄せられましたご意見につきましては、ここに掲載していないものも含め、今後の市政運営に活用させていただきます。

【分野Ⅰ】産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）

【商業・工業】

- ・ スマートIC付近の商業施設、住宅地を増やしてはどうでしょう？（男性・40代）
- ・ 工業団地2箇所、太陽光3箇所、もっと自然を大切にしてほしい。
(男性・70代以上)
- ・ 若者にとって魅力的な企業の誘致やシネコンの誘致などをしないとどんどん人口が減る一方だと思う。将来の事を考えるなら子育て教育環境の整備など若者中心の政策を取るべきだと思う。（男性・20代）

【雇用】

- ・ 東北道、磐越道、新幹線これだけ交通の便がある割には企業勧誘がいまいちだと思う、もっと雇用を増やせるのに、大型商業施設もっと出来れば人の流れ、お金の流れが良くなるのに積極性を感じない。（男性・40代）

【農林業】

- ・ 求職中だが正社員求人が少ない。給与引き上げに対応できるのは大企業のみで生活基盤を整えることが困難。農業については有機農業を応援しています。
(女性・40代)
- ・ 郡山市の特産品が知られていないため、店やCM等でアピールしていくべきだと思う。（女性・20代）

【分野Ⅱ】交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）

【交流】

- ・ 若い人たちの交流イベントが増えるといい。（女性・40代）
- ・ 台湾・韓国など近隣との交通・交流が少ない。（男性・70代以上）

【文化】

- ・ 外国の方の文化を知る機会として交流会などが子連れであると良い。幼稚園や小学校などでお知らせしたり、幼稚園や小学校単位で実施しても良い。気軽に異文化交流出来る場があると嬉しい。（女性・30代）

【観光】

- ・ 例えば郡山城を復元するなど観光資源の拡充を図るなど、呼び込む環境を整えることが大切かと思う。(女性・50代)
- ・ 素晴らしい歴史と自然を感じるもののそれを観光産業に活かしているとは感じません。もったいないように思います。(男性・40代)
- ・ 湖南やペグマタイト等自然活用して観光の集客すればと思う。(男性・50代)

【シティプロモーション】

- ・ 町で観光客(外国人)を見かけない。何か魅力的なものをSNSで発信し、呼び込めればいい。(女性・60代)
- ・ 郡山市は観光するものがない。シティプロモーションに関しても、魅力があまりない。(女性・30代)

【分野Ⅲ】 学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）

【子育て】

- ・ 子を持つ親、これから子育てをしたい層への経済的な支援がもう少し広がると良いと思う。(女性・20代)
- ・ 小中学校の給食費が無料になり、とても助かっています。子どもは、この国の未来だと思いますので、未来への投資として、子育てに関わる費用はどんどん補助すべきだと思います。(女性・40代)

【教育】

- ・ 家庭教育も大事ですが、学校教育はもっと大事。しっかりと先生を教育してほしい。(女性・70代以上)
- ・ 学校教育をはじめ、知識、理解など記憶再生ばかりを重視して、自ら考え、自ら行動できる資質を育てる機会が乏しいかと思う。(女性・50代)

【地域学習】

- ・ 地域学習でも将来郡山に戻ってきたい！郡山のために力を出したい！と思える人材を育てるべき。東大に何人入れるか！ではない。(その他・60代)

【分野Ⅳ】 誰もが地域で輝く未来（市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野）

【市民協働】

- ・ 市民参加のイベントは知る人が知る感じで、市民全員が把握できていない。(女性・50代)
- ・ 町内会への全員参加と勧誘活動で明るく安心安全なまちづくり、誰一人も取り残さないSDGs郡山市をつくる。(男性・70代以上)

【生涯学習】

- ・ 市行政がいろいろやっている。しかし、それは特定の人々をのみ対象としている。仕事を持っている人にとっては不自由不便である。たとえば、何かを学びたい時、18：00 くらいからの青年学級（公民館で行うべき事業）がどれだけあるか？NHK文化セミナーなどの方が充実しているのでは。各公民館がやるべき。公民館がやっているのは昼間だけなので、働く人々は利用できない。青年学級はもっと充実させるべき。（その他・60代）
- ・ 人材バンクのように定年後も資格を生かして働けるようなものがあれば企業も、求める人材を探しやすいと思います。（女性・40代）

【保健福祉】

- ・ 発熱の時など（コロナの悪化など）に受け入れてもらえず、たらい回しになったことがあり、とてもつらかったので、そのようにならないような医療体制になってももらえるといいと思う。（女性・20代）
- ・ 都会では育休の男性の取得率が高いのに地方都市はまだ取りづらい。もしかしたら私個人が知らないだけかもしれないが、市からもわかりやすくアクションを起こしてほしい。（女性・30代）

【男女共同参画】

- ・ まだ男女で区別されてる付番が多くある。（女性・30代）

【分野V】暮らしやすいまちの未来（環境・防災・市民安全・生活インフラ分野）

【環境】

- ・ 再生可能エネルギーの点から、太陽光発電（パネル）の設置は必要ですが、環境問題や災害発生の観点から規制も考えるべきだと思います。（福島市でも問題になっています）（男性・70代以上）
- ・ 5Rに関して、ゴミに対しての意識が低い人が多い。ゴミの分別をしない人に分かってもらうにはどうすれば良いのか？簡易的な生ゴミコンポスト購入しやすい環境にして欲しい（助成金を出す等）。使わなくなった物もまだきれいで使えるものであれば必要としている人に無償で渡せるような場所があればと思います。ごみ減量が最大の課題だと思っています。（女性・50代）

【防災】

- ・ 災害時外の放送が聞こえないので希望者には自宅内に防災無線があればいいと思う。自宅前の側溝や道路が壊れているので早急に対応してほしいです。テレビの映りも時々悪いので調べてほしいです。（テレビを修理してもらった時に木や建物がじゃまをして映りが悪くなっていると言われました。）（女性・60代）
- ・ 防災を考えた道路環境の整備。（男性・60代）

【市民安全】

- ・ 重ねてになるが、歩道が少ないので安全な歩道をふやしてほしい。また、車いすやベビーカーに配慮した整備を。(女性・30代)
- ・ 誰もが行きたいところに行きやすいまち。安心安全なまちになったら住人も増えるのでは？(女性・60代)

【生活インフラ】

- ・ 駅前に向けての道路が大変混みあう点が不満である。(男性・30代)
- ・ 整備された公園が多数あるのは好ましいが全て駅の西側に集中している。駅の東側にも目を向けて欲しい。(男性・50代)

【分野Ⅵ】基盤的取組（行政経営、セーフコミュニティ、連携中枢都市圏、SDGs、DX推進、復興・創生の更なる推進）

【行政経営】

- ・ 行政手続きなどアナログの人達もいる事を忘れずに。(女性・70代以上)
- ・ とにかく、便利なワンストップ行政を実現してください。(男性・50代)

【セーフコミュニティ】

- ・ 自転車専用レーンが少ない。ドライバーの中にはモラルが低い方がいる。危険を感じた事がある。セーフコミュニティの活動で、動画を撮影することで、危険を予防したり、証拠としたりすることができると思う。ドローン等で、パトロールや危険個所の発見をする。路面の状況やガードレールの状況等をパターン認識で判別できる。ドローンは地図と連携して無人で作業させる。データ処理も自動化し、人員は最小限にする。担当者は、行路を設計し、結果を判断するだけになるのが理想。連携中枢都市圏構想では、企業間の連携を進め、世界で商売ができる企業連合を作っていくべきなのだろうか。ゾンビ企業ではアメリカの巨大テック企業とは勝負にならない。成果を数値化し、問題点を明確にすべき。例えば、ハイテクプラザは予算に対し、成果物の何倍出すことができたのか。地域にどれだけの恩恵をもたらしたのか。(男性・40代)

【DX推進】

- ・ 住民票の写し取得など、窓口以外で取れるようになったのが遅い。他の地域では10年前にはすでにできている。印鑑証明なんか紙である。ペーパーレス化が進んでない。(男性・30代)
- ・ DX推進が果たしていいことなのか疑問です。システム障害等が起こると、かえって不便になりますし・・・停電でも・・・。(女性・50代)
- ・ DXの推進と、地域の雇用は相対する部分があると思うので、雇用を守りつつDXを推進する必要があると考えます。(男性・50代)

【復興、創生の更なる推進】

- ・ 車社会だからなのか、車が一番偉いと思っているドライバーが多く、信号を守っていてもひかれそうになることも多々あった。歩行者優先の認識が低いのではないのでしょうか。郡山市で特産品などあるのか？というイメージしかないのもっとアピールしていくべき。震災でどのくらいの被害があったのか知らないので復興が進んでいるかもわからないが、道路や歩道が歪んだままの所もあると聞いたので、やるべき課題はたくさんあると思う。(女性・30代)
- ・ 3.11の復興だけでなく、ガス爆発、洪水、地震などへの対策や手当も市民にわかりやすく情報伝達することも重要かと思われます。(男性・50代)

(付) 調 査 票 様 式

あなたの声をお聞かせください

～2024年度郡山市民意見レーダー～



回答方法①

①調査票を記入



②同封の返信用封筒
(切手不要)に入れる



③ポストに投函



令和6年6月14日(金)までにポストに投函してください。

回答方法②

スマートフォン または パソコン により、
右のQRコード、または検索方法でアクセスのうえ、回答してください。

【アクセス方法】

ふくしま電子申請

検索



回答ページに
つながります

➡ 「ふくしま県市町村共同電子申請システム団体選択ー福島県ホームページ」
をクリックし「郡山市」を選択 ➡ 「2024年度郡山市民意見レーダー」を選択

《重複を避けるため、回答方法①または②のどちらかで回答してください。》

◆◆◆ 回答に当たってのお願い ◆◆◆

●調査票は、原則として「あて名のご本人様」が記入してください。やむを得ず、ご本人様以外の方が記入される場合は、必ずご本人様の意思をご確認の上、記入してください。

○ ご不明な点がありましたら、下記までお問合せください。

郡山市政策開発部広聴広報課（市役所本庁舎2階）
電話 024-924-2061

1 幸福度の現状について

あなたが普段感じている気持ちについてお伺いします。

(1) あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか？

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 幸福を感じる (とても幸せ) | 4. どちらかという和幸福を感じない
(どちらかという不幸せ) |
| 2. どちらかという和幸福を感じる
(どちらかという幸せ) | 5. 幸福を感じない (不幸せ) |
| 3. どちらでもない (普通) | |

(2) あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか？

1～17のうちあてはまるものの番号を3つまで選び、○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 健康状況 | 10. 治安・防災関係 |
| 2. 家族関係 | 11. 子育て環境 |
| 3. 居住環境 | 12. 就業状況 |
| 4. 自由な時間、充実した余暇 | 13. 地域コミュニティとの関係 |
| 5. 家計の状況 | 14. 教育環境 |
| 6. 友人関係 | 15. 社会貢献 |
| 7. 自然環境 | 16. 地域の歴史・文化 |
| 8. 仕事のやりがい | 17. その他 |
| 9. 職場の人間関係 | |

【「その他」を選択した方は重視している項目を別途お書きください。】

2 郡山市の住みやすさについて

まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じているか、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

(1) あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 住みやすい | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 2. どちらかといえば住みやすい | 5. 住みにくい |
| 3. どちらともいえない | |

【「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」とお感じになる理由をご自由にお書きください。】

(2) あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 現在の住所にずっと住み続けたい | 4. いずれは市外に住みたい |
| 2. 市内の別の地域に住みたい | 5. 住みたくない |
| 3. どちらともいえない | |

【「いずれは市外に住みたい」または「住みたくない」とお考えになる理由をご自由にお書きください。】

3 郡山市のまちづくりについて

現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

【1. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野)	よい	どちらかといえばよい	どちらかといえば悪い	不満	わからない
1. 地域産業 地域の中小企業の事業承継 ※1 やM & A ※2 をはじめ、産業の新陳代謝や持続的発展など活性化が図られているか ※1 会社等の経営を後継者に引き継ぐこと ※2 合併・買収	5	4	3	2	1
2. 創業・起業支援 創業・起業がしやすい環境が整っているか	5	4	3	2	1
3. 産業創出・企業誘致 研究開発機関や大学等との連携により、再生可能エネルギー ※3 や医療機器関連産業など本市の強みを活かし、新しい分野の産業や企業の育成、誘致・集積等、産業の振興が図られているか ※3 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1
4. 雇用・就労 市内企業の安定的な雇用があり、多様な働き方ができる労働環境が整っているか	5	4	3	2	1
5. 農林業 農林業の生産性向上、担い手の確保等により活性化が図られているか	5	4	3	2	1
6. 特産品ブランド化 食や農を生かした特産品がブランド化され、注目されているか	5	4	3	2	1
【1. 産業・仕事の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	よい	どちらかといえ	どちらかといえ	不満	わからない
7. 都市間交流・国際交流 様々な地域や国の人々との交流・活動を通じ、友好や相互理解を深める等、国内外に開かれたまちとなっているか	5	4	3	2	1
8. 歴史・文化遺産 日本遺産など豊かな歴史に根ざした地域資源が適切に保存されるとともに観光資源やまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
9. 音楽のまちづくり 音楽に触れる機会や環境が整い、音楽がまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
10. 観光 観光誘客や観光資源の活用及びコンベンション ※1 の誘致により国内、インバウンド ※2 の観光客等が増加しているか ※1 企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等 ※2 入ってくるものという意味から転じて、外国（区域外）から訪れる旅行を指す。 対義語：アウトバウンド	5	4	3	2	1
11. シティプロモーション ※3・関係人口 ※4 本市の魅力が広く内外に発信され、知名度が向上し、関係人口の拡大や移住・定住の促進が図られているか ※3 地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法 ※4 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者	5	4	3	2	1
【Ⅱ. 交流・観光の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)	よい	どちらかといえ	どちらかといえ	不満	わからない
12. 子育て 安心して生み育てられる環境が整っているか	5	4	3	2	1
13. 乳幼児教育・家庭教育 家庭、地域、企業そして子育て・教育機関が連携して、子育てや教育を学びあう環境が整っているか	5	4	3	2	1
14. 青少年健全育成 子どもたちの安全な居場所や地域での見守りなど、健全に育つ環境が整っているか	5	4	3	2	1
15. 学校教育 子どもたちの「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育成するために、どの子も思う存分学べる教育環境の整備・充実が図られているか	5	4	3	2	1
16. 地域学習 子どもたちの地域への愛着を育む、地域活動への参加機会や地域の産業、生活、文化、歴史などを学ぶ環境が充実しているか	5	4	3	2	1
【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	よい	どちらかといえ	どちらかといえ	不満	わからない
17. 市民協働 ※1 市民誰もが、知識や経験、個性を生かし、様々な社会参加ができる機会や場があるか ※1 市民・市民活動団体・企業・行政等が、お互いの長所を生かし役割を分担した上で対等の立場で協力し合うこと	5	4	3	2	1
18. 地域コミュニティ 町内会活動など地域コミュニティの活性化が図られているか	5	4	3	2	1
19. 広報広聴 市政に関する情報の公開や市民からの意見・提案の募集、市民参加のイベントなど市政への市民参画が図られているか	5	4	3	2	1
20. スポーツ・文化・芸術 多様なスポーツ、文化・芸術に触れる機会や活動する場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
21. 生涯学習 生涯を通じて、好きなこと、得意なことを学習でき、それらを地域社会で生かせる機会や場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
22. 地域福祉 地域や隣近所で互いに支えあい、助け合う体制が整っているか	5	4	3	2	1
23. 高齢者福祉 介護予防対策や介護サービスの充実、質の確保・向上など高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる環境が整っているか	5	4	3	2	1
24. 障がい者福祉 障がい者差別の解消や就労等社会参加の促進など障がい者の生活を支える環境が整っているか	5	4	3	2	1
25. 健康づくり 生活習慣病予防対策、健診体制や健康相談等、健康に暮らすための支援体制が充実しているか	5	4	3	2	1
26. 医療 必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制が充実しているか	5	4	3	2	1
27. 男女共同参画 家庭や地域、職場において、男女が共に個性と能力を発揮できているか	5	4	3	2	1
【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【V. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	よ い	ど も か い い	ど も か い い	不 満	わ か ら な い
28. 環境活動 温室効果ガス排出量の削減に向けた普及啓発等、環境負荷が少ないまちづくりへの取組みが進んでいるか	5	4	3	2	1
29. 5R ※1 (資源の有効利用) ごみ減量、リサイクルの推進等、ごみの発生を抑え、資源を有効に循環させる取組みが進んでいるか ※1 「Reduce (発生抑制)」「Reuse (再使用)」「Recycle (再生利用)」「Refuse (断る)」「Repair (修理)」の頭文字をとった言葉	5	4	3	2	1
30. エネルギー 省エネルギーの推進や環境にやさしい再生可能エネルギー ※2 の普及に向けた取組みが進んでいるか ※2 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1
31. 自然環境 豊かな自然が適正に保全され、それらと身近にふれあえる環境が整っているか	5	4	3	2	1
32. 防災 ライフラインの確保や情報の共有化、消防、救急体制の整備、自然災害対策等、防災に対する備えができていているか	5	4	3	2	1
33. 防犯・交通安全・消費者対策 犯罪の未然防止、通学路や生活道路等の交通安全対策、消費者対策により、安心して生活することができているか	5	4	3	2	1
34. ユニバーサルデザイン ※3 障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが快適に暮らすことができる取組みが進んでいるか ※3 障がいの有無や年齢、言語、性別などの違いに関わらず、はじめからできるだけ多くの人が使いやすい製品や建物、都市環境、サービス等の提供を目指そうという考え方のこと	5	4	3	2	1
35. 交通・道路 生活に必要な拠点や施設へのアクセスが容易であるなど、利便性の高い交通体系が整っているか	5	4	3	2	1
36. 計画的な都市づくり 「こおりやま広域圏」の玄関口として、中心市街地の活性化や地域特性を活かした魅力的なまちとなっているか	5	4	3	2	1
37. 住環境 公園や生活道路、上下水道等が整備されているとともに、景観への配慮等、住環境が整っているか	5	4	3	2	1
【V. 暮らしやすいまちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・ 復興、創生の更なる推進)	よ い	ど も よ い と い え	ど も よ い と い え	不 満	わ か ら な い
38. 行政経営 ICT ※1 の積極的な活用、官民連携による様々な手法やノウハウの柔軟な導入など先進的で効率的な行政経営の改善が図られているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1
39. セーフコミュニティ ※2 安全・安心なまちづくりのため、地域全体でセーフコミュニティ活動を推進しているか ※2 WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証制度で「けがや事故」をデータから客観的に分析し、地域住民や団体、行政等による連携・協働により「けがや事故」の予防に取り組んでいる地域のこと	5	4	3	2	1
40. 連携中枢都市圏構想 ※3 「連携中枢都市圏」の推進により、圏域全体の経済活性化や広域的な課題解決が図られているか ※3 一定要件を満たす連携中枢都市と近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想	5	4	3	2	1
41. SDGs ※4 2015年に国連で採択された、2016年から2030年までの国際的な「持続可能な開発目標」であるSDGsの取組みが進んでいるか ※4 SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の頭文字を集めた言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています。	5	4	3	2	1
42. DX推進 行政手続きのオンライン化、キャッシュレス化などをはじめとした行政のDXが推進されているか	5	4	3	2	1
43. 復興、創生の更なる推進 本市産品等の販路拡大、風評の払しょくに継続して取組むとともに、誰もが本市の将来に希望と誇りを持てるシビックプライドの醸成や地方創生の更なる推進が図られているか	5	4	3	2	1
【基盤的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

4 郡山市のこれからの取組みについて

現在、本市が進めているまちづくり（取組み）について、以下の1～43の項目の中から特に重要と思われるものを5つ選び、その番号に○印をつけてください。

【Ⅰ. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野) 1. 地域産業 2. 創業・起業支援 3. 産業創出・企業誘致 4. 雇用・就労 5. 農林業 6. 特産品ブランド化 【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野) 7. 都市間交流・国際交流 8. 歴史・文化遺産 9. 音楽のまちづくり 10. 観光 11. シティプロモーション・関係人口 【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野) 12. 子育て 13. 乳幼児教育・家庭教育 14. 青少年健全育成 15. 学校教育 16. 地域学習 【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) 17. 市民協働 18. 地域コミュニティ 19. 広聴広報 20. スポーツ・文化・芸術 21. 生涯学習 22. 地域福祉 23. 高齢者福祉 24. 障がい者福祉 25. 健康づくり 26. 医療 27. 男女共同参画	【Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) 28. 環境活動 29. 5R(資源の有効利用) 30. エネルギー 31. 自然環境 32. 防災 33. 防犯・交通安全・消費者対策 34. ユニバーサルデザイン 35. 交通・道路 36. 計画的な都市づくり 37. 住環境 【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs・DX推進・復興・創生の更なる推進) 38. 行政経営 39. セーフコミュニティ 40. 連携中枢都市圏構想 41. SDGs 42. DX推進 43. 復興・創生の更なる推進
---	--

5 誰一人取り残されない ユニバーサルデザインのまちづくりについて

「ユニバーサルデザイン」とは、障がいの有無や年齢、言語、性別等の違いに関わらず、はじめから、できるだけ多くの人が使え・伝わるデザインのことです。

全国、特に地方においては、人口減少・少子高齢化が進んでおり、外国籍の方も増えています。子どもや高齢者、障がい者など、多くの人々が安全・安心に日常生活を送ることができる社会をつくるには、誰一人取り残されないユニバーサルデザインの考え方がますます重要になっています。

本市においても、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組んでいます。今後の施策の参考とするため、以下の質問にお答えください。

- (1) あなたは「ユニバーサルデザイン」を知っていますか。

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|-----------------------|
| 1. 知っている |
| 2. おおよそ知っている |
| 3. 言葉は知っているが、考え方は知らない |
| 4. 知らない |

- (2) あなたは、周りの人の「思いやりの心」を感じることがありますか。

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|----------|
| 1. よくある |
| 2. たまにある |
| 3. あまりない |
| 4. ない |
| 5. わからない |

- (3) 市内にある施設（市役所などの公的施設やスーパーなどの民間施設）は、利用しやすいものになっていると思いますか。

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|------------|
| 1. 思う |
| 2. やや思う |
| 3. あまり思わない |
| 4. 思わない |
| 5. わからない |

- (4) 市内の道路や歩道、駅やバスターミナルなどは、安心して移動し、利用できるものになっていると思いますか。

あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|------------|
| 1. 思う |
| 2. やや思う |
| 3. あまり思わない |
| 4. 思わない |
| 5. わからない |

6 あなたご自身について

あなたご自身のことについてお伺いします。

(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

(1) 性別＜性自認は？＞ (あてはまる番号1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

(2) 年齢 (あてはまる番号1つに○)

1. 18歳～19歳	5. 50歳～59歳
2. 20歳～29歳	6. 60歳～69歳
3. 30歳～39歳	7. 70歳以上
4. 40歳～49歳	

(3) 職業 (あてはまる番号1つに○)

1. 農業	5. 主婦・主夫
2. 給与所得者	6. 学生
3. 自営業者	7. 無職
4. パート・アルバイトなど	8. その他

(4) 郡山市での居住年数 (あてはまる番号1つに○)

1. 1年未満	4. 10～19年
2. 3年未満	5. 20～29年
3. 3～9年	6. 30年以上

(5) 居住形態 (あてはまる番号1つに○)

1. 持ち家	4. 社宅、公舎など
2. 民間の借家・アパート	5. 間借、同居、寮など
3. 公営住宅	

(6) 現住所の直前に住んでいたところ (あてはまる番号1つに○)

1. 生まれてからずっと現住所に住んでいる	4. 東京圏 ※1
2. 郡山市内の別の地域	5. その他 ※2 ()
3. 郡山市外で福島県内	

※1 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県 ※2 福島県、東京圏以外の居住地

(7) 上の質問(6)で、「2.～5.」に○を付けた方にお聞きします。

移転先として現住所を選んだ理由は何ですか？ (あてはまる番号全てに○)

1. 生まれ育った場所だから	11. 病院・医院が近くにあるから
2. 自分や家族の持ち家だから	12. 住まいの周辺が静かだから
3. 寮や社宅に住むから	13. 自然環境が身近にあるから
4. 親や子、親族、友人などがいるから	14. まちなみや景観がよいから
5. 家賃や住宅の価格が手ごろだから	15. 賑わいや活気があるから
6. 交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから	16. 犯罪が少ないと感じているから
7. 日ごろの買い物などが便利だから	17. 街のイメージがよいから
8. 保育所・公園等の子育て環境がよいから	18. 郡山が好きだから
9. 学校などの教育環境がよいから	19. 市民の気質や感性が自分と合うから
10. 文化・スポーツ施設などが近くにあるから	20. その他 ()

(8) お住まいの地域 (あてはまる番号1つに○)

1. 旧郡山東部 (芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など)
2. 旧郡山西部 (駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外)
3. 富田
4. 大槻
5. 安積
6. 三穂田
7. 逢瀬
8. 片平
9. 喜久田
10. 日和田
11. 富久山
12. 湖南
13. 熱海
14. 田村
15. 西田
16. 中田

◆市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。◆

以上で、質問は終わりです。皆さま方からいただきました貴重なご回答・ご意見等は、郡山市の今後の市政運営に反映させていきたいと考えております。

お忙しいところご協力をいただきありがとうございました。

※ お手数ですが、ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)をお使いのうえ、切手を貼らずに**6月14日(金)**までに、郵便ポストに投函してください。

調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

2024 年度 市民意見リーダー
調査結果報告書

令和 6 年 9 月 発行

郡山市政策開発部広聴広報課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

電話番号 024(924)2061

E-Mail:kocho@city.koriyama.lg.jp